

文部科学省認可通信教育

学習の手引き

スクーリング履修科目編

2024



ともに学び ともに成長する

神戸親和大学
KOBE SHINWA UNIVERSITY

通信教育部

『学習の手引き 2024』の 「テキスト履修科目編」と 「スクーリング履修科目編」の 分冊について

『学習の手引き』は、「テキスト履修科目編」と「スクーリング履修科目編」に分冊しています。分冊にあたり、下記内容について注意してください。

1. テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞〔例：教育学科・児童教育学科専門教育科目群「体育」、福祉臨床学科専門教育科目群「人体の構造と機能及び疾病」など〕については、テキスト履修科目分とスクーリング履修科目分をそれぞれ冊子を分けて掲載しています。レポート作成・提出、科目修了試験受験、スクーリング受講の際には、該当の『学習の手引き』を必ず確認してください。
2. 実習科目については、「テキスト履修科目編」に掲載しています。ただし、スクーリング履修科目である「教育実習事前・事後指導（初等）」「特別支援学校教育実習事前事後指導」「保育実習指導ⅠA（保育所）」「保育実習指導Ⅱ（保育所）」「保育実習指導ⅠB（施設）」は、「スクーリング履修科目編」に掲載していますので注意してください。

＜10月入学生への「学習の手引き」配付について＞

10月入学生には、『学習の手引き2024 テキスト履修科目編』（レポート課題有効期限：2024年10月～2025年10月レポート提出受付期間。詳しくは、『親和通信』にて連絡。）を2024年9月（予定）に配付します。2024年4月～2025年2月開講のスクーリング履修科目については、本冊子掲載の内容となります。なお、2025年4月～2026年2月開講分の『学習の手引き2025 スクーリング履修科目編』は2025年3月（予定）に配付します。

テキスト購入の際は、「テキスト購入について」（はじめにⅢ）を確認してください。

目 次

はじめに.....	2
Ⅰ 『学習の手引き スクーリング履修科目編』について	
Ⅱ カリキュラム改正に伴う開講科目名の変更および科目の読み替えについて	
Ⅲ テキスト購入について	
Ⅳ 参考文献について	
Ⅴ スクーリング履修科目 学習の流れ	
Ⅵ スクーリング受講にあたって	
Ⅶ 単位数と必要な学習時間について	
Ⅷ 学習における不正な行為、不適切な学習態度に対する懲戒処分等について	
Ⅸ 気象警報等発表時などのスクーリングの取り扱いについて	
Ⅹ カリキュラムマップ	
科目別索引（五十音順）.....	12
共通教育科目群.....	15
教育学科・児童教育学科専門教育科目群.....	27
福祉臨床学科専門教育科目群.....	101
・ 校舎配置図.....	105
・ テキスト購入 F A X（郵送）申込書	

はじめに

I 『学習の手引き スクーリング履修科目編』について

『学習の手引き スクーリング履修科目編』には、スクーリング履修科目を共通教育科目群、教育学科・児童教育学科専門教育科目群、福祉臨床学科専門教育科目群に分け、科目コード順に掲載しています。

スクーリング履修科目については、指定期間内に受講申請をしたうえで、本学が指定する日時・場所で、教員から授業を直接受け、科目ごとに定められた授業時間すべてに出席しなければなりません。そして、担当教員が科目ごとに『学習の手引き スクーリング履修科目編』で定める「評価基準」（試験、発表等の結果）により評価（合格・不合格）され、合格すれば単位を修得することができます。

本冊子には、テキスト、科目の目的、到達目標、授業計画・方法、授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間、受講上の注意事項（持参物など）、評価基準、参考文献等を記載しています。スクーリングを受講するための申請方法等については、『学生要覧』、『親和通信』で確認してください。

II カリキュラム改正に伴う開講科目名の変更および科目の読み替えについて

カリキュラム改正が行われた場合、指定年度から新しい科目名での開講となります。カリキュラム改正後の新しい科目名で開講するスクーリングを受講・合格することにより、カリキュラム改正前の旧科目の合格とします。

対象科目については、科目別索引 (p.12) の＜注意：カリキュラム改正について＞、『学生要覧』を参照してください。

III テキスト購入について

テキストは、各自で必要分を実費購入することになります。2024年4月～2025年2月開講のスクーリング履修科目のテキストを購入する際は、それぞれの科目について本冊子のテキスト欄記載分を購入してください。テキストについては、2024年1月現在のものになっており、期中に新版が発行される場合がありますので、購入の際には新版を購入するようにしてください。

本学大学生協への注文の際は、本冊子巻末の「テキスト購入FAX(郵送)申込書」を使用のうえ、直接本学大学生協に注文してください。※用紙が不足する場合は、各自でコピーを取って使用してください。また、「親和deネット」の「お知らせ」からダウンロード（プリントアウト）することもできます。

一般書店・ネット通販での購入など購入方法は他にもありますが、本学大学生協のみでの取り扱いとなるテキストもありますので注意してください。

※ほとんどが専門書のため、本学大学生協や一般書店等に在庫がなく、取り寄せとなります。取り寄せには日数（2週間程度）がかかることがありますので、購入に際しては、日程に余裕をもってください。（スクーリング受講の際は、特に注意してください。）

●テキスト購入に関する問い合わせ先●

〒651-1111 兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13番1号 学生会館地下1階
神戸親和大学生協 書籍部（担当：木村） URL: <https://shinwa.u-coop.net>
TEL.078-595-0303 FAX.078-595-0565

＜テキストの購入は計画的に＞

まず、自分で卒業・修了までの学習計画を立て、その中で本学年の学習計画をさらに練り、本学年にスクーリング受講する科目のテキストだけを購入してください。なお、次学年以降、テキストが変更になることもありますので、注意してください。

(例)

科目コード	10000	科目名 [単位数/学習時間]	通信教育入門 [2単位/90時間]	科目担当	小川内 哲生
テキスト	●『自立学習の手引き』 私立大学通信教育協会				
ISBN	生協のみで販売	本体価格(円) (2024年1月現在)	510	生協 テキストNo.	24001
		生協へお申し込みください			

一般書店等で購入する際は、確認のために必要となります。

本学大学生協で購入の際は、必ず記入してください。

本学大学生協のみでの販売となります。

【10月入学生の「学習の手引き」について】

2024年4月～2025年2月開講のスクーリング履修科目については、本冊子の内容で開講されます。

なお、『学習の手引き スクーリング履修科目編』は来年3月（中旬）に更新・配付します。10月入学生は、テキスト購入の際は十分注意してください。

スクーリング受講の際は、次の（例）を参考に受講計画を立てて、テキストを購入してください。

（例）

- ・2024年4月～2025年2月スクーリング開講分 本冊子 記載内容
- ・2025年4月～2026年2月スクーリング開講分 『学習の手引き2025 スクーリング履修科目編』 記載内容

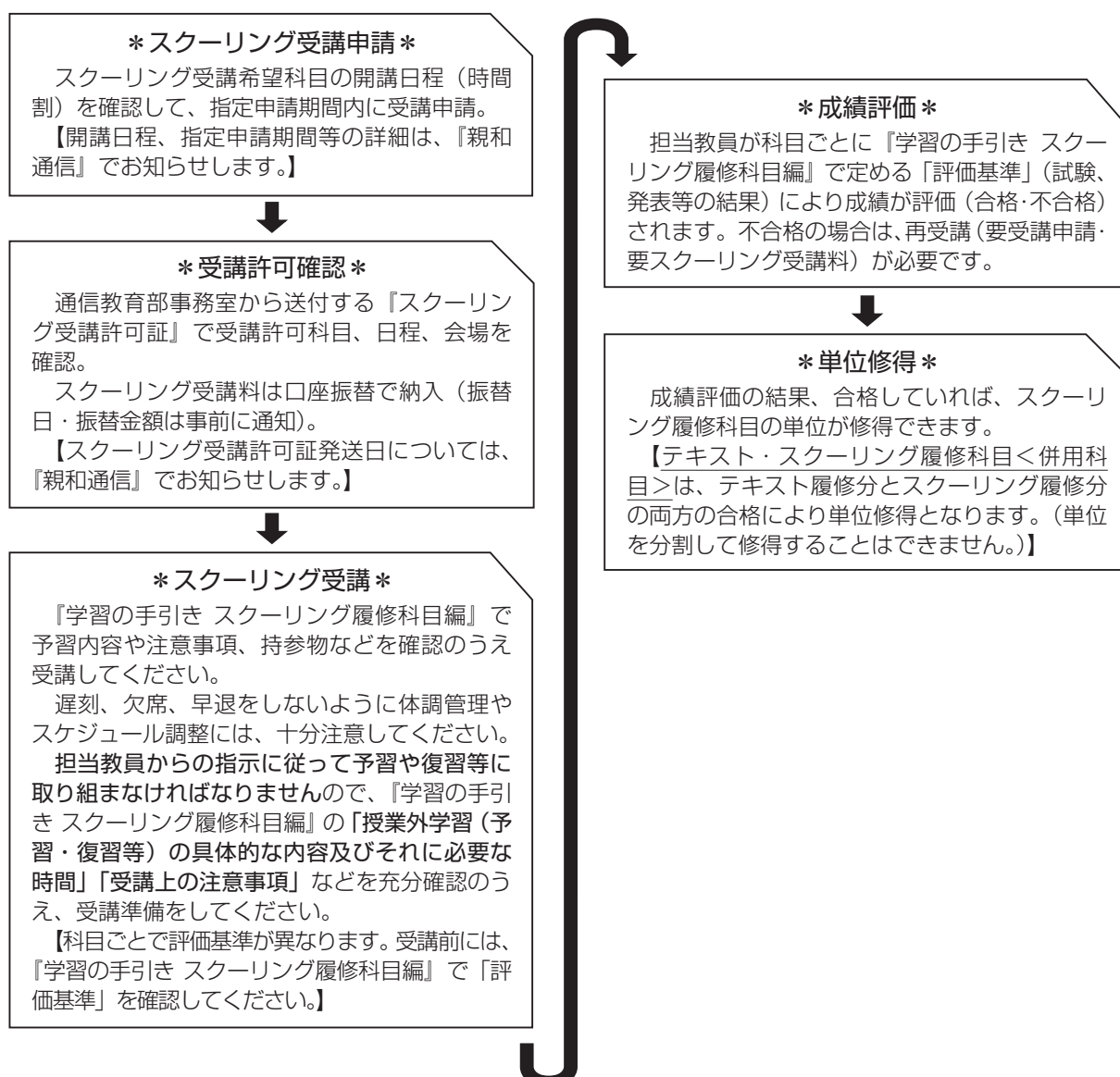
テキスト履修科目については、2024年10月レポート提出受付期間まで『学習の手引き2023 テキスト履修科目編』の課題が有効です。

※卒業判定・実習受講資格判定や単位認定処理を受けるためのスクーリング受講最終期限が定められています。最終期限については、『親和通信』でお知らせしますので、必ず確認してください。

Ⅳ 参考文献について

本学図書館に蔵書がありますが、科目修了試験前などは貸出中のことが多く、予約待ちになることをあらかじめご了承ください。本学図書館利用については、『学生要覧』を参照してください。

Ⅴ スクーリング履修科目 学習の流れ



Ⅵ スクーリング受講にあたって

1. 持ち物

- ①学生証または科目等履修生証<出席確認時に提示できない場合は、スクーリング受講が認められないことがあります。>
- ②スクーリング受講許可証（該当期間のもの）<事前に内容を確認してください。>
- ③テキスト<予習（含む事前課題作成）などで必要となりますので、計画的に購入してください。>
- ④筆記用具（ノート、鉛筆、黒インクボールペン、消しゴムなど）
- ⑤健康保険証またはその写し<受講に際して宿泊される方は、急な発病等に備えての携帯を勧めます。>
- ⑥本冊子、『親和通信』等で科目ごとに事前に指示があった提出物・持参物<各自で事前に確認してください。>

2. 授業外学習（予習・復習等）について

スクーリング履修科目には予習（含む事前課題作成）や復習等が必要です。本冊子には、「授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間」を掲載していますので、担当教員からの指示に従って予習や復習等に取り組まなければなりません。また、事前に課題を作成し、スクーリング当日に提出するよう指示がある場合は、指示どおりに課題提出ができなければ、不合格になることもあります。スクーリング受講後には、スクーリングで学んだことをより一層深めるために復習が必要となります。スクーリング受講希望科目については、本冊子の内容を充分確認し、テキスト購入・予習（含む事前課題作成）等に遺漏がないよう留意してください。授業外学習に必要な時間（予習・復習等）については、各自のライフスタイルや学習状況等に応じて確保し、積極的かつ自主的に取り組んでください。（Ⅶ単位数と必要な学習時間について を参照してください。）

3. 出席確認

授業の開始時間に教室内で出席確認をします。学生証または科目等履修生証、スクーリング受講許可証を用意してください。遅くとも授業開始5分前には、授業を受ける準備をしてください。スクーリング受講を許可された科目は、すべての授業に出席しなければなりません。しかし、やむを得ない事情（忌引・病気等）で欠席する場合を想定して、出席ポイント制を設けています。スクーリング出席ポイントが不足（規定最大ポイントの5/6以上必要）すると、当該科目の成績評価を受ける資格がなくなり、再受講（要受講申請・要スクーリング受講料）しなければなりません。＜出席免除はありません。＞

※授業開始（出席確認後）30分以上の遅刻は欠席となります。また、授業終了の30分以上前の早退についても欠席となります。欠席するとポイントは加算されません。

スクーリング受講前、スクーリング期間中は体調を十分に整えてください。また、自身のスケジュール調整にも注意してください。

4. 受講上の注意

- ①学生証（科目等履修生証）とスクーリング受講許可証は、必ず携帯してください。学生証（科目等履修生証）を提示できない場合、受講が認められないことがあります。
- ②スクーリングには遅刻・早退・欠席のないよう、すべての時間に出席してください。
- ③スクーリング会場は、全面禁煙です。
- ④スクーリング会場への子ども連れでの入構（入室）は許可できません。
- ⑤授業中は、携帯電話等の電源は必ず切ってカバンにしまってください。
- ⑥私語など授業の進行の迷惑になる行為および他の学生や教職員に迷惑になる行為は禁止します。
- ⑦学生の車両（自動車、自動2輪車、原動機付自転車、自転車等）での通学は、禁止しています。通学時は、公共交通機関を利用してください。
- ⑧手荷物・貴重品は各自管理し、必要以外の貴重品は持参しないでください。万一、紛失・盗難が発生しても、本学では責任は負えません。

5. 遠隔授業について

一部の科目については、遠隔授業＋対面授業形式で開講します。この開講形式を「遠隔＋対面スクーリング」と呼びます（2024年度は「教科教育法・図画工作」と「教科教育法・体育」を予定）。「遠隔＋対面スクーリング」は、遠隔授業のみ又は対面授業のみの受講では単位修得できません。授業方法の詳細については、当該科目のスクーリング受講許可者にお知らせします。

なお、遠隔授業では、Microsoft Teams＜オンライン（同期型）授業（Webカメラ・マイクが必要）、授業資料の配付、課題の提出、小テスト・質疑応答などができるシステム＞を利用します。

6. スクーリング受講の結果等について

当該科目の評価基準にもよりますが、授業時間中にスクーリング試験等が行われます。なお、試験方法（筆記試験・発表・課題提出など）は科目により異なります。実施方法の詳細は、担当教員の指示に従ってください。スクーリング受講の結果（「合格」または「不合格」の表示）は、「親和deネット」でお知らせします。（結果発表（予定）日は、『親和通信』月別予定表参照。）なお、「スクーリング申請票」で受講申請された場合に限り、「スクーリング結果通知書」を郵送します。

不合格・出席不足の場合は、その科目について再度スクーリング受講し（要スクーリング受講料）、合格しなければなりませんので、当該科目のスクーリング申請期間内にあらためて受講申請する必要があります。＜出席免除はありません。＞

VII 単位数と必要な学習時間について

1. 単位数と学習時間数

文部科学省が定める大学通信教育設置基準により、本学通信教育部では単位制としています。「単位」とは、科目を修了するために必要な学習量（時間数）となります。

本学通信教育部では、すべての授業科目に対して、学習時間数に応じて単位数を設定し、45時間の学習時間をもって1単位と定めています。

スクーリング履修科目では、スクーリング受講時間だけではこの要件を満たすことができません。スクーリング受講時間だけでなく、授業外学習（スクーリング受講前の予習、受講後の復習など）の自主的な学習時間も科目を修了するために必要となります。

本冊子の「授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間」を必ず確認のうえ、必要となる授業外学習（スクーリング受講前の予習、受講後の復習など）に積極的かつ自主的に取り組んでください。

授業外学習に必要な時間（予習・復習等）については、各自のライフスタイルや学習状況等に応じて確保するように努めてください。

2. 授業時間と授業外学習時間

スクーリング履修科目には、主に3日間開講（2単位）と2日間開講（1単位）があります。本学通信教育部では、原則として3日間開講科目（2単位）の授業（スクーリング）時間数は30時間、2日間開講科目（1単位）の場合は15時間としています。（※1回90分授業を2時間とみなします。）

それぞれの科目を修了するために必要な学習時間数については、原則として下表のとおりとなります。

3日間開講科目（2単位）の場合		
予習 30 時間	スクーリング受講 30 時間	復習 30 時間

$$\text{※} \boxed{\text{予習30時間}} + \text{スクーリング受講30時間} + \boxed{\text{復習30時間}} = \underline{90\text{時間}} = \underline{2\text{単位}}$$

3日間開講科目（1単位）の場合		
予習 7.5 時間	スクーリング受講 30 時間	復習 7.5 時間

$$\text{※} \boxed{\text{予習7.5時間}} + \text{スクーリング受講30時間} + \boxed{\text{復習7.5時間}} = \underline{45\text{時間}} = \underline{1\text{単位}}$$

2日間開講科目（1単位）の場合		
予習 15 時間	スクーリング受講 15 時間	復習 15 時間

$$\text{※} \boxed{\text{予習15時間}} + \text{スクーリング受講15時間} + \boxed{\text{復習15時間}} = \underline{45\text{時間}} = \underline{1\text{単位}}$$

VII 学習における不正な行為、不適切な学習態度に対する懲戒処分等について

本学通信教育部学生及び科目等履修生の学習（テキスト履修・スクーリング履修）における下記の不正な行為、不適切な学習態度には、本学では、懲戒処分、厳重注意や履修登録の取り消しといった厳しい態度で臨みます。真摯な態度で学習に取り組んでください。

<注意：スクーリング受講時の不適切な学習態度について>

スクーリング受講時の次のような行為などは、不適切な学習態度になり、懲戒処分等の対象となる場合があります。

- ・授業中に私用でスマートフォン等の通信機器を使用したり、私語をするなどの行為。
 - ・出席ポイントを計算し、意図的に欠席、遅刻、早退する行為。
 - ・授業時間中に正当な理由なく教室から入退室する行為。
 - ・他の受講者への迷惑になる言動。
 - ・第三者が作成したものを流用して作成したと推定される課題を提出する行為。
- など

学生懲戒規程<抜粋（『学生要覧』に全文掲載）>

（懲戒の対象となる行為）

第4条 懲戒の対象とする行為は、次の各号に掲げるものとする。

- （4）通信教育部におけるレポート、科目修了試験、スクーリング試験における不正行為
- （9）その他学生の本分に反する行為

2 前項各号につき、別に規程が定められている場合、その規程にしたがう。

（懲戒の種類）

第5条 学則及び通信教育部規程に定める懲戒の種類は、次のとおりとする。

- （1）退学は、学生としての身分を剥奪するものとする。
- （2）停学は、一定期間、学生の教育課程の履修及び課外活動等を停止するものとする。
- （3）譴責は、学生の行った行為の責任を確認し、その将来を、書面をもって戒めるものとする。

通信教育部学生および科目等履修生の学習（テキスト履修・スクーリング履修）における不正行為に対する取扱要項<抜粋（『学生要覧』に全文掲載）>

（処分の対象となる不正行為）

第4条 不正行為の種類は、次の各号のとおりとする。

- （1）科目修了試験時及びスクーリング試験時にカンニングペーパー、机上・手掌等への書き込み、又はこれに類するものを用いて答案を作成する行為。
- （2）科目修了試験時及びスクーリング試験時に他人の答案を見る行為、他人に答案を見せる行為、若しくは答案用紙を交換する行為。インターネット等を利用した同様の行為（含む公開・提供する行為）。
- （6）科目修了試験時及びスクーリング時に教職員からの指示、注意に従わない行為、暴言行為、暴力行為。
- （7）科目修了試験における代理受験、スクーリングにおける代理受講。
- （8）その他、前各号の一つに類すると認められる行為。

（履修の取扱い）

第5条 不正行為を為した学生及び不正行為に関与した学生の履修の取り扱いについては、次の各号とする。

- （3）スクーリングで不正行為があった場合は、不正行為のあった当該月に受講したすべての科目の履修を無効とする。無効となった科目は、定められた時期に再度履修登録を行い、翌学年での履修となる。

IX 気象警報等発表時などのスクーリングの取り扱いについて

「気象警報等発表時」または「災害等による交通機関途絶の場合」のスクーリングの取り扱いについては、別に定めます。詳しくは、『学生要覧』（第7章）を参照してください。

X カリキュラムマップ

「カリキュラムマップ」とは、科目区分の下に科目を構成し、科目区分間、科目間の関係性や配当年次等を記し、科目と修得できる知識・能力との対応関係等を示したもので、科目に係る体系性・有機的連携を確保するためのものです。

学科のディプロマ・ポリシーに基づいて、各科目の学習によって『修得できる力』を表記していますので、確認のうえ学習を進めてください。

1. 教育学科・児童教育学科 カリキュラムマップ

					学習によって「修得できる力」													
					実践力			専門性				共生力						
												関係性			社会貢献			
授業科目名 （※【 】はカリキュラム改正により、入学時科目名から科目名を変更して開講。）		単位数		配当年次	使命感・責任感	互助的精神（人間愛）	教育・保育の実践力	専門的知識	専門的技能	主体的な思考力・判断力	創造的な表現力	豊かな社会性	人間関係形成力	他者との協働性	国際的な視野	地域社会に貢献する力		
		テキスト履修	スクーリング履修															
共通教育科目群	ベイシック・スキル	通信教育入門	2		1	○			○	○	○	○						
		日本語表現	2		1				○	○	○	○	○	○	○			
		英語コミュニケーションⅠ		1	1				○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		英語コミュニケーションⅡ		1	1				○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		英語	2		1				○	○	○					○		
		基礎体育学		1	1				○	○	○		○	○	○			
		健康行動学	2 or 2		1	○			○	○	○							
		情報基礎	2		1				○		○							
	コモン・センス	日本国憲法	2 or 2		1				○		○						○	
		文学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○		
		心理学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○		
		哲学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○		
		経済学	4		1				○		○						○	
		法学	4		1				○		○						○	
		社会学	4		1				○		○						○	
		地理学	4		1	○			○	○	○						○	○
		文化人類学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○
		数学	4		1				○	○	○							
		生物学	4		1				○	○	○						○	
		栄養学	4		1				○	○	○			○				
	総合学習	多文化社会	2 or 2	2	2	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○
		情報と社会	2 or 2	2	2				○	○	○							
		国際理解教育論	2 or 2	2	2		○	○	○		○		○		○	○		
		環境教育論	2 or 2	2	2	○	○	○	○	○	○		○			○	○	
専門教育科目群	基本科目	教育原理	2 or 2	1	○	○			○		○		○	○	○	○	○	
		教育心理学	2		1				○		○							
		教育哲学	2		3	○	○			○		○		○			○	
		人権教育 【2018年度以前：人権教育の研究】	2		3	○		○	○		○		○	○				○
	演習科目	児童教育学演習Ⅰ【2026年度以降：専門演習Ⅰ】		2	3				○	○	○	○	○	○	○			
		児童教育学演習Ⅱ【2027年度以降：専門演習Ⅱ】		2	4				○	○	○	○	○	○	○			
	基幹科目・発展科目	国語	2		2		○			○		○	○		○			
		算数	2		2				○	○	○		○			○		
		生活	2		2	○			○	○		○		○	○			○
		社会	2		2				○	○		○		○			○	○
		理科		2	2					○	○	○					○	
		家庭	2		2					○	○	○				○		
		外国語（英語）	2		2	○			○	○	○	○	○		○		○	
		体育	1	1	1	○			○	○	○	○	○	○	○	○		
		音楽	1	1	1				○	○	○	○	○			○		
		美術	1	1	1		○		○	○	○	○	○					
		子どもと健康	1	1	1					○	○			○				
		子どもと人間関係	1	1	1					○	○				○			
		子どもと環境	1	1	1					○	○			○				
		子どもと言葉	1	1	1					○	○				○			
		子どもと音楽表現	1	1	2					○	○					○		
		子どもと造形表現	1	1	2					○	○					○		
		子どもと身体表現	1	1	2					○	○					○		
		児童心理学	2		2				○	○	○				○	○		
		幼児心理学	2		2				○	○	○	○						
		学習心理学	2		3					○		○						
		健康心理学	2		3					○		○						
		教育臨床心理学	4		3	○			○		○				○	○		
		発達心理学	2		2				○	○		○						

					学習によって『修得できる力』													
					実践力			専門性					共生力					
													関係性			社会貢献		
授業科目名 （※【 】はカリキュラム改正により、入学時科目名から科目名を変更して開講。）				単位数	配当年次	使命感・責任感	互助的精神（人間愛）	教育・保育の実践力	専門的知識	専門的技能	主体的な思考力・判断力	創造的な表現力	豊かな社会性	人間関係形成力	他者との協働性	国際的な視野	地域社会に貢献する力	
テキスト履修	スクーリング履修																	
専門教育科目群	基幹科目・発展科目	子ども家庭支援の心理学	2		1	○	○	○	○	○	○				○			○
		子どもの理解と援助 【2018年度以前：保育の心理学】		1	1			○	○		○			○	○			
		社会心理学	2		2		○		○	○	○			○	○			○
		青年心理学	2		2		○		○	○	○			○	○			
		家族心理学	2		2		○		○	○	○			○	○			○
		教職論	2		1	○	○	○	○	○	○				○	○		○
		外国語活動教育論<2018年度以前入学生対象>	2		1			○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
		幼児教育原理	2		1	○	○		○		○			○	○	○	○	○
		初等教育原理	2		2	○	○		○		○			○	○	○	○	○
		教育法規	2		3	○			○	○	○			○				
		教育制度<2018年度以前入学生対象>	2		3	○			○	○	○			○	○			
		教育社会学	2		3				○		○							○
		教育方法論	2		3			○	○	○	○							
		特別支援教育入門（初等）		1	2	○		○	○									
		教育課程論（初等）	2		3	○	○		○		○			○				○
		幼児教育課程論	2		2	○		○	○	○								
		道徳教育の指導法（初等） 【2018年度以前：道徳教育の研究（初等）】	2		3	○	○			○	○	○		○	○	○	○	○
		総合的な学習の時間の指導法（初等）	2		2	○		○	○	○	○			○		○	○	○
		特別活動の指導法（初等） 【2018年度以前：特別活動の研究（初等）】	2		3	○		○		○	○			○	○	○		○
		子ども家庭福祉Ⅰ 【2020年度以前：児童福祉論Ⅰ】	2		3	○	○	○	○	○	○					○		○
		子ども家庭福祉Ⅱ 【2020年度以前：児童福祉論Ⅱ】	2		3	○	○	○	○	○	○					○		○
		保育者論	2		1	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○
		保育原理	2		1	○	○		○		○			○				○
		養護原理 【2019年度以前：社会的養護Ⅰ】	2		2	○	○	○	○	○	○			○	○			○
		子どもの保健 【2020年度以前：子どもの保健Ⅰ】	4 【2】		3			○	○	○	○							○
		子どもの健康と安全 【2020年度以前：子どもの保健Ⅱ】		1	3			○	○	○	○							○
		子どもの食と栄養	1	1	3			○	○	○	○	○						○
		教職実践演習（幼・小）		2	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		保育・教職実践演習（幼） 【2022年度以前：保育実践演習】		2	4	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
		教科教育法・国語	2		2	○		○	○	○	○	○	○		○			
		教科教育法・社会	2		2	○		○	○	○	○	○	○	○				○
		教科教育法・算数	2		2	○		○	○	○	○	○	○				○	
		教科教育法・理科		2	3			○	○	○	○	○						
		教科教育法・生活	2		2	○		○	○	○	○	○	○	○	○			○
		教科教育法・音楽		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		教科教育法・図画工作		2	3	○		○	○	○	○	○	○					
		教科教育法・家庭	2		2			○	○	○	○	○				○		
		教科教育法・体育		2	3	○		○	○	○	○	○				○		
		教科教育法・外国語（英語）	1	1	2	○		○	○	○	○	○	○		○		○	
		保育内容（健康） 【2017年度以前：保育内容の研究・健康】	1	1	2	○		○	○	○	○			○				○
		保育内容（人間関係） 【2017年度以前：保育内容の研究・人間関係】	1	1	2		○	○	○	○		○		○	○	○		
		保育内容（環境） 【2017年度以前：保育内容の研究・環境】	1	1	2		○	○	○	○	○							
		保育内容（言葉） 【2017年度以前：保育内容の研究・言葉】	2		2	○	○		○	○			○	○				○
		保育内容（表現） 【2017年度以前：保育内容の研究・表現】		2	2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		保育内容（表現技術A）<2019年度以前1年次入学生：2021年度以前3年次編入学生対象> 【2017年度以前：保育内容の研究・表現技術A】		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		保育内容（表現技術B）<2019年度以前1年次入学生：2021年度以前3年次編入学生対象> 【2017年度以前：保育内容の研究・表現技術B】		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○		

					学習によって『修得できる力』														
					実践力			専門性					共生力						
													関係性			社会貢献			
授業科目名 （※【 】はカリキュラム改正により、入学時科目名から科目名を変更して開講。）				単位数		配当年次	使命感・責任感	互助的精神（人間愛）	教育・保育の実践力	専門的知識	専門的技能	主体的な思考力・判断力	創造的な表現力	豊かな社会性	人間関係形成力	他者との協働性	国際的な視野	地域社会に貢献する力	
テキスト履修	スクーリング履修																		
基幹科目・発展科目 専門教育科目群	保育内容（総論） 【2019年度以前：保育内容の研究・総論】	2		4	○	○	○	○	○										
	教育方法・ICT活用論（初等） 【2021年度以前：教育方法・技術論（初等）】	2		2 【3】				○	○	○	○						○		
	生徒・進路指導論（初等）	2		3	○	○			○			○		○				○	○
	教育相談（初等）	2		3				○		○	○				○	○			
	幼児理解	2		3			○	○	○	○	○				○				
	社会福祉論	2		3	○	○	○	○	○	○	○						○		○
	相談援助<2018年度以前入学生対象>		1	3	○	○	○	○	○	○	○				○				○
	子育て支援 【2020年度以前：保育相談支援】		1	3	○	○	○	○	○	○	○				○				○
	子ども家庭支援論 【2020年度以前：家族援助論】	2		3			○	○	○	○	○						○		○
	乳児保育Ⅰ	1	1	2	○				○	○									
	乳児保育演習		1	2	○					○	○								
	乳児保育論 【2018年度以前：乳児保育Ⅱ】	2		1 【2】	○					○	○	○						○	○
	障害児保育論Ⅰ	1	1	3				○	○	○	○	○						○	○
	障害児保育論Ⅱ	2		3				○	○	○	○	○						○	○
	社会的養護Ⅱ 【2019年度以前：養護内容】	1	1	2	○	○	○	○	○	○	○			○	○				○
	子どもと人権	2		2	○			○	○			○				○	○		○
	現代保育論	2		4				○	○			○			○				○
	西洋教育史	2		3					○			○			○			○	
	日本教育史	2		4					○			○			○				
	社会福祉援助総論	2		3	○	○	○	○	○	○	○								○
	子育て相談・支援の理論と実際	2		4	○	○	○	○	○	○	○						○		○
	児童教育学特殊講義Ⅰ		2	3				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	児童教育学特殊講義Ⅱ		2	4				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	教育実習事前・事後指導（初等）		1	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	教育実習（初等）	実習4		4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	保育実習ⅠA（保育所）	実習2		3	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○		○
	保育実習指導ⅠA（保育所）		1	3	○	○	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育実習ⅠB（施設）	実習2		4	○	○	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育実習指導ⅠB（施設）		1	4	○	○	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育実習Ⅱ（保育所）	実習2		3	○	○	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育実習指導Ⅱ（保育所）		1	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	特別支援教育基礎理論	1	1	1	○				○										
	知的障害児の心理A	1		1				○	○	○							○		
	知的障害児の心理B		1	2				○	○	○							○		
	知的障害児の生理・病理	2		1				○	○	○							○		
	肢体不自由児の心理・生理・病理A	1		1				○	○	○							○		
	肢体不自由児の心理・生理・病理B		1	2				○	○	○							○		
	病弱児の心理・生理・病理A	1		1				○	○	○							○		
	病弱児の心理・生理・病理B		1	2				○	○	○							○		
	知的障害児教育論ⅠA	1		1	○	○	○	○	○	○							○		
	知的障害児教育論ⅠB		1	2	○	○	○	○	○	○							○		
	知的障害児教育論Ⅱ	2		1	○	○	○	○	○	○	○	○					○		
	肢体不自由児教育論A	1		1	○				○										
	肢体不自由児教育論B		1	2	○				○										
	病弱児教育論	2		1	○				○								○		
	視覚障害児の心理・生理・病理		1	1				○	○	○							○		
	聴覚障害児の心理・生理・病理	1		1				○	○	○							○		
	視覚障害児教育指導法		1	2	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○		
	聴覚障害児教育指導法	1		2	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○		
	発達障害児教育論A	1		1	○	○	○	○	○	○							○		
	発達障害児教育論B		1	2	○			○	○	○	○	○					○		
	特別支援学校教育実習事前事後指導		1	4	○			○	○	○	○		○				○		
	特別支援学校教育実習	実習2		4	○			○	○	○	○		○	○			○		
	ボランティア論<2020年度以前入学生対象>	1	1	2	○	○					○	○					○	○	○
	時事問題からみる社会福祉<2020年度以前入学生対象>	1	1	2						○		○			○				○
	公衆衛生論<2020年度以前入学生対象>		2	3						○	○	○							○

2. 福祉臨床学科 カリキュラムマップ

授業科目名					学習によって「修得できる力」									
					価値・原理			専門性			社会への参画			
					対象者理解	倫理観・人権尊重	福祉の知識と技能	社会情勢の把握	対人援助の技術	プレゼンテーション力	コミュニケーションスキル	社会活動への貢献	社会人基礎力	
単位数					配当年次									
テキスト履修	スクーリング履修													
共通教育科目群	ベシツク・スキル	通信教育入門	2		1									○
		日本語表現	2		1						○		○	
		英語コミュニケーションⅠ		1	1						○		○	
		英語コミュニケーションⅡ		1	1						○		○	
		英語	2		1						○		○	
		基礎体育学		1	1								○	
		健康行動学	2 or 2		1			○						
		情報基礎	2		1			○					○	
	コモン・センス	日本国憲法	2 or 2		1		○							○
		文学	4		1									○
		心理学	4		1	○								○
		哲学	4		1	○	○							○
		経済学	4		1				○					○
		法学	4		1			○						○
		社会学	4		1				○					○
		地理学	4		1				○					○
		文化人類学	4		1				○					○
		数学	4		1									○
		生物学	4		1									○
		栄養学	4		1									○
	総合学習	多文化社会	2 or 2	2	2			○						○
		情報と社会	2 or 2	2	2									○
		国際理解教育論	2 or 2	2	2									○
		環境教育論	2 or 2	2	2				○					○
専門教育科目群	基本科目	社会福祉概論	4		1	○	○		○					
		社会保障論	4		2				○					○
		児童福祉論	4		2	○	○	○						
		障害者福祉論	4		2	○	○	○						
		老人福祉論	4		2	○	○	○	○					
		地域福祉論	2		3	○			○				○	
		人体の構造と機能及び疾病	1	1	3	○		○						
		公的扶助論	2		3	○	○		○					
	演習科目	社会福祉学演習Ⅰ		2	3		○	○		○	○		○	○
		社会福祉学演習Ⅱ		2	4		○	○		○	○		○	○
	基幹科目・発展科目	福祉レクリエーション論	2		1	○				○			○	
		福祉コミュニケーション論	2		1	○				○			○	
		社会福祉援助技術論Ⅰ	2	2	2	○	○	○		○				
		社会福祉援助技術論Ⅱ	4		2	○	○	○		○				
		福祉行財政と福祉計画	2		2			○	○					○
		福祉サービスの組織と経営	2		2			○	○					○
		社会調査の基礎	2		3				○					○
		保健医療サービス	2		3	○		○						
		介護概論	2		3	○	○	○		○				
		相談援助演習Ⅰ	2		2					○				
		相談援助演習Ⅱ		4	2					○	○			
		相談援助実習	実習4		3	○	○	○		○	○			○
		相談援助実習指導Ⅰ	1		3	○	○	○		○				○
		相談援助実習指導Ⅱ		3	3	○	○	○		○	○			○
障害児保育論Ⅰ	1	1	3	○	○	○								
障害児保育論Ⅱ	2		3	○	○	○					○			
ボランティア論	1	1	2	○								○		

授業科目名				学習によって『修得できる力』								
				価値・原理			専門性			社会への参画		
				対象者理解	倫理観・人権尊重	福祉の知識と技能	社会情勢の把握	対人援助の技術	プレゼンテーション力	コミュニケーションスキル	社会活動への貢献	社会人基礎力
				単位数 テキスト履修	単位数 スクーリング履修	配当年次						
専門教育科目群	基幹科目・発展科目	福祉と人権		2		2		○	○			
		時事問題からみる社会福祉		1	1	2			○			○
		子育てと社会		2		2			○			○
		子どもと人権		2		2	○	○				
		発達心理学		2		2	○		○			
		社会心理学		2		2	○		○			
		家族心理学		2		2	○		○			
		青年心理学		2		2	○		○			
		家族援助論		2		3	○	○				○
		就労支援サービス			1	3			○			○
		公衆衛生論			2	3			○	○		
		権利擁護と成年後見制度		2		4	○	○			○	
		更生保護制度			1	4	○	○			○	
		社会福祉学特殊講義Ⅰ			2	3			○	○		
		社会福祉学特殊講義Ⅱ			2	4			○	○		
		社会福祉学特殊講義Ⅲ			2	4			○	○		
		社会福祉学特殊講義Ⅳ			2	4			○	○		
		社会福祉学特殊講義A(福祉と女性)		2		2			○	○		
		社会福祉学特殊講義B(福祉と歴史)		2		2			○	○		
		社会福祉学特殊講義C(福祉とボランティア)		2		3			○	○		
		社会福祉学特殊講義D(福祉と国際社会)		2		4			○	○		
		医療福祉論		2		2	○		○			
		海外の福祉		1	1	2			○	○		
		生涯スポーツ学習論		2		2			○		○	
		子どもの食と栄養		2		3	○		○			
		子どもの保健		2		3	○		○			
		養護児童援助論		2		3	○	○	○			
		スポーツ生理学		2		2	○		○			
		スポーツ栄養学		2		2	○		○			
		スポーツ心理学		2		2	○		○			
		体力測定評価		1	1	2	○		○		○	
		スポーツ社会学		2		2	○		○			
		健康運動実践		1	1	3	○		○		○	
		スポーツ健康福祉特論		2		4	○		○		○	
		生涯スポーツ実技演習		1	1	4	○		○		○	

科目別索引

五 十 音 順

<注意：カリキュラム改正について>

本学ではカリキュラム改正を行いました。このため、入学年度・入学学年により、カリキュラムが異なります。『学生要覧』の入学年度・入学学年・コース別の科目表を必ず確認してください。

なお、④欄のカリキュラム改正前科目については、⑤欄の2024年度開講科目として開講しますので、本冊子では⑤欄の科目コード・科目名で掲載しています。

④ カリキュラム改正前科目		⑤ 2024年度開講科目	
科目コード	科目名	科目コード	科目名
20074	養護内容	20162	社会的養護Ⅱ
20119	保育の心理学	20158	子どもの理解と援助
20123	保育内容の研究・健康	20146	保育内容（健康）
20124	保育内容の研究・人間関係	20147	保育内容（人間関係）
20125	保育内容の研究・環境	20148	保育内容（環境）
20127	保育内容の研究・表現	20150	保育内容（表現）
20128	保育内容の研究・表現技術A	20151	保育内容（表現技術A）
20129	保育内容の研究・表現技術B	20152	保育内容（表現技術B）
20131	子どもの保健Ⅱ	20166	子どもの健康と安全
20136	保育相談支援	20167	子育て支援
20140	保育実践演習	20180	保育・教職実践演習（幼）

【エ】	
英語コミュニケーションⅠ	16
英語コミュニケーションⅡ	17
【オ】	
音楽	62
【カ】	
環境教育論	25
【キ】	
基礎体育学	18
教育原理	28
教育実習事前・事後指導（初等）〔小学校〕	72
教育実習事前・事後指導（初等）〔幼稚園〕	71
教科教育法・音楽	39
教科教育法・外国語（英語）	90
教科教育法・図画工作	41
教科教育法・体育	43
教科教育法・理科	37
教職実践演習（幼・小）〔小学校教育実習終了者用〕	60
教職実践演習（幼・小）〔幼稚園教育実習終了者用〕	59
【ケ】	
健康行動学	19
【コ】	
国際理解教育論	24

子育て支援	87
子どもと音楽表現【◆2】	96
子どもと環境【◆2】	94
子どもと健康【◆2】	91
子どもと言葉【◆2】	95
子どもと身体表現【◆2】	99
子どもと造形表現【◆2】	97
子どもと人間関係【◆2】	92
子どもの健康と安全	86
子どもの食と栄養〔児童教育学科〕	67
子どもの理解と援助	83

【シ】	
視覚障害児教育指導法【特支】	55
視覚障害児の心理・生理・病理【特支】	54
肢体不自由児教育論B【特支】	53
肢体不自由児の心理・生理・病理B【特支】	50
児童教育学演習Ⅰ〔間瀬泰尚〕	29
児童教育学演習Ⅱ〔榎藤真織〕	30
児童教育学演習Ⅱ〔眞崎克彦〕	32
児童教育学特殊講義Ⅰ	46
児童教育学特殊講義Ⅱ	47
社会的養護Ⅱ	85
社会福祉学演習Ⅱ〔菊池信子〕	102
障害児保育論Ⅰ〔児童教育学科〕	45
障害児保育論Ⅰ〔福祉臨床学科〕	103
情報と社会	23

【タ】	
体育	36
多文化社会	21

【チ】	
知的障害児教育論ⅠB【特支】	52
知的障害児の心理B【特支】	49

【ト】	
特別支援学校教育実習事前事後指導【特支】	57
特別支援教育基礎理論【特支】	48
特別支援教育入門（初等）	88

【ニ】	
日本国憲法	20
乳児保育演習	84

【ハ】	
発達障害児教育論B【特支】	56

【ヒ】	
美術	65
病弱児の心理・生理・病理B【特支】	51

【ホ】	
保育実習指導ⅠA（保育所）	69
保育実習指導ⅠB（施設）	74
保育実習指導Ⅱ（保育所）	70
保育・教職実践演習（幼）	100
保育内容（環境）	77
保育内容（健康）	75
保育内容（人間関係）	76
保育内容（表現）	78
保育内容（表現技術A）【◆1】	79
保育内容（表現技術B）【◆1】	81

【リ】	
理科	34

【◆1】 児童教育学科2019年度以前1年次入学生・2021年度以前3年次編入学生対象科目

【◆2】 児童教育学科・教育学科2020年度以降1年次入学生・2022年度以降3年次編入学生対象科目

【特支】「特別支援学校教諭1種免許状取得課程」履修者対象科目＜1年次入学時履修許可者のみ＞

共 通 教 育 科 目 群

科目コード	10002	科目名 [単位数/学習時間]	英語コミュニケーションⅠ[1単位/45時間]	科目担当	水田 時男
テキスト	●角山照彦 Andrey Dubinsky 『New Connection Book 1』 成美堂				
ISBN	9784791934119	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	24003

科目の目的

英語コミュニケーションに必要な基礎力の育成を図るのが、本科目の目的である。日常の身近な話題の会話練習、基礎的な文法、語彙知識を学習し、母音と子音、アクセントやイントネーションなど、英語独特の音やリズムを身につける。オーバーラッピングとシャドーイングの練習を繰り返し、リスニング力と会話力の向上を目指す。

到達目標

- ・基本的な英語の4技能（読み・書き・聴き・話す）に重点を置き、さらに語彙・発音に関する知識も習得していく。
- ・英語独特の音の特徴を理解する。
- ・状況に適した英語表現をなるべく自然に使えるようにする。

授業計画

- 第1回 Introduction / Unit 01 Meeting People
- 第2回 Unit 02 Time to eat
- 第3回 Unit 03 Living with Technology / 英語の歌①
- 第4回 Unit 04 Shopping for Clothes
- 第5回 Unit 05 A Helping Hand at Home
- 第6回 Unit 06 Going Places
- 第7回 Unit 07 Not Feeling So Good
- 第8回 Unit 08 The Big Screen / 英語の歌②
- 第9回 Unit 09 How Do You Feel?
- 第10回 Unit 10 All in Good Fun
- 第11回 Unit 11 Game Time / 英語の歌③
- 第12回 Unit 12 Rain or Shine
- 第13回 Unit 13 Eating Out
- 第14回 Unit 14 School Life
- 第15回 まとめ（これまでの振り返り）と確認

授業方法

授業では、実用的な場面で必要となる英語表現及び基本的な英文法の定着を図る。ペアワーク等により受講生同士コミュニケーションをとりながら、英語の楽しさを共有していくとともに、TOEIC Bridge形式の問題に取組み、リスニング能力を高めていく。「英語の歌」では、過去半世紀の間に流行したいくつかのPopsを聞き、その歌詞の意味を考える。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

「受講理由について」「週末の過ごし方」などの質問に、英語 30words 以上で回答するアンケート用紙をスクーリング受講許可時に各自に送付する。これは、各自の英語力を事前に判断し、さらに英語力に応じてクラスを分けることもあるので、期限を守って必ず提出すること。

テキストは音声ファイルをダウンロード／ストリーミングができるようになっているのでそれを繰り返し聞いて、予習・復習に役立ててもらいたい。準備学習として、上記の授業計画に記載の範囲（Unit01-14まで）における Vocabulary は音声ファイルを聞きながら予習をしておくこと。

語学の学習は習慣化することが望ましい。上述の内容を繰り返して、できれば毎日20分間（少なくとも5分間）、英語にふれる時間を確保し、こつこつと継続するよう努めてもらいたい。（学習時間15時間）

受講上の注意事項

- ・テキストは、余裕を持ってスクーリング前に必ず購入し持参すること。
- ・ペアワークを取り入れるので、積極的、協調的な授業参加が望ましい。
- ・各ユニット終了後、確認の小テストを実施するので、ポイントを押さえて理解するよう努めること。

評価基準

- 真摯な受講態度で授業に臨み、授業で学んだ内容を理解していること。
- ・授業での積極性 40%
- ・文法・語彙知識の理解度および状況に応じた英語表現の習得（小テストの結果） 60%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	10003	科目名 [単位数/学習時間]	英語コミュニケーションⅡ [1単位/45時間]	科目担当	平松 さやか
テキスト	● 相羽千州子 藤原真知子 『Hello, English - English for Teachers of Children - 』 成美堂				
ISBN	9784791947973	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	24004

科目の目的

基本的な文法・語法を確認しつつ、英語の4技能（読み・書き・聴き・話す）をバランス良く取り入れて学習していく。「英語コミュニケーションⅠ」と同様に、「コミュニケーション」とは実践的な「聴く・話す」ばかりではなく「読み・書き」も総合的に含めた科目と理解しておく。時間の許す限りディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションも取り入れる。

到達目標

- ・基礎的な英語の4技能（読み・書き・聴き・話す）に重点を置き、さらに語彙・発音に関する知識も習得する。
- ・英語独特の音の特徴を音楽を通して理解する。
- ・状況に適した英語表現をなるべく自然に使えるようになる。
- ・「英語コミュニケーションⅠ」で学んだことをふまえて、本科目でも英語を積極的に使い、学ぶと同時に日本語との違いを意識して取り組む。

授業計画

- 第1回 Unit 1 : ALT's First Visit to Miami Elementary School
- 第2回 Unit 2 : Getting to Know Each Other
- 第3回 Unit 3 : School Lunch
- 第4回 Unit 4 : Play Time
- 第5回 Unit 5 : The First English Class
- 第6回 Unit 6 : Teaching Numbers 1 / Unit 7 : Teaching Numbers 2
- 第7回 Unit 8 : Reflection
- 第8回 Unit 9 : Activities at a Kindergarten
- 第9回 Unit 10 : Growing Plants and Observing the Butterfly Lifecycle
- 第10回 Unit 11 : Making Onigiri and Curry 音楽で英語の発音、リズムを学習
- 第11回 Unit 12 : Making a Town Map
- 第12回 Unit 13 : Introducing Japanese Culture
- 第13回 Unit 14 : Evacuation Drills
- 第14回 Unit 15 : Graduation
- 第15回 Presentation とフィードバック、質疑応答と試験

授業方法

授業では、英語の発音の特徴にも気を配りながら、日常的に使用する英語表現を学習し、受講生が発話できるように繰り返し練習する。ペアワークやグループプレゼンテーションにより、受講生同士が交流を図りやすくしている。洋楽（童謡）やアニメ・映画、英語の絵本など様々なマテリアルを使用しつつ、英語を学ぶ楽しさを見出していく。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

英語 30words 以上で回答するアンケート用紙をスクーリング受講許可時に各自に送付する。これは、各自の英語力を事前に判断し、さらに英語力に応じてクラスを分けることもありうるので、期限を守って必ず提出すること。（とりわけ「英語コミュニケーションⅡ」においては、この作文をもとに授業内でacademic writingを学ぶ。）また、テキストのダウンロード可能な音声部分を繰り返し聞き、予習・復習に役立ててもらいたい。準備学習として、上記の「授業計画」に記載の範囲Unit 1 -15部分に対して毎日20分程度は英語の耳慣らし時間を確保するとよい。（学習時間15時間）

受講上の注意事項

- ・テキストは、余裕をもってスクーリング前に必ず購入し持参すること。
- ・ペアワーク、グループワークを取り入れるので、積極的、協調的な授業参加が望ましい。
- ・スクーリング最終日の試験は、持ち込み不可で行う。

評価基準

- 真摯な受講態度で授業に臨み、授業で学んだ内容を理解していること。
- ・授業でのプレゼンテーションや発表を含む積極性 20%
 - ・文法、語彙知識の理解度および英語表現の習得 60%
 - ・（授業内）提出課題 20%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の❶）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	10005	科目名 [単位数/学習時間]	基礎体育学 [1単位/45時間]		科目担当	椿 武
テキスト						
ISBN		本体価格(円) (2024年1月現在)		生協 テキストNo.		
科目の目的 現代社会は、物の豊かさをわれわれに与えてくれ、運動や労働による身体活動を奪った。また、医療の発達により平均寿命が80余才と超高齢化社会を迎えた。このような社会構造の変革により個々人が考えなければならない問題が山積みされている。健康問題もその一つであり、その一役を担うのが体育・スポーツである。 そこで本科目を通じて、身体は勿論のこと、精神的・社会的健康を学ぶことを目的に、スポーツ実践に取り組んでもらう。 到達目標 ・運動の必要性を考え、自らが積極的に運動に取り組む態度を身につける。 ・運動する上で、自身で安全管理ができるような態度を身につける。 授業計画 第1回 オリエンテーション アイスブレイク 第2回 体ほぐしの運動、体づくり運動 第3回 器械運動①（マット運動） 第4回 器械運動②（鉄棒運動） 第5回 器械運動③（跳び箱運動） 第6回 コーディネーション運動 第7回 ネット型運動①（ブレルボール） 第8回 ネット型運動②（キャッチバレーボール） 第9回 ネット型運動③（ソフトバレーボール or バドミントン） 第10回 ゴール型運動①（ポートボール） 第11回 ゴール型運動②（タグラグビー） 第12回 ターゲット型①（アキュラシー or ディスクゴルフ） 第13回 ターゲット型②（ボッチャ or ペタンク） 第14回 ベースボール型（キックベース or ティーボール） 第15回 まとめ（生涯スポーツを考える）及び確認テスト 授業方法 実技を中心に展開するが必要に応じてグループワークを実施し、活動内容に関する課題について意見を出し合う場を設け双方向的な授業を展開する。 授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 授業は実技が中心となるため、スクーリング受講前 1 週間より、1 日 1 時間程度のウォーキング、ストレッチ等の運動を行い体調管理（動ける体づくり）をしておく。（事前7.5時間） また、スクーリング終了後 1 週間は、運動の習慣付けを目的として 1 日 1 時間程度の運動を継続する。（事後7.5時間） 受講上の注意事項 《持参する物》 運動に適した服装（ジャージ、Tシャツ、ショートパンツ等）、運動靴（屋外用、体育館用）、タオル、飲み物（水分補給用） 評価基準 ・授業への取り組み 60% ・グループワーク 20% ・確認テスト 20% ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。 課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。						

科目コード	10006	科目名 [単位数/学習時間]	健康行動学 [2単位/90時間]	科目担当	平尾 剛
テキスト	● 安部孝 琉子友男 『これからの健康とスポーツの科学 第5版』 講談社				
ISBN	9784065180952	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	24006

科目の目的

わが国の平均寿命はここ数十年で飛躍的に伸び、世界でも有数の健康水準を誇る国となっている。しかし、豊かさがもたらす食べ過ぎや運動不足が引き起こす生活習慣病の増加や、それに伴う国民医療費の高騰など現代社会において多くの問題を抱えている。こうした現状で健康を維持・増進するには然るべき理論を理解し、実践方法を身につけることが必要となる。そこで本科目では、健康の問題を自分自身の生活を振り返ることから始め、今後の生活の中で健康を増進するための考え方を身につけるべく、基本的な知識を学ぶことを目的とする。

到達目標

今日の情報化社会では、健康に関する情報が溢れている。おもにデジタルメディアから届けられるたくさんの健康情報を、キャッチーなコピーに惑わされることなく正否の判断を下すために必要な知識を身につけること。商業ベースのまことしやかな情報に流されない知的体力をつけることが、一つ目の到達目標である。

二つ目は、運動実践への意欲と積極的な態度の素地を身につけること。デジタルメディアの出現など様々な分野での「便利化」は、今も着実に進行中である。身体をそれほど使わなくてもすむ現代社会では、健康を維持するためには運動実践が必要不可欠である。そのためには、多くの人が抱えている「スポーツや体育への苦手意識」を払拭することも必要で、競技力を高めるための運動と、健康を維持・増進するためのそれとは根本的に異なる。この違いを理解することにより、運動実践への一歩を踏み出せるようになる。以上が本科目の到達目標である。

授業計画

- 第1回 オリエンテーションー身近にある健康問題について
- 第2回 健康とはなにかー現代社会における健康の定義を考える
- 第3回 健康の三要素ー「休養」
- 第4回 健康の三要素ー「栄養（食べる）① 栄養学的な視点から」
- 第5回 健康の三要素ー「栄養（食べる）② 消化、吸収の仕組み」
- 第6回 健康の三要素ー「運動① 運動不足病・有酸素運動と無酸素運動」
- 第7回 健康の三要素ー「運動② トレーニングの原理原則、超回復」
- 第8回 健康づくり運動ー実践Ⅰ ウォーキング、スタティックストレッチ、骨ストレッチなど
- 第9回 健康づくり運動ー実践Ⅱ ストレッチボール、バランスボードなど
- 第10回 健康づくり運動ー実践Ⅲ 筋力に頼らない身体の使い方
- 第11回 健康づくり運動の理論的な裏付け
- 第12回 健康の三要素ー「運動③ 深層筋、全身協調性、呼吸法と瞑想」
- 第13回 たばことお酒
- 第14回 各スポーツの特性と身体にもたらすさまざまな効果について
- 第15回 健康概念のまとめと最終試験（60分）

授業方法

- ・グループディスカッションを挟みながら、テキストおよび配付資料による講義を中心に行う。
- ・第8回～第10回は、実技を予定している。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・日常生活で何気なく耳にし、目にする健康についての情報を記憶に留めておいてほしい。具体的には新聞や雑誌およびネットなどから健康関連の記事を切り抜き、それに対する疑問や自らの考えをメモしておくという作業を行う。
(学習時間30時間)
- ・実技に向けての準備をしておくこと。行うのは息が切れるような激しい内容ではなく、あくまでも軽度の運動だが、怪我をする恐れがないわけではない。ウォーキングやジョギング、あるいは寝る前にストレッチを行うなど、怪我なく実技を行うために自らの身体を整えておくこと。(学習時間30時間)

受講上の注意事項

授業計画では2日目に実技を予定している。体育館シューズ、運動に適した服装（ジーパン、綿パンツ、スカートなど動きの制限される物は不可）、タオル、飲み物（水分補給用）を準備すること。初日と3日目は講義なので、これらの準備は2日目だけでよい。詳しくはスクーリング初日に説明する。

評価基準

- ・最終試験 70%
- ・授業への取り組み 30%

参考文献

- ・福岡伸一 『動的平衡 生命はなぜそこに宿るのか』 木楽舎
- ・岩田健太郎 『食べ物のことはからだに訊け！ 健康情報にだまされるな』 筑摩書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	10009	科目名 [単位数/学習時間]	日本国憲法 [2単位/90時間]			科目担当	小野 晃正
テキスト		● 芦部信喜 『憲法 第8版』 岩波書店					
ISBN	9784000616072	本体価格(円) (2024年1月現在)	3,400	生協 テキストNo.	24008		
科目の目的 憲法は、専断的になりがちな公権力（立法・行政・司法）を分立させると同時に、国民主権の原理により公権力に制限ないし規制を加え、国民の基本的権利を広く保障しようとする国家の基礎法である。こうした理由からその条文の大半は権力機関を主な名宛人としている。 日本国憲法は、国民主権・基本的人権の保障・平和主義を基本原理として掲げ、人権保障規定とそれを担保するための統治機構の規定から主に構成されている。 これらの規定の適用とその解釈について、国民と統治機構の間で争われる「基本的人権」及び「統治」をめぐる憲法問題について、理解力向上と思考力の涵養を図ることが本科目の目的である。							
到達目標 テキストを読み込み、日本国憲法の諸規定をめぐる紛争はどのようなものなのかについて、具体的事例をイメージできるようにする。その上で、具体的事例から憲法上の争点を抽出し、この争点を解決するための理論（判例や学説）を理解する。さらに、これらを論理的にまとめ、自分なりの結論を提示する能力を身につける。 本科目は試験（小テストや最終試験）を通じて、こうした諸点の能力を向上させることを最終的な到達目標とする。							
授業計画 第Ⅰ部 憲法総論 第1回 憲法と立憲主義 第2回 日本憲法史 国民主権の原理 基本的人権の尊重 平和主義の原理 第Ⅱ部 基本的人権 第3回 基本的人権の原理と限界 第4回 法の下での平等 第5回 精神的自由権① 内心の自由（思想良心の自由、信教の自由、学問の自由）、小テスト 第6回 精神的自由権② 表現の自由①（表現の自由の意味とその内容） 第7回 精神的自由権③ 表現の自由②（表現の自由の限界、集会・結社の自由、通信の秘密） 第8回 経済的自由権 職業選択の自由、居住・移転の自由 第9回 財産権の保障 第10回 人身の自由 適正手続の保障、被疑者・被告人の権利、小テスト 第11回 国務請求権・参政権・社会権、裁判を受ける権利、生存権・教育を受ける権利、労働基本権 第12回 包括的基本権 幸福追求権 第Ⅲ部 統治機構 第13回 国会と内閣 第14回 裁判所、地方自治、憲法の保障 第15回 講義のまとめ、確認テスト							
授業方法 ・ 授業方法は、質疑応答を交えつつ、講義形式で行う。 ・ 知識の定着をはかるため、適宜小テストを行う。							
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 テキストのはじめの数章を熟読したうえで、「日本国憲法における立憲主義とはどのような考え方か」について1,000字程度でまとめたレポート（A4用紙でパソコン等による作成可）をスクーリング最終日に提出すること。（学習時間60時間）							
受講上の注意事項 受講までに、各自で指定テキストを必ず入手すること。							
評価基準 ・ 問題に対して正面から答えているか（問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか） 20% ・ 講義内容を理解しているか 80%							
参考文献 ・ 芦部信喜 『憲法（第7版）』 岩波書店							
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の X）を参照すること。							
課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。							

科目コード	10022	科目名 [単位数/学習時間]	多文化社会 [2単位/90時間]		科目担当	日比野 純一
テキスト		スクーリング時に資料を配付する。				
ISBN		本体価格(円) (2024年1月現在)		生協 テキストNo.		
実務経験のある教員による科目		特定非営利活動法人理事、社会福祉法人評議員（在日外国人への多言語での情報提供事業、多文化共生のコミュニティづくり事業、多様な文化背景を持つ子ども達の育成支援事業など）				

科目の目的

多文化社会とは、多数者とは生活条件の異なる少数者への理解と配慮、少数文化に対する尊重がなされる社会を指し、本科目では、社会の周縁に位置づけられがちな人達（外国人、先住民族、女性、LGBTQ、貧困層、障害者など）の中で、特に外国人及び外国にルーツのある人達に焦点を当て、政治的・社会的・文化的な権利擁護、共存と相互理解について学ぶ。世界の多くの文化について学ぶ科目ではない。多文化共生のコミュニティづくり、多様な文化背景を持つ子ども達の育成支援、在日外国人等の生活相談、多文化共生のアドボカシーといった実務経験を活かして教授する。

到達目標

同質性の居心地の良さとその裏側にある異質な者を外国人、障害者、同性愛者、ホームレス、被差別部落出身者、先住民族、イスラム教徒などとレッテルを貼り排除してしまう現実が社会には依然として存在する。そこには“異質な者”も自分と同じ一人の人間であり、地域社会における生活者である視点が抜けており、無知とメディアからのステレオ的な情報がそれを後押しする。多文化社会の根幹をなす人権について深く理解し、異文化間対話を促進する力を身につけることが到達目標である。

授業計画

第1回

多文化社会が意味するもの

第2回

多様性と社会的排除

第3回

災害と在日外国人

第4回

移民がホスト社会で生きるとは① 地域社会からの考察

第5回

移民がホスト社会で生きるとは② 学校現場からの考察

第6回

多文化教育の可能性を探る

第7回

多文化社会と人権① 在日外国人の社会保障、保健医療、政治参加について考える

第8回

多文化社会と人権② 外国人労働者、難民の受け入れについて考える

第9回

差別（ヘイトスピーチなど）を生み出す背景を考える

第10回

地域社会と多文化共生－無理解、偏見、差別を越える① 国内外の事例考察

第11回

地域社会と多文化共生－無理解、偏見、差別を越える② グループディスカッション

第12回

外国人労働者の受け入れと日本社会の現実

第13回

マイノリティとアイデンティティ① 在日外国人からの発信

第14回

マイノリティとアイデンティティ② 先住民族アイヌの現在

第15回

多文化社会へ向けて私たちができること

授業方法

・DVD教材などを活用した講義とグループ学習を織り交ぜて行う。

・配付資料により講義を進める。

・グループ学習では、テーマに基づいた討議、発表を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・日本社会は今、さまざまな地域社会の働き手として外国人労働者に大きく依存している。外国人労働者が単に働き手としてだけでなく、地域社会の一員として受け入れていくことが求められている。そのためにはどのような取り組みが必要であるか、課題があるのか、自分の周りの環境にも照らし合わせ、またインターネットや新聞などを通じて調べ、**1,000字程度のレポートにまとめ（A4用紙でパソコン等による作成可）、「スクーリング受講許可証」到着後、スクーリング初日10日前＜最終日消印有効＞までに、レポート提出用封筒を使用して提出すること。（学習時間30時間）**

・スクーリング終了後は、講義で配付した資料と紹介したWEBページを読み、同じく紹介したオンライン上の動画を視聴すること。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

対話型で行う時間を可能な限り多くとる。その時間は積極的に意見を述べることを期待する。スクーリング最終日の試験は、持ち込み一切不可で行う。なお、障害を有し、意見を述べにくい受講生は、特性に応じて配慮する。

評価基準

・最終レポート 60%

・授業中レポート 20%

・授業への取り組み姿勢 20%

参考文献

- ・高谷幸 『移民政策とは何か』 人文書院
- ・吉富志津代 『同級生は外国人！？多文化共生を考えよう①②③』 汐文社
- ・吉富志津代 『多文化共生社会と外国人コミュニティの力 ゲットー化しない自助組織は存在するか？』 現代人文社
- ・落合知子 『外国人市民がもたらす異文化間リテラシー NPOと学校、子どもたちの育ちゆく現場から』 現代人文社
- ・吉富志津代 日比野純一 『兵庫県さんだ発！社会福祉×多文化共生 ひろがる支え合いの輪』 PHD協会
- ・萱野茂 『アイヌの碑』 朝日新聞出版
- ・田中宏 『在日外国人 法の壁、心の溝』 岩波書店
- ・毛受敏浩 鈴木江理子 『「多文化パワー」社会 多文化共生を超えて』 明石書店
- ・駒井洋 鈴木江理子 『東日本大震災と外国人移住者たち』 明石書店
- ・加藤直樹 『九月、東京の路上で 1923年関東大震災 ジェノサイドの残響』 ころから
- ・宗田勝也 『誰もが難民になりうる時代にー福島とつながる京都発コミュニティラジオの問いかけ』 現代企画室
- ・安田浩一 『ネットと愛国』 講談社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	10024	科目名 [単位数/学習時間]	情報と社会 [2単位/90時間]	科目担当	河原 優子
テキスト	● 駒谷昇一 山川修 『IT Text 一般教育シリーズ 情報とネットワーク社会』 オーム社				
ISBN	9784274211218	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	24021

科目の目的

情報技術やインターネットの発展に伴い、社会生活は大きく変化しつつある。情報社会の基盤となっている基本的な技術とコミュニケーションの方法、社会の変化について理解するとともに、社会を支え、企業活動に利用されている情報システムの役割と性質について学ぶ。

到達目標

- ・コンピュータやインターネットなどの情報技術がどのように発展したのかを記述することができる。
- ・情報技術の進展によって、日常生活と社会にどのような変化が起きたのか、具体例を用いて述べるることができる。
- ・情報社会の利点と問題点について、さまざまな視点から記述することができる。

授業計画

- 第1回 情報と人間の関わり<情報とは何かを、メディアやコミュニケーションとの関わりから学ぶ>
 第2回 ユーザインタフェース<ユーザインタフェースとアクセシビリティの基本的な考え方について学ぶ>
 第3回 情報とネットワーク<インターネットと情報技術の歴史について学ぶ>
 第4回 情報社会のコミュニケーション<技術的な観点からコミュニケーションとメディアについて学ぶ>
 第5回 情報ネットワークと知的財産<情報技術と知的財産の関係について学ぶ>
 第6回 情報社会と法<知的財産権や個人情報保護に関する法律について学び、情報倫理について理解する>
 第7回 情報ネットワークのしくみ<インターネットの仕組みと、代表的なアプリケーションである WWW と E-mail について学ぶ>
 第8回 インターネットとデータベース<検索エンジンの効果的な利用方法を学び、情報検索の仕組みを理解する>
 第9回 情報システム<社会基盤となっている情報システムについて学ぶ>
 第10回 企業活動と情報システム<企業が活用している情報システムについて学ぶ>
 第11回 情報システムと社会<情報ネットワークと技術の動向について学ぶ>
 第12回 情報セキュリティ<情報セキュリティについて理解し、インターネット被害とその対策方法について学ぶ>
 第13回 情報と社会の変化<コンピュータやインターネットなどの情報技術の発展が社会にどのような影響を与えてきたかを学ぶ>
 第14回 情報社会のメリットとデメリット<インターネットの発展によってもたらされた様々な社会への影響と課題について学ぶ>
 第15回 まとめ<今後の情報社会のあり方について考える>および試験

授業方法

講義形式の授業を基本とするが、場合によってワークショップ形式やディスカッション、プレゼンテーションなどアクティブ・ラーニングを織り交ぜながら進める。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・①日常生活の中で、インターネットやアプリ（スマートフォンやパソコンなど）をどのように利用しているか、具体例を挙げて説明する（600字程度）。②もしインターネットやアプリがなかったら、どのように生活していると思うかを説明する（600字程度）。それぞれA4用紙にまとめ（パソコン等による作成可）、スクーリング初日に提出すること。（学習時間55時間）
- ・1日目と2日目の授業内容について、感想と疑問をまとめた小レポートを作成し、それぞれの翌日に提出する。（学習時間5時間）

受講上の注意事項

- ・日常生活に使われている情報技術について調べる。例）インターネットバンキング、カーナビゲーションシステムなど。
- ・テキストは必ず持参すること。
- ・スクーリング最終日に試験を実施する。テキスト、自筆の講義ノートのみ持ち込み可。

評価基準

- ・最終試験 50%
- ・授業中の発表やディスカッションなど授業中の積極性（含む授業後提出小レポート） 30%
- ・事前レポート 20%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	10026	科目名 [単位数/学習時間]	国際理解教育論 [2単位／90時間]				科目担当	江原 等子
テキスト	● 田中治彦 三宅隆史 湯本浩之 『SDGsと開発教育—持続可能な開発目標のための学び』 学文社							
ISBN	9784762026492	本体価格(円) (2024年1月現在)	3,000	生協 テキストNo.	24022			

科目の目的

本科目の目的は、現在私たちが生きている世界の特徴と状況を知り、人類共通の課題を考察する仕方を身につけることである。国際理解、開発援助、多文化共生といった国連やUNESCOの主導してきた枠組みを学び、一人の地球市民としてどのように他者と共に生きていくのかを探究する。具体的には、貧富の格差、環境問題、戦争と平和、ジェンダーに基づく差別、移民や難民といったテーマを取り上げる。これらの問題を、グローバルな視点を持ちながら、かつ自分自身の経験や生活と結びつけて理解することを目指す。

到達目標

人類共通の課題を、その構造や歴史的経緯を把握し、同時に自分自身の考え方や感じ方、生活の仕方を振り返りながら考えることができるようになること。地球規模でのつながりを読みとる視点と、課題の克服に向けて必要な基礎的な知識を身につけること。

授業計画

- 第1回 導入：オリエンテーション（国際理解教育とは、進め方、評価方法、課題や最終試験について）
- 第2回 文化とその多様性について考える
- 第3回 国家の主権とはなにか
- 第4回 紛争
- 第5回 難民
- 第6回 移民
- 第7回 人種差別
- 第8回 南北問題
- 第9回 貧困と格差①
- 第10回 貧困と格差②
- 第11回 ジェンダーに基づく差別
- 第12回 性暴力
- 第13回 映画視聴①
- 第14回 映画視聴②
- 第15回 最終試験とまとめ

授業方法

講義と参加型で行う。（講義、DVD映像、配付資料講読、テキスト内容についてのディスカッション）

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・スクーリング受講までに、テキストを読んで予習しておくこと。特に、開発教育を紹介する第1章（pp.2-17）、グローバルイゼーションについて論じている第3章（pp.38-55）、SDGsについて説明する第4章（pp.58-74）は、各章の概要をノートにまとめておくこと。また、第8章（pp.136-157）、第10章（pp.176-191）、第13章（pp.235-254）、第14章（pp.255-272）で取り上げられている人類共通の課題の要点を把握しておくこと。（学習時間30時間）
- ・スクーリング受講後は、授業で取り上げた内容の中から、興味あるテーマを1つ選び、授業で紹介する書籍のうちの1冊を読みこんで、さらなる学習を進めること。また、各自の仕事や地域活動、家庭において、学んだ視点や知識を具体的に活用してみること。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

- ・グループ活動を行ったり話し合ったりするので、積極的に参加すること。
- ・テキストについては、印象に残った点を出し合って話し合う。
- ・最終試験は、配付資料やノート、テキストの持ち込み可。

評価基準

- ・最終試験 40%
- ・課題 30%
- ・授業への取り組み 30%

参考文献

- ・日本国際理解教育学会 『国際理解教育ハンドブック—グローバル・シティズンシップを育む』 明石書店
- ・クロード・レヴィ＝ストロース 『人種と歴史』 みすず書房
- ・ジョルジョ・アガンベン 『ホモ・サケル 主権権力と剥き出しの生』 以文社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	10028	科目名 [単位数/学習時間]	環境教育論 [2単位/90時間]	科目担当	天野 雅夫
テキスト	● 今井清一 今井良一 『環境教育論 現代社会と生活環境 増補改訂版』 鳥影社				
ISBN	9784862658104	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	24023

科目の目的

日本における環境問題は、はじめは地域的な公害として顕在化したが、近年では新たな問題として地球規模の環境問題が現われてきた。それらは、大気・土壌・海洋汚染、森林破壊、ダイオキシンの脅威、オゾン層の破壊、地球温暖化の問題など、多様化し深刻化しつつある。こうした環境問題を解決するためには、各人が人間と環境とのかかわりについて理解し、行動力を身につけることが必要である。そこで本科目では、実際の環境教育活動を紹介し、感じ、考え、行動し、持続可能な社会をつくるために必要な環境教育について考究する。

到達目標

環境教育とは、環境全体とそれに関連する問題に対する「①気づき」と感性を身につけ、自らが責任ある存在であり役割を負うことを「②知識」として理解し、環境に対する社会的価値基準と環境を気づかう気持ち、および環境の保護と改善に積極的に参加する「③態度」を養い、環境問題を解決する「④技能」を身につけ、環境対策や教育プログラムを生態学的、政治的、経済的、社会的、美的、教育的観点から「⑤評価」し、そして最後にこれらの活動に「⑥参加」し、適切な行動をとれるようにすることがその目標である（ベオグラード憲章）。従って、本科目では様々な環境問題を理解し、これらを解決するためには何が重要かを考える力を養い、これらの問題を身近な生活と関連づけて考え、それを行動に移すためにはどうすればよいかを、感じ、考え、自ら行動できるようになることが到達目標である。

授業計画

- 第1回 環境問題と環境教育について
- 第2回 地球温暖化・気候変動による環境への影響について考える
- 第3回 地球温暖化・気候変動における政府の対策、民間の活動について考える
- 第4回 PM2.5についてその原因や環境、健康に及ぼす影響について考える
- 第5回 合成洗剤と水の環境汚染、日本の下水道や水の利用について考える
- 第6回 水源の涵養と環境保全の取り組みについて考える
- 第7回 放射線と環境破壊について考える
- 第8回 里山の保全と生態系について考える
- 第9回 里山における環境教育の実践について考える
- 第10回 食生活の変化と輸入食品の氾濫、その危険性について考える
- 第11回 遺伝子組み換え食品の危険性について考える
- 第12回 農薬、ポストハーベスト、食品添加物について考える
- 第13回 食生活における安全性や地産地消の取り組みについて考える
- 第14回 グループ討論によりいくつかの班に分かれて環境問題の解決について考える
- 第15回 まとめ（各グループの討論結果の発表とコメント：30分）と確認（試験：60分）

授業方法

テキストを中心とした講義形式の授業で、ノートを正確に筆記することによって講義内容を理解する。また、講義中に適時、関連する書籍の紹介やDVD等による映像の鑑賞をする。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・スクーリング受講までに、テキスト各章の四角で囲まれた部分を読んで予習をしておくこと。（学習時間25時間）
- ・スクーリング受講までに、テキストの中から関心のある環境問題の一つを選び、その解決方法として考えられる実践を1,000字程度でまとめたレポート（A4用紙でパソコン等による作成可）をスクーリング初日に提出すること。（学習時間10時間）
- ・スクーリング受講後は、テキストを読み自分の関心のあることについて調べ、ノートを参考にして対応を考え、自分の生活の中にどのように取り入れていくかを考える。（学習時間25時間）

受講上の注意事項

- ・グループ討論を行い、KJ法による整理の後、発表する。
- ・スクーリング最終日の試験は、手書きノートのみ持ち込み可とするので、授業内容を正確に筆記すること。
- ・テキストは必ず持参すること。
- ・3日目で実習をするのでハサミか定規を持ってくること。

評価基準

- ①最終試験による（筆記試験を実施する＜※最終時間に実施＞） 50%
 - ・解答用紙表面の2/3以上の記述があること。
 - ・誤字脱字には注意し、自分の考えを十分に説明していること。
 - ・授業の内容を理解したうえで、自ら何ができるかを考察し、答案に反映すること。
- ②授業への取り組み（初日提出のレポート、授業態度、関心・意欲、発表・表現などにより評価する） 25%
- ③その他（KJ法を使って情報を共有する方法や、自分の意見を正確に他人に伝えることができるかどうかを小レポートで確認する） 25%

参考文献

- ・日本環境教育学会 『環境教育』 教育出版
- ・水山光春 『よくわかる環境教育 やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

教育学科・児童教育学科専門教育科目群

科目コード	20000	科目名 [単位数/学習時間]	教育原理 [2単位/90時間]	科目担当	廣岡 義之
テキスト	● 広岡義之 『ボルノー教育学研究 増補版 上巻』 風間書房				
ISBN	9784759922172	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,700	生協 テキストNo.	24024

科目の目的

今日、教育と子どもをめぐる問題がクローズアップされている。教育の在りようはもとより社会の在り方が根本的に問われているといえる。このような社会的背景をもとに、本科目では、教育とはなにか、について、さまざまな観点からアプローチし、その原理的な理解を深めることを目的とする。そのことによって、教育に関する基本的な知識と知見を養う。

到達目標

テキストを精読することが大切である。また、この章立てには順序性もあり、この順序で読むことが重要である。(スクーリング受講までに必ず一読して予習をしっかりとしておくこと。)

もう1つの目標として、テーマが教育なので、自分なりの問題意識の射程内で、読み、考察することが必要である。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：教育原理を学ぶことの意味
- 第2回 教育学の根本問題① 開かれた問いの原理 <テキスト第2章第1節1～3>
- 第3回 教育学の根本問題② 教育の連続性と非連続性 <テキスト第2章第1節6>
- 第4回 現代における教育の時間論 <テキスト第2章第2節1～4>
- 第5回 現代における教育の空間論 <テキスト第2章第3節1～5>
- 第6回 言語の教育学的意義 <テキスト第2章第4節1～4>
- 第7回 教育における真理論 <テキスト第2章第5節1～4>
- 第8回 危機概念の教育学的意義 <テキスト第2章第6節1～5>
- 第9回 教育に関する集団討論①
- 第10回 教育における経験論 <テキスト第3章第2節1～4>
- 第11回 教師と生徒の信頼関係 <テキスト第4章第1節1～4>
- 第12回 代表的教育者（フレーベル等）のビデオ鑑賞
- 第13回 教育に関する集団討論②
- 第14回 練習の精神の教育学的意義 <補論第1章第1節～第5節>
- 第15回 まとめと確認：第14回までの講義のふりかえりを受講生の感想とともにシェアする。

授業方法

- ・提示したテーマについてグループでの議論および発表を数回行う。
- ・教育の実践に関する映像資料を用いることもある。
- ・各講義に必要な資料を配付することもある。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・スクーリング受講までに、テキストをすべて読んでおくこと。(学習時間20時間)
- ・スクーリング受講後には、テキストをしっかりと読んで、講義の内容を復習すること。(学習時間15時間)
- ・スクーリング受講後には、各回の講義ノートを作成する。たんなる講義のメモではなく、テキストを参照したり、講義で使われたキーワードを使ったりしながら、自分の言葉で講義の内容を整理すること。(学習時間15時間)
- ・スクーリング受講後には、講義で紹介した参考文献等を利用し、スクーリングでの学習内容をさらに深めること。(学習時間10時間)

受講上の注意事項

- ・テキストは初日から必ず持参すること。事前に上記テーマについて予習しておくこと。
- ・配付資料は、スクーリング受講後に復習する必要があるので整理して保存すること。
- ・スクーリング最終日の試験は、テキストおよび自筆ノートのみ持ち込みを可とする。
- ・講義中の私語など、他の学生に迷惑を及ぼす行為には厳しく対応する。

評価基準

- ・最終試験 50%
- ・授業への取り組み（コメントペーパーの記入、グループ討議への参加） 50%

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）<平成29年3月>』 東洋館出版社
- ・広岡義之 『教職をめざす人のための教育用語・法規』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20005	科目名 [単位数/学習時間]	児童教育学演習Ⅰ [2単位/90時間]	科目担当	間 渕 泰 尚
テキスト					
ISBN		本体価格(円) (2024年1月現在)		生 協 テキストNo.	
科目の目的 本科目では、社会科学の方法論に則って、幼児教育および初等教育における現代的な問題について議論し、理解を深め、最終的に主張に沿ってレポートにまとめる作業を行う。 到達目標 ・主に自由課題レポートにおいて課題を設定し、資料を収集し、レポートにまとめあげる力をつけることを到達目標とする。 ・本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。 授業計画 第1回 イントロダクション・授業の進め方について 第2回 社会科学の考え方 第3回 思考整理法について 第4回 テーマ設定① マインドマップを書いてみる 第5回 テーマ設定② マインドマップで発表する 第6回 問いを立てる① 第7回 問いを立てる② グループ討議 第8回 問いを立てる③ 発表する 第9回 情報収集① 図書館 第10回 情報収集② インターネット 第11回 レポートの構成① 第12回 レポートの構成② 第13回 レポートの構成③ 第14回 レポート執筆の最終準備 第15回 授業のまとめ（レポートの執筆とふりかえり） 授業方法 基本的に講義を行ったあと、各自で作業を行い、それを発表する、という手順で進めていく。講義よりも実際に考えた り、資料を探したりする時間、発表時間を多く取るので、積極的に参加してほしい。 授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 授業では、自由にテーマを設定してレポートをまとめてもらう。そのため、スクーリング受講前には、ある程度テーマ を考えておいてもらいたい。関連する書籍（新書程度でよい）を1冊は読んでおくことが望ましい。（学習時間30時間） また、スクーリング終了後には、内容の振り返りと提出レポートのリライトを行うことが望ましい（提出不要）。 （学習時間30時間） 受講上の注意事項 議論には情報収集が不可欠であるし、発表方法も知っておく必要がある。受講者には何らかの問題意識を持って演習に 参加してほしい。なお、パソコンを用いてレポートを作成するので、USBメモリーもしくはSDメモリーカードを持 参すること。容量は128MB以上あれば問題ない。 評価基準 ・授業への取り組み 30% ・授業中の発表 40% ・最終時間に仕上げたレポート 30% 参考文献 ・戸田山和久 『最新版 論文の教室』 NHK出版 ・トニー・ブザン 『ザ・マインドマップ』 ダイアモンド社 ・川喜田二郎 『発想法』 中央公論新社 ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の X）を参照すること。 課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。					

科目コード	20006	科目名 [単位数/学習時間]	児童教育学演習Ⅱ [2単位/90時間]	科目担当	権藤 眞織
テキスト	スクーリング時に資料・ワークシートを配付する。				
ISBN		本体価格(円) (2024年1月現在)		生協 テキストNo.	
科目の目的 子どもと関わる専門家になるには様々な専門知識や技能が求められるが、それらを総合的に活用し、現場で活かす「実践力」も求められる。本演習では、学習心理学の考え方を応用して、子どもとのかかわり方、ほめ方や叱り方など現場実践で求められるかかわり方のスキルを学ぶ。乳幼児期から学童期に重要な「しつけ」、また、障害のある子どもたちへのかかわり方（特別支援教育）など幅広く考察していく。 到達目標 ・「学習」の定義を理解し、日常例を挙げることができる。 ・学習理論の基礎を理解し、日常例を挙げることができる。 ・「しつけ」について、学習心理学の観点から理解することができる。 ・「行動」に着目した視点で、子どもの支援の計画を理解することができる。 授業計画 第1回 オリエンテーション（この講義の進め方と評価） 第2回 しつけとは何か① ディスカッションから学ぶ 第3回 しつけとは何か② 事例から学ぶ 第4回 しつけとは何か③ 学習心理学の立場から考える 第5回 援助・支援とは何か① 事例から学ぶ 第6回 援助・支援とは何か② 学習心理学の立場から考える 第7回 事例から学ぶ①（「事例から学ぶ」ではグループで討議と考察も行う予定） 第8回 事例から学ぶ② 第9回 事例から学ぶ③ 第10回 事例から学ぶ④ 第11回 事例から学ぶ⑤ 第12回 さまざまな実践例① 保育所・幼稚園の事例 第13回 さまざまな実践例② 学童期の事例 第14回 さまざまな実践例③ 特別支援学校の事例 第15回 まとめ 授業方法 ・各テーマについて、講義とグループディスカッションおよび発表を行い、学びを深める。 ・PCを活用するなどして事前に調べたり、取り組んだりした課題学習について、グループディスカッション、発表をする。また、事例検討も行う。その後、質疑応答の時間も設ける。 授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 スクーリング受講までに、以下の（１）から（６）の課題を行い、（１）から（４）についてはプリントアウトしてスクーリング初日に持参すること。課題作成用紙は、A4サイズ、タテ型横書きとし、本学所定レポート用紙やルーズリーフは用いず、パソコン用の白紙を使用すること。＜ワープロソフト使用可。＞ 課題の回答内容は、グループワーク時に受講生同士で、閲覧し合ってシェアする。 （１）しつけとは何か。（80字～100字程度／調べ学習とまとめの学習時間 5 時間） （２）乳幼児期のしつけで大切だと思うこと（3 項目をあげる）とその理由を説明する。（100字～200字程度／調べ学習とまとめの学習時間 5 時間） （３）学童期のしつけで大切だと思うこと（3 項目をあげる）とその理由を説明する。（100字～200字程度／調べ学習とまとめの学習時間 5 時間） （４）学習とは何か。（80字～100字程度／調べ学習とまとめの学習時間 5 時間） （５）学習心理学がどんな心理学なのか調べておく。（学習時間 5 時間） （６）行動分析学がどんな学問なのか調べておく。（学習時間 5 時間） スクーリング後の復習とさらなる展開学習 （１）学習心理学からみた「しつけ」と「生活習慣の獲得」とは何か。（レポート用紙 1 ページ程度にまとめる／学習時間 5 時間） （２）乳幼児期の発達と保育実践上の援助についてのおさらい。（学習時間 5 時間） （３）学童期の発達と保育実践上の援助についてのおさらい。（学習時間 5 時間） （４）子どもについての「経験」の重要性についておさらい。（学習時間 5 時間） （５）子どもの行動の支援についての専門的なテクニックや方法論についてのおさらいや、各自、興味を持ったことについて調べる。（学習時間 5 時間） （６）行動分析学・応用行動分析に関する書籍を各自検索し、読む。（学習時間 5 時間）					

受講上の注意事項

- ・グループディスカッションなど、受講生との意見交流を行う。
- ・事例については、グループで討議し、発表を行う予定。

評価基準

次の観点について、提出物、授業中の発言・発表、試験により評価を行う。

- ・事前課題に取り組むなど、意欲的に授業に参加できているか 50%
- ・授業内容や受講生同士の意見交流の内容を適切に理解し、自分なりの考察を深めているか 50%

参考文献

授業中、適宜紹介する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20006	科目名 [単位数/学習時間]	児童教育学演習Ⅱ〔2単位／90時間〕				科目担当	眞崎 克彦
テキスト	● 神代健彦 後藤篤 横井夏子 『これからの教育学』 有斐閣							
ISBN	9784641200067		本体価格(円) (2024年1月現在)	1,900	生協 テキストNo.	24027		
実務経験のある教員による科目			公立小学校教諭、国公立小学校管理職、教育委員会指導主事					

科目の目的

「教育学」に関する基本的な知識を身に付け、「教育学」の概念を理解する。それらの知識・理解を活用して、これからの日本の教育について受講者で議論を深める。議論によって受講者自身の教育観、教師像について新たな気づきを持ち、多角的な視点から教育を考える力を育成する。講義では、実務経験のある担当者の教育実践を踏まえた具体的な内容について理論と関連付けながら説明する。

到達目標

- ・ テキスト講読により、「教育学」の基礎的な概念を構築することができる。
- ・ 章末の課題について議論することで他者の多様な視点に気づき、より深い教育観を育むことができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（教育とは何か）：講義、グループによる討議（受講者の初発の教育観）
- 第2回 <テキスト第1章> 知に恋い焦がれる学び：講読、「問い」と「課題」に対する考察と議論
- 第3回 <テキスト第2章> 教えること思想史：講読、「問い」と「課題」に対する考察と議論
- 第4回 <テキスト第3章> 子どもが育つということ：講読、「問い」と「課題」に対する考察と議論
- 第5回 <テキスト第4章> 学校という難問：講読、「問い」と「課題」に対する考察と議論
- 第6回 <テキスト第5章> 日本における近代学校のはじまり：講読、「問い」と「課題」に対する考察と議論
- 第7回 <テキスト第6章> 大衆化する教育：講読、「問い」と「課題」に対する考察と議論
- 第8回 <テキスト第7章> 戦時下の教育、そして戦後へ：講読、「問い」と「課題」に対する考察と議論
- 第9回 <テキスト第8章> 成長する経済、そのとき若者は：講読、「問い」と「課題」に対する考察と議論
- 第10回 <テキスト第9章> 問われる学校の価値：講読、「問い」と「課題」に対する考察と議論
- 第11回 <テキスト第10章> 学力／能力を教育学する：講読、「問い」と「課題」に対する考察と議論
- 第12回 <テキスト第11章> 学校と地域を教育学する：講読、「問い」と「課題」に対する考察と議論
- 第13回 <テキスト第12章> ジェンダーとセクシュアリティを教育学する：講読、「問い」と「課題」に対する考察と議論
- 第14回 <テキスト第13章> テクノロジーを教育学する：講読、「問い」と「課題」に対する考察と議論
- 第15回 演習のまとめ（再考 教育とは何か）：講義、グループによる討議（受講後の教育観）と総括

授業方法

- ・ 各回の前半はミニ講義とテキスト読解、読み取った内容の発表。
- ・ 各回の後半は「問い」と「課題」に対する考察と議論。
- ・ 積極的な質問、意見交流によって、受講者同士で多様な考え方があることに気づき合う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**<スクーリング受講前>**

テキストを通読し、自分の興味関心のある章を3つ選び章末のReport assignment（各章2題ずつ、各課題200字程度）について、A4用紙1～2枚（総字数1,200字程度。パソコン等での作成可。）にまとめて、スクーリング初日に提出すること。レポートには、学籍番号、氏名、章の番号と、レポート課題を明記すること。（学習時間30時間）

○レポート作成例（第1章と第2章と第3章を選択する場合）

学籍番号 5***** 氏名 親和 太郎

第1章のReport assignment レポート課題（p.18）

本章の内容を振り返って、下記の2つについてそれぞれ200字程度でまとめてみましょう。

- ①ソクラテスとプラトンの哲学から導かれる、理想の学びとは？
レポート（200字程度）
- ②あなたがこれまでの人生で「夢中になった」と言えることは何か。何がそうさせたのか。
レポート（200字程度）

第2章のReport assignment レポート課題（p.34）

本章の内容を振り返って、下記の2つについてそれぞれ200字程度でまとめてみましょう。

- ①アウグスティヌス、コメニウス、ヘルバルト（、大村はま）の言説から、「教えること」の思想の変遷について。
レポート（200字程度）
- ②（「学び」を導き支えるものとしての「教える」）という言い方から、どのような教育がイメージされるか。
レポート（200字程度）

第3章のReport assignment レポート課題 (p.50)

本章の内容を振り返って、下記の2つについてそれぞれ200字程度でまとめてみましょう。

①子どもと発達について、現代に通じる考え方にはどのようなものがあるか。

レポート（200字程度）

②発達する存在として子どもをとらえた時、教師や保育者として、どのような援助をすべきだろうか。具体的な場면을イメージしてまとめよう。

レポート（200字程度）

※科目担当者が全ての課題を記憶するのは無理なので、必ず課題の文言を記入してからレポートの本文に入ること。

<スクーリング受講後>

スクーリング中に興味を持った教育学的課題に関する文献（テキストに掲載されている Future reading等）を読み、その課題に関する知見を広げたり、考察を深めたりする。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

- ・テキストを必ず持参。
- ・事前にテキストを通読。「教育学」の概念を理解し、関心のある教育課題について自分自身の考えを持つ。
- ・テキストは、Kindle版 電子書籍 [ASIN:B0CJQT2X3C] でも可。

評価基準

- ・発表（テキストの読解、読み取った内容の発表） 30%
- ・討議への参加（発表者や発言者の発表・発言について積極的な議論への参加） 40%
- ・授業外学習（受講前レポート） 30%

参考文献

- ・テキスト各章末にあがっている参考文献で自分の興味のあるもの

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20012	科目名 [単位数/学習時間]	理科 [2単位/90時間]	科目担当	中溝 茂雄
テキスト	●文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編＜平成29年7月＞』東洋館出版社				
ISBN	9784491034638	本体価格(円) (2024年1月現在)	111	生協 テキストNo.	24036 文部科学省HPよりダウンロード可能
実務経験のある教員による科目	公立中学校理科教諭、中学校長、教育委員会事務局（総合教育センター所長、教職員人事担当部長、指導課長等）				

科目の目的

社会人の素養としての自然科学の成果を正しく理解し、地球環境問題と自然災害の問題について、地球史・人類史の視点からアプローチするための基礎学力を養う。地球環境問題の解決と火山や地震など自然災害を軽減することは人類が直面する重要な現代的課題である。その理解のためには、地球がどのように誕生し、生物と人類がどのように環境とかかわってきたかについて理解する必要がある。地球史と人類史、身近な環境問題について科学的で主体的な判断ができることをめざす。

様々な実験観察を行い、身近な自然の教材化や実験・観察の基本的な技能、科学的に解決する指導法や問題解決能力の育成、理科の実践的指導力の基礎の習得を目指す。実務経験を活かして、教授する。

到達目標

- ・地球史、人類史の基礎知識と科学的な考え方を身につける。
- ・自然を科学的に認識する化学・物理学の概念・法則の基本を理解する。
- ・基本的な実験と観察を通して自然を理解する技術を身につける。
- ・小学校理科教育の目標及び各学年の学習内容について理解する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、人類の誕生 ＜実習＞NHK for School YouTubeの活用
- 第2回 人類の進化とホモサピエンスの誕生 ＜実験＞火をつくる、理科室における火の扱い
- 第3回 ホモサピエンスの世界拡散と文明の誕生、日本人のルーツ ＜実験＞ビーカーで米を炊く
- 第4回 地球と月と太陽の特長と違い ＜実験＞地球の石と月の石を観察する
- 第5回 宇宙の誕生と進化 ＜実験＞宇宙で最も多い元素、人が生きていくために必要な元素
- 第6回 星の進化と太陽系の誕生 ＜実験＞二酸化炭素の化学
- 第7回 地球の誕生と生命の誕生 ＜実験＞細胞の観察・人工細胞をつくる
- 第8回 地球と生物の共進化① ＜実験＞海藻、コケ類、シダ植物、種子植物の観察
- 第9回 地球と生物の共進化② ＜実験＞ちりめんモンスター・化石の観察
- 第10回 なぜ日本は地震が多いのか～六甲変動と近畿地方の大地の成り立ち ＜実験＞非常食を考える
- 第11回 日本列島の成り立ち ＜実験＞近畿地方の地質図を作成しよう
- 第12回 SDGs・ESDについて指導できる教師になろう ＜実験＞コイルモーターを作ろう
- 第13回 小学校理科のカリキュラムと教科書 ＜実験＞デジタル教科書を使ってみよう
- 第14回 小学校の電気教材を体験しよう ＜実験＞3～6年生の電気教材
ミクロの世界～生物顕微鏡と双眼実体顕微鏡 ＜実験＞微生物や砂粒・火山灰等の観察
- 第15回 地球と人類の未来を考える～統括レポート・課題実験

授業方法

- ・各回で次の方法を組み合わせて行う。～講義、グループワーク、観察、実験、実習
- ・各回のテーマにそったワークシートを用意する。パワーポイント、資料映像等を見ながら各回のテーマについて学習を深める。理科の授業との関連を考えながら授業を展開する。
- ・関連する実験を、グループで協力して楽しく行う。レポート1日分をまとめて翌日に提出すること。
- ・3日目の第15回目には課題テスト（総括レポートの作成）を行う。配付したワークシート類は持ち込み可とする。また、「課題実験」は、教科書に記載された観察実験の中から1つを選んで、実際に取り組む。実験の目標、準備、方法、結果、考察等をまとめたレポートが課題となる。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

<スクーリング受講前（予習）>

テキストの内容、特に第2章（pp.24-101）の各学年の目標及び内容については十分予習しておくこと。（学習時間30時間）

<スクーリング受講後（復習）>

毎回の授業の内容を復習し、ワークシートの内容を十分把握しておくこと。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

- ・授業内容はやや専門的な部分もあるが、基本的には中学校で学んだ内容がほとんどである。ESDやSDGs等の新しい考え方も含まれる。
- ・観察、実験等の活動には積極的に参加すること。

評価基準

- ・1日目・2日目の提出レポート 各30%
- ・総括レポート 20%
- ・課題実験レポート 20%

参考文献

・文部科学省検定済 小学校理科の教科書（3年～6年）※理科室で自由に見ることができる

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20014	科目名 [単位数/学習時間]	体育 [1 単位/45時間]	科目担当	田中 聡
テキスト	必要に応じてスクーリング時に資料を配付する。				
ISBN		本体価格(円) (2024年1月現在)		生協 テキストNo.	
実務経験のある教員による科目	教育委員会スポーツ体育課指導主事、公立小学校長				

科目の目的

幼児、児童が習得していく運動遊び・運動種目について、運動実技の体験を通し、基礎的な運動技能やその楽しさの特性、指導法を理解・習得していく。さらに運動遊びや運動の実技を通して、幼児や児童の全人的な発育・発達と運動実践との関係を考える機会とする。

到達目標

- ・子どもの発達段階に応じた適切な運動、運動遊びの実施方法を知る。
- ・幼児、児童が習得していく基礎的な運動技能について、実技を通して理解する。
- ・実技を行う中で、各種の運動遊び、運動種目特有の楽しさを、「運動特性」として体験的に理解する。
- ・各種運動遊び、運動種目における運動技術や支援方法、指導方法を身に付ける。

授業計画

- 第1回 体ほぐしの運動① ペアを中心に
- 第2回 体ほぐしの運動② 用具を用いて
- 第3回 体ほぐしの運動③、幼児期の運動遊び①
- 第4回 幼児期の運動遊び②
- 第5回 身近な用具を使った幼児期の運動遊び
- 第6回 器械運動① マット運動
- 第7回 器械運動② 跳び箱運動
- 第8回 器械運動③ 鉄棒運動、陸上運動① 短距離・リレー
- 第9回 陸上運動② ハードル走
- 第10回 陸上運動③ 走り幅跳びと走り高跳び
- 第11回 ボール運動① ゴール型
- 第12回 ボール運動② ネット型
- 第13回 ボール運動③ ベースボール型、表現運動① リズム遊び
- 第14回 表現運動② 表現
- 第15回 表現運動③ リズムダンス・フォークダンス

授業方法

6つの運動領域について運動実技中心に行う。各運動領域の実技にあたっては内容に応じて小グループを作り活動する。また、実技内容に関する解説を随時行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業では、小学校体育の運動領域より、体づくり運動・器械運動・陸上運動・ボール運動・表現運動の5領域の運動実技、そして、幼児教育から小学校体育への接続を意識するために幼児教育の中で取り上げられる運動遊びに関する運動実技を行う。これらの運動領域の実技内容については、小学校学習指導要領ならびに指導要領解説・体育編に記載、例示されている技能内容、また文部科学省「幼児期運動指針」を事前に理解した上で受講し、さらに受講後に確認することが望まれる。（学習時間＜予習・復習＞15時間）

実際に学校現場で指導すべき実技内容、望ましい運動経験をふまえた上で体験的に学んでほしい。

受講上の注意事項

《持参する物》 運動着（ジャージ等）、体育館シューズ、タオル、飲み物（水分補給用）、筆記用具

本科目では運動実技を行う。上記の物を毎回準備すること。指導者も実技内容には配慮するが、1日の授業（実技）は長時間となり、それなりに体力が必要となる。けが防止のために、スクーリングまでに体を動かしておくこと。

評価基準

- ・授業への取り組み 80%
- ・実技技能・指導法理解 20%

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編＜平成29年7月＞』 東洋館出版社又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『幼児期運動指針ガイドブック＜平成24年3月＞』
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20049	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・理科〔2単位／90時間〕				科目担当	中溝 茂雄
テキスト	●文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編＜平成29年7月＞』東洋館出版社							
ISBN	9784491034638	本体価格(円) (2024年1月現在)	111	生協 テキストNo.	24036	文部科学省HPよりダウンロード可能		
実務経験のある教員による科目			公立中学校理科教諭、中学校長、教育委員会事務局（総合教育センター所長、教職員人事担当部長、指導課長等）					

科目の目的

小学校学習指導要領に示されている「理科の目標」をふまえて、各学年・各分野において、何をどのように学ばせるのかを課題として、指導計画・指導案の作成、教材研究、観察・実験の計画、準備、実施などを実践的に学習する。実務経験を生かして、理科教育のやりがいやおもしろさ、喜び、感動等を伝えるとともに、理科に対する苦手意識の払拭に努める。

到達目標

- ・小学校理科の目標と学習内容について理解する。
- ・理科教育における学習指導法、実験観察法、評価法などについて理解する。
- ・理科の授業を設計し、学習指導案を作成し、それに基づき授業展開できる力を身につける。
- ・観察・実験の基本操作と情報機器の利用等の知識と技術を身につける。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、理科学習では何を学ぶか、理科の授業の進め方【理科室】
- 第2回 学習指導要領に示される理科の目標と年間指導計画、カリキュラムマネジメント【PC演習室】
- 第3回 学習指導案の作成【PC演習室】
- 第4回 模擬授業の学習指導案づくり① 授業準備のためのグループワーク（授業計画、単元指導計画等の策定）【理科室】
- 第5回 模擬授業の学習指導案づくり② 模擬授業の準備・予備実験（情報機器とデジタルコンテンツの利用、実験器具の取り扱いを含む）【理科室】
- 第6回 「生命」分野の学習内容と観察・実験のポイントと授業計画①（情報機器とデジタルコンテンツの利用、実験器具の取り扱いを含む）【理科室】
- 第7回 「生命」分野の学習内容と観察・実験のポイントと授業計画②（情報機器とデジタルコンテンツの利用、実験器具の取り扱いを含む）【理科室】
- 第8回 「生命」分野の学習内容と観察・実験のポイントと授業計画③（情報機器とデジタルコンテンツの利用、実験器具の取り扱いを含む）【理科室】
- 第9回 「生命」分野の学習内容と観察・実験のポイントと授業計画④（情報機器とデジタルコンテンツの利用、実験器具の取り扱いを含む）【理科室】
- 第10回 「生命」分野の学習内容と観察・実験のポイントと授業計画⑤（情報機器とデジタルコンテンツの利用、実験器具の取り扱いを含む）【理科室】
- 第11回 模擬授業の実施①② 地球・物質・エネルギー分野の観察・実験を中心とした模擬授業（反省会・授業評価等も含める）、課題実験の準備①【理科室】
- 第12回 模擬授業の実施③④ 地球・物質・エネルギー分野の観察・実験を中心とした模擬授業（反省会・授業評価等も含める）、課題実験の準備②【理科室】
- 第13回 模擬授業の実施⑤⑥ 地球・物質・エネルギー分野の観察・実験を中心とした模擬授業（反省会・授業評価等も含める）、課題実験の準備③【理科室】
- 第14回 模擬授業の実施⑦⑧ 地球・物質・エネルギー分野の観察・実験を中心とした模擬授業（反省会・授業評価等も含める）、課題実験の準備④【理科室】
- 第15回 総括レポートの作成・課題実験【理科室】

授業方法

- ①第1回～第5回 講義とグループワーク（年間計画・学習指導案の作成）模擬授業の実施
- ②第6回～第10回 生命分野の観察・実験を中心としたグループワーク
- ③第11回～第14回 地球・物質・エネルギー分野の観察・実験を中心とした模擬授業
- ④第15回 総括レポートと課題実験

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・スクーリング受講前には、次の予習を行うこと。 ※①～⑩は、それぞれ学習時間3時間とする。
- ①テキストのpp.1-11を読み、指導要領改訂の経緯・基本方針、趣旨・要点を理解する。
- ②テキストのpp.12-28を読み、理科の目標と内容構成を理解する。
- ③テキストのpp.29-44を読み、3学年の目標と内容を理解する。
- ④テキストのpp.45-60を読み、4学年の目標と内容を理解する。
- ⑤テキストのpp.61-74を読み、5学年の目標と内容を理解する。
- ⑥テキストのpp.75-93を読み、6学年の目標と内容を理解する。
- ⑦テキストのpp.94-103を読み、指導計画の作成を理解する。
- ⑧3～6年の内容、単元等をよく見て、模擬授業を行う実験・教材を2～3時間分選んでおく。
- ⑨⑧で選んだ模擬授業の該当学年については、年間指導計画を調べてその資料を準備しておく。
- ⑩⑧で選んだ模擬授業が含まれる単元の指導計画、評価計画を調べ、その資料を準備しておく。
- ※⑨⑩については、教科書会社のホームページを参考にして、指導計画・評価計画等を準備すること。

・スクーリング受講後には、次の復習を行うこと。

- ①第1回～第5回の授業を受けて、ワークシートの内容を完成させておく。グループで実施する模擬授業の学習指導案を完成させる。(学習時間10時間)
- ②第6回～第10回の授業を受けて、ワークシート・配付資料、テキスト等を参考にして、授業内容を復習し、レポートにまとめる。(学習時間10時間)
- ③第11回～第14回の模擬授業を実施後、各グループで行った反省会や評価シートの内容を参考にして、各自で学習指導案を修正して提出する。(学習時間6時間)
- ④全授業をふりかえって、ワークシート等の内容について復習し、ノート等にまとめる。(学習時間4時間)

受講上の注意事項

- ・テキストをしっかりと予習しておく。できれば小学校理科の教科書を入手し、各学年・各分野の学習内容や教材について理解したうえでの受講を期待する。
- ・理科の授業づくりのために必要な基礎基本を学ぶ。1日目は教育課程と指導案づくり、授業設計について、2日目は多くの生物分野の観察実験、3日目は模擬授業の実施を通して指導技術や理科室経営について学ぶ。
- ・1日目にPC演習室を利用して、指導案づくり、カリキュラム構成、授業づくりを学ぶ。そのために必要な資料をデータで配付するので、**必ずUSBメモリーを持参すること。**
- ・模擬授業の実施については、限られた時間の中での準備となるので、グループでよく相談して授業内容等を決め、指導案づくり、予備実験等に取り組む。そのためには、しっかりと予習を行うことが大切である。
- ・理科授業の進め方について実践的・効果的に学ぶために、主体的・積極的な態度での受講を期待する。

評価基準

- ①小学校理科の目標と内容、指導法、評価法を理解している。
 - ②適切な素材・器具、情報機器を用いて授業を展開するための指導計画と指導案を作成できる。
 - ③観察・実験を効果的に指導するための知識、技術（情報機器やデジタルコンテンツの利用、実験器具の取り扱いを含む）を身につけている。
- 上記①～③について、次の配点で評価する。
- ・1日目については、模擬授業の学習指導案（模擬授業実施前の事前提出）で評価を行う。30%
 - ・2日目については、小レポートで評価を行う。30%
 - ・3日目については、模擬授業の取組状況、学習指導案（模擬授業実施後に再提出）で評価を行う。40%

参考文献

- ・小学校理科教科書（東京書籍、啓林館、学校図書、教育図書、大日本図書）

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20051	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・音楽 [2単位/90時間]	科目担当	臼井 真
テキスト	● 初等科音楽教育研究会 『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社				
ISBN	9784276821026	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	24065
実務経験のある教員による科目	公立小学校音楽専科教諭				

科目の目的

「小学校学習指導要領 音楽」における目標と内容について、「表現」と「鑑賞」の観点から理解を深め、理論と実践から指導法を学ぶ。歌唱共通教材では楽曲の特性を理解し、音楽性豊かに表現できるようにする。ソプラノリコーダーや器楽合奏においては、各楽器の基礎的な演奏法を身につけられるようにする。鑑賞では、個々の感じ方だけではなく、音楽の見方・考え方を踏まえ、理論的に楽曲を理解できるようにする。模擬授業では、グループディスカッションやグループワークを通して他者と協働しながら学びを深める。講義では模範演奏に加えて、より具体的に表現のイメージが膨らむよう、音声資料や映像資料を用いる。公立小学校での38年間の実務経験を十分に生かし、小学校音楽科授業の指導法について実践的な教育を行う。

到達目標

- ・小学校音楽科の目標、指導内容について理解する。
- ・音楽科における「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」、「鑑賞」の活動について理解し、各分野の基礎的な技能と指導法を身につける。
- ・小学校音楽科の評価について「表現」と「鑑賞」の観点から捉え、全体目標・学年目標と関連付けて理解する。
- ・想像力と創造力を働かせ、豊かな表現ができるとともに、子供の情操教育につながる小学校音楽科学習指導案を作成することができるようになる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（本科目の目標・内容・評価方法・進め方など）
- 第2回 歌唱共通教材の指導法（第1学年）、呼吸法・発声法について
- 第3回 歌唱共通教材の指導法（第2学年）、鍵盤ハーモニカの奏法について
- 第4回 歌唱共通教材の指導法（第3学年）、ソプラノリコーダーの奏法① 導入編
- 第5回 歌唱共通教材の指導法（第4学年）、ソプラノリコーダーの奏法② 二重奏
- 第6回 歌唱共通教材の指導法（第5学年）、実技小テスト
- 第7回 歌唱共通教材の指導法（第6学年）、鑑賞教材の見方と考え方
- 第8回 歌唱共通教材の指導法（まとめ）、器楽合奏の指導法
- 第9回 音楽科学習指導案の作成方法と評価基準について、筆記小テスト
- 第10回 楽曲名を題材名に設定した学習指導案と横断的な学習テーマを題材名にした学習指導案を作成する
- 第11回 歌唱を題材に設定した模擬授業（情報機器の活用及び教材の活用を含む）
- 第12回 ソプラノリコーダーを題材に設定した模擬授業（情報機器の活用及び教材の活用を含む）
- 第13回 器楽合奏を題材に設定した模擬授業（情報機器の活用及び教材の活用を含む）
- 第14回 鑑賞教材を題材に設定した模擬授業（情報機器の活用及び教材の活用を含む）
- 第15回 まとめ：「小学校学習指導要領 音楽」を理解し、音楽教育の意義を考える

授業方法

- ・テキスト及びスクーリング時に配付する教材プリントにより、歌唱・合唱・リコーダー奏に取り組む。
- ・グループワークにより、音楽科学習指導案を作成し、模擬授業を体験する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- スクーリング受講までに、テキストより、下記の歌唱共通教材曲を歌えるように練習しておくこと。また、受講後もよく復習しておくこと。

①1年歌唱共通教材曲4曲（練習時間5時間）	④4年歌唱共通教材曲4曲（練習時間5時間）
②2年歌唱共通教材曲4曲（練習時間5時間）	⑤5年歌唱共通教材曲4曲（練習時間5時間）
③3年歌唱共通教材曲4曲（練習時間5時間）	⑥6年歌唱共通教材曲4曲（練習時間5時間）
- スクーリング受講までに、テキストより、下記の歌唱共通教材曲をソプラノリコーダーで演奏できるように練習しておくこと。また、受講後もよく復習しておくこと。

①1年歌唱共通教材曲4曲（練習時間2時間）	④4年歌唱共通教材曲4曲（練習時間2時間）
②2年歌唱共通教材曲4曲（練習時間2時間）	⑤5年歌唱共通教材曲4曲（練習時間2時間）
③3年歌唱共通教材曲4曲（練習時間2時間）	⑥6年歌唱共通教材曲4曲（練習時間2時間）
- スクーリング受講までに、テキストの「第1章 音楽科の目標」、「第2章 音楽科の指導内容」、「第3章 音楽科の学習指導計画」、「第4章 音楽学習の評価」をよく読んで理解しておくこと。また、受講後もよく復習しておくこと。（学習時間18時間）

受講上の注意事項

《持参するもの》

- ・ソプラノリコーダー（ジャーマン式）、テキスト、USBメモリー

◎ソプラノリコーダー及びテキストを忘れた場合は、スクーリングを受講することができない。

評価基準

- ・実技小テスト（歌唱、ソプラノリコーダー奏、キーボード奏） 60%
- ・筆記小テスト（歌唱共通教材、鑑賞教材、「小学校学習指導要領 音楽」に関する問題） 20%
- ・授業への取り組み（音楽科学習指導案作成、模擬授業） 20%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20052	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・図画工作 [2単位/90時間]	科目担当	須増 啓之
テキスト	● 文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編＜平成29年7月＞』 日本文教出版				
ISBN	9784536590112	本体価格(円) (2024年1月現在)	100	生協 テキストNo.	24066 文部科学省HPよりダウンロード可能

科目の目的

学習指導要領及び解説から図画工作科の意義や目標、育成を目指す資質・能力、内容、指導方法や評価のあり方に関する知識や技術を理論と活動を通して学ぶ。また、資料や映像教材を通して児童の造形表現についての理解を深め、グループ活動での題材研究や学習指導案作成、模擬授業や検討会などを通して実践力や省察する力を養う。

到達目標

- ・児童の造形表現の発達や特徴、図画工作科の意義や目標、育成を目指す資質・能力、内容、指導方法や評価の観点などについて理論と活動を通して理解する。
- ・表現活動及び鑑賞活動における題材制作と展開方法についての理解をもとに、指導者としての視点や授業実践に対する発想や構想の能力を身につける。
- ・以上の点を踏まえ、図画工作科学習指導案を作成し、模擬授業や検討会を行なうことで指導力及び実践について省察する力を養う。

授業計画

- 第1回 【オンライン】 オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認）
「図画工作での児童の活動、教師の支援」について、映像から考える
- 第2回 【オンライン】 図画工作科の目標、育成を目指す資質・能力について活動体験を通して考える
- 第3回 【オンライン】 図画工作科の学年目標と内容構成について教科書を参考に考える
- 第4回 【オンライン】 図画工作科における題材研究の大切さ ～映像から学ぶ～
- 第5回 【オンライン】 模擬授業について（グループ分けと題材の決定など）
図画工作科学習指導案の作成における留意点について① ～題材名、目標、題材についてなど～
- 第6回 【オンデマンド】 図画工作科学習指導案の作成における留意点について② ～指導計画、準備物、展開など～
- 第7回 【オンデマンド】 図画工作科における評価規準の作成と評価方法について
- 第8回 【オンデマンド】 児童の作品からみる造形表現の発達と特徴
- 第9回 【オンデマンド】 A表現及びB鑑賞についての題材研究
- 第10回 【オンデマンド】 A表現及びB鑑賞についての学習指導案の作成
- 第11回 【対面】 指導案の調整と模擬授業の準備
- 第12回 【対面】 模擬授業の準備
- 第13回 【対面】 模擬授業と振り返り① ～A表現「絵・立体・工作に表す活動」～
- 第14回 【対面】 模擬授業と振り返り② ～A表現「造形遊びをする活動」とB鑑賞「鑑賞する活動」～
- 第15回 【対面】 講義「図画工作科指導の実際と課題、教師の役割について」及びまとめレポート

授業方法

- 第1～5回＜スクーリング1日目＞はMicrosoft Teamsを利用したオンライン（同期型）授業とオンデマンド（非同期型）授業
- 第6～10回はMicrosoft Teamsを利用したオンデマンド（非同期型）授業
- 第11～15回＜スクーリング2日目＞は本学キャンパスでの対面授業

- ・講義や題材研究を通して図画工作科学習指導案を作成し、模擬授業を実践する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・スクーリング受講までに、テキスト全体を読んで予習しておくこと。また、授業での学習を深めるために指定の参考文献を読んだり、小学校の教科書や教科書会社のホームページなどを調べたりすること。（学習時間25時間）
- ・書籍やインターネットで図画工作科の学習指導案を調べて、第6回以降の題材研究や模擬授業の準備の際に参考にすること。自分で作成した学習指導案を参考にしてもよい。（学習時間5時間）
- ・スクーリング受講後は、授業で学んだことをふまえて、授業で作成した学習指導案を再検討したり、教科書の題材などの指導案を個人で作成したりすること。また、授業で学んだことを自分なりにノートなどにまとめて整理すること。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

【受講に関する注意等】

- ・オンライン授業では、確実に双方向で応答できるようにすること。
 - ・図画工作が苦手でも構わない。授業づくりについて学ぶ科目である。特にオンデマンド（非同期型）授業での模擬授業の準備などでは、個人やグループで協力して行なって授業に臨むこと。
 - ・対面授業における模擬授業では実技も行うため、汚れを気にしない服装やエプロンなどを持参して受講すること。
- ※第6～10回のオンデマンド（非同期型）授業期間中における質問などへの対応については、スクーリング1日目に指示する。

【準備物】

- ・指定テキスト
- ・以下の材料・用具（忘れると活動できないので、必ず各自準備すること。）
[第1～5回（【オンライン】＜スクーリング1日目＞）で使用予定]
●鉛筆〔2B程度〕、消しゴム、コピー用紙（A4サイズ2枚以上、ノートでも可）…簡単な絵を課題で描く。
[第6～15回で使用予定（第11～15回は【対面】＜スクーリング2日目＞）]
●水彩用具（水彩絵具・筆・筆拭き用の布 ※対面授業時のパレットや筆洗は本学で貸し出し可。）、パス（クレパスなど）もしくはクレヨン、はさみ、カッターナイフ、のり、ホッチキス、セロテープ、両面テープ、木工用接着剤など。

※上記の材料や用具は、題材研究や模擬授業で選んだ題材によって変わる（授業の進み具合などによって使用しない場合もある）。第6～10回のオンデマンド（非同期型）授業においてグループで使用する材料や用具が決定した後、Teamsにおいて全員に通知する。全グループの模擬授業の準備物が決定してからの購入でも問題ないが、これらの材料や用具は「美術」「子どもと造形表現」スクーリングでも使用する。

※対面授業＜スクーリング2日目＞で行う模擬授業で使用する際の画用紙などは本学で準備するが、グループでの題材研究の際は個人で購入すること。

- 対面授業＜スクーリング2日目＞において指導案の修正や印刷を行うため、可能な場合はノートパソコンやUSBメモリーを持参すること。

評価基準

- ・オンライン及びオンデマンド授業（制作・鑑賞、課題）への取り組み 25%
- ・学習指導案の作成 25%
- ・模擬授業（題材研究を含む）や検討会への取り組み及び内容 30%
- ・レポート 20%

参考文献

- ・松岡宏明 『子供に子供の美術を』 三元社
 - ・国立教育政策研究所教育課程研究センター 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校図画工作』 東洋館出版社
※国立教育政策研究所のホームページ（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）からも閲覧、ダウンロードができる。
 - ・『図画工作教科書 1～6年』 開隆堂出版 日本文教出版
 - ・大橋功 『美術教育概論 新訂版』 日本文教出版
 - ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年3月＞』 東洋館出版社
- ※その他、授業中に適宜資料を提示する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20054	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・体育〔2単位／90時間〕				科目担当	田中 聡
テキスト	●松田恵示 鈴木聡		眞砂野裕 『子どもが喜ぶ！ 体育授業レシピ -運動の面白さにドキドキ・ワクワクする授業づくり』 教育出版					
ISBN	9784316803845		本体価格(円) (2024年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	24068		
実務経験のある教員による科目			教育委員会スポーツ体育課指導主事、公立小学校教員					

科目の目的

「小学校学習指導要領 体育」における目標と内容について理解を深めるとともに、学習指導の方法等についてテキストを参照しながら理解し、実践に生かせるようにする。特に、体育科の各運動領域の個別の運動の特性を踏まえた教材設定について、担当者の学校体育担当の指導主事経験を活かした解説、さらに優れた実践映像資料等を用いて学習を深め、模擬授業を通して実践的な指導力が身につけられるようにする。そのため、講義やディスカッション、グループワークなど多様な学習形態・方法を組み合わせて授業を進める。

到達目標

- ・ 文化的視点から身体運動を捉えることができるとともに、小学校体育科の目標、指導内容について理解する。
- ・ 体育科における各運動領域の特性と内容、保健領域の内容について理解する。
- ・ 小学校体育科の学習評価について、学習目標・内容と整合する考え方とその方法を理解する。
- ・ 小学校体育科学習指導案を作成するとともに、体育授業での指導方法を身につける。

授業計画

- | | | |
|------|----------|--|
| 第1回 | 【オンライン】 | 体育科は何を教える（何が学べる）教科なのかー体育の教科内容ー |
| 第2回 | 【オンライン】 | 体育科学習指導要領の目標・内容と授業の実際（情報機器及び教材の活用を含む） |
| 第3回 | 【オンライン】 | 体育科学習指導案の作成方法と学習過程・学習評価ーPDCAサイクルと授業実践ー |
| 第4回 | 【オンライン】 | 保健学習について、3日目スクーリングにおける模擬授業について |
| 第5回 | 【オンライン】 | 模擬授業時の指導案の検討と作成（班ごとのグループミーティング） |
| 第6回 | 【オンデマンド】 | 器械運動・陸上運動領域に関する授業例の検討（動画視聴と分析） |
| 第7回 | 【オンデマンド】 | 水泳運動・ボール運動領域に関する授業例の検討（動画視聴と分析） |
| 第8回 | 【オンデマンド】 | 表現運動・体づくり運動領域に関する授業例の検討（動画視聴と分析） |
| 第9回 | 【オンデマンド】 | 模擬授業の指導案作成ー単元計画部分ー |
| 第10回 | 【オンデマンド】 | 模擬授業の指導案作成ー本時案部分ー |
| 第11回 | 【対面】 | 模擬授業の打合せ（班ごと） |
| 第12回 | 【対面】 | 模擬授業の準備（班ごと） |
| 第13回 | 【対面】 | 模擬授業の実施ー器械運動領域、ボール運動領域ー |
| 第14回 | 【対面】 | 模擬授業の実施ーゲーム領域、体づくり運動領域、表現運動領域ー |
| 第15回 | 【対面】 | 模擬授業のふりかえりー成果と課題ー |

授業方法

第1～5回<スクーリング1日目>はMicrosoft Teamsを利用したオンライン(同期型)授業とオンデマンド(非同期型)授業
 第6～10回はMicrosoft Teamsを利用したオンデマンド(非同期型)授業
 第11～15回<スクーリング2日目>は本学キャンパスでの対面授業

第1～5回【オンライン】<スクーリング1日目>では、小グループごとのディスカッション・グループワークもオンライン上で実施する予定である。その際に、実質参加できない者や応答のない者は、欠席・早退等とみなし、成績に反映する。オンライン授業では、確実に双方向で応答できるようにすること。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

<予習>

- ・ 参考文献『小学校学習指導要領解説 体育編』の中で、特に第2章における運動領域の構成とその内容について理解を深めておくこと。(学習時間10時間)
- ・ 参考文献『小学校学習指導要領解説 体育編』の技能の内容について、何が具体的な運動種目として例示されているかについても予習しておくこと。(学習時間10時間)
- ・ 保健領域の内容と指導上の留意事項について参考文献『小学校学習指導要領解説 体育編』を精読すること。(学習時間10時間)
- ・ テキスト第Ⅱ章の運動のとらえ方並びに単元計画・授業計画例について知っておくとともに、模擬授業として具体化できるようにイメージしておくこと。(学習時間10時間)

<復習>

- ・ スクーリング受講後、Microsoft Teamsで配付予定の資料等の内容について復習すること。(学習時間10時間)
- ・ テキスト第Ⅳ章を精読すること。(学習時間10時間)

受講上の注意事項

- ・第1～5回【オンライン】＜スクーリング1日目＞では、オンラインで同期型講義を中心に実施する。教員の講義時は必ずしもビデオ・オンの必要はないが、各グループに分かれてのミーティングもオンラインで実施する予定である。その際にディスカッションに参加しない者、応答がない者は、欠席もしくは早退等とみなし成績に反映させる。双方向の通信ができるようにすること（Webカメラ・マイクが必要）。
- ・第6～10回【オンデマンド】では、Microsoft Teamsに投稿する課題について、各自で取り組み提出する。指定期限までに課題の提出がない場合は不合格となる。また、この間に、【対面】スクーリングで実施する模擬授業に向けて各班でチャット等により連絡を取り合ってもらうこともあるため、その心づもりをしておくこと。
- ・第11～15回【対面】＜スクーリング2日目＞では、模擬授業関連の活動があるため、運動着（ジャージ等）、体育館シューズ、タオル、飲み物（水分補給用）を忘れずに持参すること。

評価基準

- ・課題提出 60%
- ・授業への取り組み（オンライン時・対面時等の参加態度等） 40%

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編＜平成29年7月＞』 東洋館出版社又は文部科学省HP
- ・松田恵示 『「遊び」から考える体育の学習指導』 創文企画
- ※その他、スクーリング時に資料を配付する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20072	科目名 [単位数/学習時間]	障害児保育論Ⅰ [1単位/45時間]	科目担当	細木 玉恵
テキスト	● 鶴宏史 『障害児保育』 晃洋書房				
ISBN	9784771030367	本体価格(円) (2024年1月現在)	3,000	生協 テキストNo.	24073
実務経験のある教員による科目	公的機関・研究機関での発達支援、相談援助				

科目の目的

保育所・幼稚園・認定こども園などの就学前施設には、特別な支援を必要とする子どもが数多く在籍している。本科目では、障害児保育に必要な基本的知識や、保育者の基本姿勢、保育のあり方について学び、子どもたちが、いきいきと生活していくための援助方法について理解することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・子どもの発達と、さまざまな障害の特性について理解する。
- ・特別な支援を必要とする子どもの行動の背景を知り、支援のあり方を理解する。
- ・特別な支援を必要とする子どもの保育に必要な連携や協働について理解する。
- ・個々の特性に応じた支援や、環境設定について理解する。

授業計画

- 第1回 障害の定義、障害児保育の基本理念
- 第2回 障害の理解と支援① 肢体不自由・知的障害
- 第3回 障害の理解と支援② 発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD・LD）
- 第4回 障害の理解と支援③ 視覚障害・聴覚障害
- 第5回 障害児保育の実践① 全体的な計画に基づく指導計画と個別の支援計画
- 第6回 障害児保育の実践② 遊びや生活の援助と環境構成
- 第7回 障害児保育の実践③ 家庭や関係機関との協働
- 第8回 まとめ（講義のふりかえり）、確認テスト

授業方法

- ・講義、グループワークを行い、発表・討論する。
- ・適宜視聴覚教材を使用し、内容について討論する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

＜スクーリング受講前 予習＞ 課題はA4用紙にまとめ、スクーリング初日授業開始時に提出する。

テキスト第Ⅰ部～第Ⅴ部を一読し、理解を深めておく。（学習時間15時間）

【課題1】肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、知的障害、発達障害について、それぞれの障害特性と支援を1,200字程度にまとめ提出する。（ワープロソフト使用可）

【課題2】知的障害、または発達障害のある5歳児を対象にした遊びを1つ取り上げ、障害特性に応じた支援を指導案にまとめ提出する。自由書式とする。この課題をもとに、2日目グループワークを行う。（学習時間3時間）

＜スクーリング受講後 復習＞

配付資料やテキストをよく読み復習する。書籍や新聞などで障害児保育や特別な支援を必要とする子どもに関する事項について確認し、理解を深めること。（学習時間12時間）

受講上の注意事項

- ・テキスト、事前課題1・2（学籍番号、氏名を明記）を持参すること。
- ・グループワーク、発表・討論の時間は、それまでの学習をより深められるよう積極的に取り組むこと。

評価基準

- ・講義やグループワークに臨む態度 20%
- ・課題や講義時間内に指示した小レポート 30%
- ・確認テスト（記述形式） 50%

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
 - ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
 - ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ※テキストに記載されている参考文献にも興味を持ち、理解を深めること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20081	科目名 [単位数/学習時間]	児童教育学特殊講義Ⅰ〔2単位／90時間〕				科目担当	藤原 伸夫
テキスト	●伊藤嘉余子 福田公教 『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉 5 社会的養護』 ミネルヴァ書房							
ISBN	9784623079308	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	24079			
実務経験のある教員による科目			地方公務員（福祉専門職）、福祉事務所係長、公立施設長					

科目の目的

近年、児童虐待、子どもの貧困等が社会問題として取り上げられることが多くなった。本科目では担当者の福祉専門職としての経験等を通して、保護者のない児童や保護者に監護させることが適当でない児童を公的責任において社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行う「社会的養護」について学ぶ。福祉施設、福祉事務所などの実務経験を活かして教授する。

到達目標

児童の置かれている現状や児童福祉施設、里親委託等を理解し、「子どもの最善の利益」のために、社会全体で子どもを育むためにはどのような取り組みが求められるのか考える力を養い、さらには個々人ができる範囲での実践力を習得することを目標とする。

授業計画

- 第1回 子どもの養護問題の現状と社会的養護の再編<テキスト第1章>
- 第2回 子どもの権利擁護と社会的養護の必要性<テキスト第1章>
- 第3回 わが国における社会的養護の歴史的変遷と今日的課題<テキスト第2章>
- 第4回 社会的養護の制度と実施体系<テキスト第3章>
- 第5回 施設養護と家庭的養護<テキスト第3章>
- 第6回 社会的養護における子どもの権利・人権擁護<テキスト第4章>
- 第7回 社会的養護を支える理念・理論<テキスト第5章>
- 第8回 社会的養護を支える原理・原則<テキスト第5章>
- 第9回 施設養護① 乳児院・児童養護施設<テキスト第6章>
- 第10回 施設養護② 児童心理治療施設・児童自立支援施設<テキスト第6章>
- 第11回 施設養護③ 母子生活支援施設・自立援助ホーム<テキスト第6章>
- 第12回 家庭養護① 里親制度と養子縁組制度<テキスト第7章>
- 第13回 家庭養護② 里親・養親への支援<テキスト第7章>
- 第14回 社会的養護に求められる専門性と援助技術<テキスト第8章>
- 第15回 社会的養護の課題と展望<テキスト第9章>

授業方法

テキスト、配付資料を用いた講義と、適宜視聴覚教材等を活用しながら授業を進める。また、随時グループディスカッションも取り入れる。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**<予習>**

テキスト第1章・第2章を参考に、わが国における児童虐待の現状を踏まえ、自分自身が「児童虐待について考える」ところを1,200字程度のレポートにまとめ、スクーリング初日に提出すること。（学習時間30時間）

【注意】自筆で、A4サイズ原稿用紙（タテ型横書き）3枚程度、氏名・学籍番号も明記のこと。

<復習>

スクーリング受講後は、テキストpp.232-233の「さくいん」を基に用語の再確認をすること。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

- ・筆記用具のほか、テキストを必ず持参すること。
- ・受講、グループディスカッション等にあたっては、個人の主義主張にこだわることなく、広い視野と真摯な態度で、様々な考え方や意見があることを学んでほしい。

評価基準

- ・授業への取り組み（事前レポート、受講態度、関心・意欲など） 70%
- ・授業内レポート 30%

参考文献

- ・伊藤嘉余子 小池由佳 『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉 6 社会的養護内容』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20082	科目名 [単位数/学習時間]	児童教育学特殊講義Ⅱ〔2単位/90時間〕	科目担当	横田 郁子
テキスト	●文部科学省『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』フレーベル館				
ISBN	9784577814475	本体価格(円) (2024年1月現在)	240	生協 テキストNo.	24080
実務経験のある教員による科目	公立幼稚園教諭、園長				

科目の目的

幼稚園教育要領解説に書かれている保育・教育における理論と実践の関係性を具体的に展開することで、各々の保育・教育観や子ども観の構築をめざす。また、様々な遊びのもつ面白さや効果、現代における子どもの生活や遊びの姿を考察し、子ども理解を深めていくことを目的とする。

到達目標

- ・幼稚園教育要領解説を通して、現代保育・教育の在り方を考察する。
- ・様々な保育方法を学ぶことで、自らの保育を振り返り、分析及び考察を行うことができるようになる。
- ・子どもをとらえる視点を深めることで、現代保育・教育における意味や意義を考察する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（本科目の概要）幼稚園教育の役割＜テキストpp.10-21＞
- 第2回 幼稚園教育の基本＜テキストpp.23-49＞
- 第3回 幼児期に育みたい資質・能力及び育てほしい姿＜テキストpp.50-73＞
- 第4回 表現実践演習（集団遊びの実践を通して、指導について考察する。）
- 第5回 表現実践演習（わらべうたによる心の教育について考察する。）
- 第6回 教育課程の役割及び指導計画について＜テキストpp.74-78、pp.96-99＞
- 第7回 表現実践演習（絵本の読み聞かせの実践と効果について考察する。）
- 第8回 表現実践演習（折り紙等の伝承遊びの実践と効果について考察する。）
- 第9回 指導計画の具体的なねらい及び内容について並びに幼児教育における五領域（「健康」「人間関係」）について＜テキストpp.141-192＞
- 第10回 幼児教育における五領域（「環境」「言葉」「表現」）について＜テキストpp.193-247＞
- 第11回 特別な配慮を必要とする幼児への指導について＜テキストpp.124-130＞
- 第12回 表現実践演習（軍手人形の製作）
- 第13回 表現実践演習（軍手人形による実演と検証）
- 第14回 ディスカッション（総合的な指導のあり方について）
- 第15回 まとめと確認（表現実践演習を通して、幼児期の環境に必要なこと、あるいは大切な指導についてレポート作成）

授業方法

- ・講義と演習を交えた形式で行う。
- ・各々の保育・教育実践をふまえ、その方法や内容についてのディスカッションを行う。
- ・具体的な遊びの実践を通して、幼児の学びの姿を考察する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

＜予習＞

- ・テキストを熟読しておくこと。（学習時間30時間）
- ・実践演習とする遊びについて調べ、参加者と一緒に楽しくできるようにしておく。またそれらの遊びについて、意義や効果をまとめておく。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

- ・テキストを必ず持参すること。
- ・2日目に絵本1冊、折り紙1セット（10枚程度）を持参すること。
- ・3日目に軍手人形の作成の仕上げと発表をするので、材料を調達しておくこと（詳細は1日目に説明する）。
- ・積極的に講義及びグループディスカッション等に参加すること。

評価基準

- ・授業への積極的な取り組み（含む予習） 40%
- ・授業内において実施する最終レポートの提出 60%

参考文献

- ・文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館
- ・厚生労働省『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞』フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20091	科目名 [単位数/学習時間]	特別支援教育基礎理論[1単位/45時間]			科目担当	「親和通信」で連絡
テキスト	● 安藤隆男 『特別支援教育基礎論』 放送大学教育振興会						
ISBN	9784595321757	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,600	生協 テキストNo.	24083		

科目の目的

特別支援教育の理念や制度、歴史を概括的に学ぶとともに、特別な支援を必要とする子ども、特別支援教育を行う場、子どもを取り巻く関係機関の基礎的事項について学ぶ。

到達目標

- ・特別支援教育の理念や制度の概要を知る。
- ・特別な支援を必要とする子どもを取り巻く教育の基本的事項について知る。

授業計画

- 第1回 特別支援教育とは
- 第2回 特別支援教育の歴史・制度
- 第3回 インクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育
- 第4回 特別支援教育の教育課程
- 第5回 自立活動の理念と指導
- 第6回 特別支援学校の教育の現状と課題
- 第7回 小・中学校等における特別支援教育の現状と課題
- 第8回 学びの振り返りと確認（記述式試験）

授業方法

テキストをもとに講義形式で授業を行い、討論や発表も適宜行う。必要に応じて追加資料を配付する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講までに、テキスト第1章～第7章（pp. 9-109）を予習しておくこと。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

- ・テキストを必ず持参すること。
- ・スクーリング最終日の確認は記述式試験を行う。テキストと配付プリントの持ち込み可とする。

評価基準

- ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表など） 20%
- ・記述式試験（最終時間に実施） 80%

参考文献

- ・文部科学省 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』
海文堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年3月＞』 東洋館出版社又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説＜平成29年7月＞』 東洋館出版社又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年3月＞』 東山書房又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説＜平成29年7月＞』 東山書房又は文部科学省HP
- ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 ジアース教育新社又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20093	科目名 [単位数/学習時間]	知的障害児の心理B [1単位/45時間]	科目担当	「親和通信」で連絡
テキスト	●小池敏英 北島善夫 『知的障害の心理学 発達支援からの理解』 北大路書房				
ISBN	9784762822155	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,800	生協 テキストNo.	24085

科目の目的

認知的側面や言語的側面等に課題のある知的障害児に対しては、その心理的特性を踏まえるとともに、障害に対する理解を深めながら個に応じた支援を行っていくことが必要になる。本科目では、知的障害の定義や知的障害児の心理特性について幅広く学習するとともに、心理検査についての概要を理解することを目的とする。

到達目標

- ・文部科学省等の知的障害の定義を説明できる。
- ・知的障害児の心理的特性、言語特性の概要を理解する。
- ・知的障害のアセスメントの内容や方法を知る。
- ・自閉スペクトラム症児やダウン症児の心理的特性について説明できる。

授業計画

- 第1回 知的障害の定義、分類
- 第2回 知的障害における心理機能と発達支援① 知覚・学習
- 第3回 知的障害における心理機能と発達支援② 言語と感覚運動機能
- 第4回 知的障害のアセスメント① 知能検査・発達検査
- 第5回 知的障害のアセスメント② 適応行動
- 第6回 知的障害に関連する諸障害① 自閉スペクトラム症
- 第7回 知的障害に関連する諸障害② ダウン症
- 第8回 まとめ（振り返りと支援における他機関や家庭との連携のあり方についての解説）

授業方法

- ・関連資料を配付し、講義形式で授業する。
- ・ミニワークを行い、知的障害児の心理的特性を理解する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

テキストのpp. 2-19、pp.23-90、pp.174-191を読み、他の文献も参考に予習しておくこと。

学習時間は、次の通り。

知的障害の定義（学習時間 3 時間）、知的障害の分類（学習時間 3 時間）、心理機能と発達支援（知覚・学習：学習時間 6 時間）、心理機能と発達支援（言語：学習時間 6 時間）、知的障害のアセスメント（学習時間 6 時間）、知的障害に関連する諸障害（自閉症：学習時間 3 時間）、知的障害に関連する諸障害（ダウン症：学習時間 3 時間）＜学習時間合計30時間＞

受講上の注意事項

スクーリング最終日の試験は、授業中の講義資料の持ち込みを認める。

評価基準

- ・最終試験 80%
- ・授業への取り組み 20%

参考文献

- ・梅谷忠勇 生川善雄 堅田明義 『特別支援児の心理学 理解と支援』 北大路書房
- ・文部科学省 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』
海文堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 ジアース教育新社又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20096	科目名 [単位数/学習時間]	肢体不自由児の心理・生理・病理B〔1単位/45時間〕				科目担当	松井 学洋
テキスト	● 篠田達明 『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版』 金芳堂							
ISBN	9784765316286	本体価格(円) (2024年1月現在)	3,200	生協 テキストNo.	24088			
実務経験のある教員による科目			特別支援学校養護教諭・看護師、医療福祉センター看護師					

科目の目的

肢体不自由児への教育を考える上で、肢体不自由の原因や病態の理解を深めることは重要である。
 本科目では肢体不自由の定義と原因を学ぶと共に、肢体不自由児の心理、生理、病理の特徴を理解し、その病態生理に応じた特別支援教育を実施するために必要な知識と技術を学ぶ。また、現在、課題となっている学校内での医療的ケアについて概説を行う。実務経験を活かして教授する。

到達目標

肢体不自由児の病態を心理・生理・病理的観点から理解する。また、障害特性に合わせた支援方法・教育方法について理解を深める。

授業計画

- 第1回 障害の定義と肢体不自由の主な原因
- 第2回 脳性麻痺の障害の特性① 側彎・四肢関節拘縮・てんかん
- 第3回 脳性麻痺の障害の特性② 嚥下障害・胃食道逆流症
- 第4回 脳性麻痺の障害の特性③ 呼吸障害
- 第5回 学校内における医療的ケアの現状と課題
- 第6回 学校内における医療的ケアの実際① 吸引
- 第7回 学校内における医療的ケアの実際② 経管栄養
- 第8回 医療と教育の連携について

授業方法

具体的に理解ができるよう動画や写真を取り入れた講義を行う。また、講義テーマを題材にグループディスカッションを行い、学びの言語化を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義は配付資料を基に行うが、スクーリング受講までには、テキストをよく読んでおくこと。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

受講する目的を明確にした上での、主体的な授業への参加を望む。私語や居眠り等の迷惑行為は減点対象とする。

評価基準

- ・ 授業への取り組み（授業態度、意欲、発表内容など） 40%
- ・ 授業内試験 60%

参考文献

- ・ 文部科学省 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』
海文堂出版 又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20098	科目名 [単位数/学習時間]	病弱児の心理・生理・病理B[1単位/45時間]	科目担当	松井 学洋
テキスト	●宮本信也 土橋圭子 『病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版』 金芳堂				
ISBN	9784765316279	本体価格(円) (2024年1月現在)	3,200	生協 テキストNo.	24089
実務経験のある教員による科目	特別支援学校養護教諭・看護師、医療福祉センター看護師				

科目の目的

健康の概念や病弱児の生理・病理の基礎知識並びに心理面、社会面における影響を全人的に捉えて概説し、児童生徒・保護者への支援システムや社会的資源について学習する。また、病気をもちながら学校生活を送る子どもたちの生理的側面や心理的側面を学び、病弱児が健やかに学校生活を送るための支援について考える。実務経験を活かして教授する。

到達目標

様々な小児の疾患の病態を心理・生理・病理的観点から理解する。また、病弱児の発達特性に合わせた支援方法・教育方法について理解を深める。

授業計画

- 第1回 子どもの悪性腫瘍
- 第2回 子どもの内分泌疾患
- 第3回 子どもの腎泌尿器疾患
- 第4回 アレルギー性疾患① 喘息
- 第5回 アレルギー性疾患② 食物アレルギー
- 第6回 子どもの心身症
- 第7回 児童虐待の現状と課題
- 第8回 医療と教育の連携について

授業方法

具体的に理解ができるよう動画や写真を取り入れた講義を行う。また、講義テーマを題材にグループディスカッションを行い、学びの言語化を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講までにテキストをよく読んでおくこと。「授業計画」に挙げた疾患については、その病態について理解を深めた上で授業に臨むこと。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

受講する目的を明確にした上での、主体的な授業への参加を望む。私語や居眠り等の迷惑行為は減点対象とする。

評価基準

- ・授業への取り組み（授業態度、意欲、発表内容など） 40%
- ・授業内試験 60%

参考文献

- ・文部科学省 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』
海文堂出版 又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20100	科目名 [単位数/学習時間]	知的障害児教育論 I B [1 単位／45時間]				科目担当	「親和通信」で連絡
テキスト	● 杉野学 上田征三 『はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導』 大学図書出版							
ISBN	9784909655325	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	24091	生協での購入をおすすめします		
実務経験のある教員による科目		公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事						

科目の目的

知的障害児の教育課程の編成、実施、評価等については、歴史的な経緯の中で、柔軟かつ弾力的に取り組まれてきた経過がある。本科目では、知的障害児に対する教育課程の特徴を学ぶとともに、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と活用等、特別支援学校や特別支援学級で必要と考えられる基本的知識を概括して学び、知的障害児の教育に関する基本的知識を幅広く習得することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・特別支援学校（知的障害）における教育課程編成方法や内容に関する特徴を説明できる。
- ・知的障害児の学習上の特徴や教育的対応の基本を理解する。
- ・教科別の指導や各教科等を合わせた指導などの概要を説明できる。
- ・自立活動の6区分・27項目について理解し、実態把握から目標設定までのプロセスを理解する。
- ・個別の教育支援計画・個別の指導計画の概要を理解し、作成に必要な内容と留意点について理解する。

授業計画

- 第1回 知的障害児教育の教育課程の概要
- 第2回 知的障害の捉え方と関連する障害について
- 第3回 教科別の指導及び道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動の時間を設けて行う指導
- 第4回 各教科等を合わせた指導① 日常生活の指導、遊びの指導
- 第5回 各教科等を合わせた指導② 生活単元学習、作業学習
- 第6回 個別の教育支援計画、個別の指導計画の概要
- 第7回 自立活動の概要
- 第8回 知的障害教育における進路指導とキャリア教育、まとめ（カリキュラム・マネジメントの視点による整理）

授業方法

- ・資料を配付し、講義形式で授業する。
- ・テーマに沿ったミニワークを行い、発表し意見交換をする。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

テキスト及び参考文献において、「到達目標」に関連した章を読み、以下の予習をしておくこと。
 知的障害児教育の教育課程の概要（学習時間3時間）、教科別の指導（学習時間3時間）、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動の時間を設けて行う指導（学習時間3時間）、各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、遊びの指導：学習時間6時間）、各教科等を合わせた指導（生活単元学習、作業学習：学習時間6時間）、自立活動の概要（学習時間3時間）、個別の教育支援計画、個別の指導計画の概要（学習時間3時間）、知的障害教育における進路指導とキャリア教育（学習時間3時間）＜学習時間合計30時間＞

受講上の注意事項

スクーリング最終日の試験は、授業中の講義資料の持ち込みを認める。

評価基準

- ・最終試験 80%
- ・授業への取り組み 20%

参考文献

- ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』 海文堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 ジアース教育新社又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20103	科目名 [単位数/学習時間]	肢体不自由児教育論B [1 単位／45時間]				科目担当	「親和通信」で連絡
テキスト	●川間健之介 長沼俊夫 『肢体不自由児の教育 新訂』 放送大学教育振興会							
ISBN	9784595321719	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	24093			
実務経験のある教員による科目		公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事						

科目の目的

肢体不自由児の障害の特性をふまえ、肢体不自由児教育の意義、学習指導等における支援のあり方、肢体不自由特別支援学校や肢体不自由特別支援学級等の教育の場での取り組みなどについて学習する。

肢体不自由児の障害特性について、生理・病理と心理面から理解し、肢体不自由児教育の基本的事項を学ぶ。肢体不自由児教育における自立活動の意義とその指導及び肢体不自由の障害特性に配慮した各教科の指導等について学ぶ。実務経験を活かして実践的な内容を教授する。

到達目標

- ・肢体不自由児の障害特性について、生理・病理、心理面からその特徴と学習指導上の配慮事項等を理解する。
- ・肢体不自由特別支援学校や肢体不自由特別支援学級等の教育の場について理解する。
- ・教育課程編成の基本的な事項について理解し、肢体不自由児教育における自立活動や学習指導における支援のあり方、肢体不自由児教育の今後の課題について学び、認識を深める。

授業計画

- 第1回 肢体不自由児の障害特性① 生理・病理
- 第2回 肢体不自由児の障害特性② 心理 1
- 第3回 肢体不自由児の障害特性③ 心理 2
- 第4回 肢体不自由教育の実践① 教育課程
- 第5回 肢体不自由教育の実践② 自立活動の指導
- 第6回 肢体不自由教育の実践③ 各教科の指導
- 第7回 肢体不自由教育の実践④ キャリア教育と進路指導
- 第8回 学びの振り返りと確認（記述式試験）

授業方法

テキストをもとに講義形式で授業を行い、討論や発表も適宜行う。必要に応じて追加資料を配付する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講までに、テキストの第3章～第8章、第11章、第14章を予習しておくこと。また、参考文献の『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』にも目を通しておくこと。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

- ・テキストを必ず持参すること。
- ・スクーリング最終日の確認は、記述式試験を行う。テキストと配付プリントの持ち込み可とする。

評価基準

- ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表など） 20%
- ・記述式試験（最終時間に実施） 80%

参考文献

- ・文部科学省 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』 海文堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・筑波大学附属桐が丘特別支援学校 『肢体不自由教育の理念と実践』 ジアース教育新社
- ・国立特別支援教育総合研究所 『特別支援教育の基礎・基本 2020』 ジアース教育新社
- ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』「第3編 障害の状態等に応じた教育的対応 IV肢体不自由」 ジアース教育新社又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20105	科目名 [単位数/学習時間]	視覚障害児の心理・生理・病理[1単位/45時間]	科目担当	辻岡 均
テキスト	●文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領<平成29年4月告示>』海文堂出版				
ISBN	9784303124243	本体価格(円) (2024年1月現在)	440	生協 テキストNo.	24095 文部科学省HPよりダウンロード可能
実務経験のある教員による科目		公立小学校・知的支援学校・視覚支援学校・聴覚支援学校小学部教員			

科目の目的

勤務していた視覚支援学校の事例をもとに、視覚障害児の心理・生理・病理の基礎、障害特性、認知特性や発達課題を学習する。また、手引きの方法や点字、視覚障害者を取り巻く社会、制度、合理的配慮の考え方についても学習する。
本科目では、障害の理解、視覚障害の理解、視覚障害児・者の理解へと進み、障害理解教育の在り方についてもふれる。

到達目標

- ・障害の基礎として、障害の意味とその理解、ICF等障害の分類を理解する。
- ・視覚障害に関連する基本的知識を習得する。
- ・視覚の生理・病理について、視覚器の構造、視覚検査、視機能異常、眼疾患に分けてその概要を学習する。
- ・障害告知・障害受容など視覚障害児・者の心理の概要を習得する。
- ・障害理解教育の一環である疑似障害体験の意義やあり方を習得し、適切な疑似障害体験が実施できる方法を身につける。
- ・障害理解を進めるための背景となる社会の障害者観などを考察する。

授業計画

- 第1回 視覚の生理・病理① 視覚器の構造と主な眼疾患
- 第2回 視覚の生理・病理② 見え方と視機能検査
- 第3回 視覚の生理・病理③ 視覚障害による制限、手引きと歩行
- 第4回 視覚障害児・者の心理：心理とケア
- 第5回 視覚障害者と社会：歴史と現状
- 第6回 視覚障害児・者の支援と制度について：支援施設と制度、職業
- 第7回 視覚障害者の情報取得手段：情報機器と点字の仕組み
- 第8回 視覚障害者と災害 最終試験

授業方法

- ・配付資料、パワーポイントを活用して講義する。
- ・シミュレーションレンズ、アイマスク（触察や手引きの配慮事項）、点字の読み書きなどの体験を通して、視覚障害者の心理や取り巻く社会をより深く理解できるようにする。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・スクーリング受講までに、テキストを読んで予習しておくこと。（学習時間20時間）
- ・スクーリング受講後は、配付資料をよく読むこと。（学習時間10時間）

受講上の注意事項

- ・スクーリングまでに、視覚障害関連の図書に目を通しておくこと。ネット環境が整っているのであれば、筑波大学附属視覚特別支援学校などの各支援学校や国立特別支援教育総合研究所のHPなどでもよい。
- ・授業には意欲をもって積極的に取り組むこと。
- ・授業中に質問された場合は、積極的に発表すること。
- ・授業内容について「理解」（分かる）、「記憶」（覚える）、「思考」（考える）を大切にすること。
- ・最終授業時に試験（筆記テスト）を実施する。

評価基準

- ・最終試験 80%
- ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、質問・応答など） 20%

参考文献

- ・青柳まゆみ 鳥山由子 『視覚障害教育入門 改訂版』 ジアース教育新社
- ・全国盲学校長会 『視覚障害教育入門Q & A』 ジアース教育新社
- ・香川邦生 『視覚障害教育に携わる方のために』 慶應義塾大学出版会
- ・五十嵐信敬 『視覚障害幼児の発達と指導』 コレール社
- ・芝田裕一 『視覚障害児・者の理解と支援』 北大路書房
- ・白石正久 『発達の扉（上・下）』 かもがわ出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20107	科目名 [単位数/学習時間]	視覚障害児教育指導法[1単位/45時間]	科目担当	辻岡 均
テキスト	●文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領<平成29年4月告示>』海文堂出版				
ISBN	9784303124243	本体価格(円) (2024年1月現在)	440	生協 テキストNo.	24095 文部科学省HPよりダウンロード可能
実務経験のある教員による科目		公立小学校・知的支援学校・視覚支援学校・聴覚支援学校小学部教員			

科目の目的

勤務していた視覚支援学校の事例を中心に、視覚障害児の障害特性、認知特性から、視覚障害教育を考える。一般校など他の教育と比べながら、教科学習、自立活動に関する基本的知識、指導法の概要を学習する。

本科目では、視覚障害に特化するだけでなく、知的障害、発達障害など他の障害、特別支援教育、総合的な教育のあり方、障害理解教育や社会啓発の背景となる社会にも適宜ふれる。

到達目標

- ・視覚障害教育の概要を、乳幼児の相談から幼稚部、小学部、中学部、高等部、専攻科の教育まで幅広く理解する。
- ・障害特性と関連させて、全盲児、弱視児、重複障害児教育の概要や指導法を学ぶ。
- ・視覚障害教育における自立活動の概要と指導法を学ぶ。
- ・視覚障害教育のキャリア教育、合理的配慮、外部支援、理解教育について学ぶ。
- ・視覚障害児教育を特別支援教育の観点から考察し理解する。

授業計画

- 第1回 視覚障害の教育の全体像：就学から卒業まで
- 第2回 視覚障害乳幼児の発達と支援：五感を使って
- 第3回 全盲児の教育：教科指導と教材
- 第4回 弱視児の教育：教科指導と教材
- 第5回 弱視訓練及び視覚認知訓練：訓練内容と教材
- 第6回 重複障害児の教育① 日常生活動作、歩行
- 第7回 重複障害児の教育② 手指、運動、感覚、教材
- 第8回 視覚支援学校の教育：キャリア教育、合理的配慮、外部支援 最終試験

授業方法

- ・配付資料、パワーポイントを活用して講義する。
- ・触察や点字学習、各教科の教材教具などに触れながら、視覚障害児への配慮事項や学習内容について深く理解できるようにする。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・スクーリング受講までに、テキストを読んで予習しておくこと。（学習時間20時間）
- ・スクーリング受講後は、配付資料を読むこと。（学習時間10時間）

受講上の注意事項

- ・スクーリングまでに、視覚障害関連の図書に目を通しておくこと。ネット環境が整っているのであれば、筑波大学附属視覚特別支援学校などの各支援学校や国立特別支援教育総合研究所のHPなどでもよい。
- ・授業には意欲をもって積極的に取り組むこと。
- ・授業中に質問された場合は積極的に発表すること。
- ・授業内容について「理解」（分かる）、「記憶」（覚える）、「思考」（考える）を大切にすること。
- ・最終授業時に試験（筆記テスト）を実施する。

評価基準

- ・最終試験 80%
- ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、質問・応答など） 20%

参考文献

- ・青柳まゆみ 鳥山由子 『視覚障害教育入門 改訂版』 ジアース教育新社
- ・全国盲学校長会 『視覚障害教育入門Q & A』 ジアース教育新社
- ・香川邦生 『視覚障害教育に携わる方のために』 慶應義塾大学出版会
- ・五十嵐信敬 『視覚障害幼児の発達と指導』 コレール社
- ・芝田裕一 『視覚障害児・者の理解と支援』 北大路書房
- ・白石正久 『発達の扉（上・下）』 かもがわ出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20110	科目名 [単位数/学習時間]	発達障害児教育論B [1 単位／45時間]				科目担当	「親和通信」で連絡
テキスト	●小野次朗 上野一彦 藤田継道 『よくわかる発達障害 LD・ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群 第2版』 ミネルヴァ書房							
ISBN	9784623057368		本体価格(円) (2024年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	24098		
実務経験のある教員による科目			公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事					

科目の目的

LD、ADHDをはじめとする発達障害児は、小学校・中学校等の通常の学級を中心に支援されることが多く、幼児児童生徒の学習上・生活上の困難や教育的ニーズに基づく適切な支援方法の理解が求められている。また、発達障害は、低学力、不登校、行動上の問題などと深い関連があるとされる。

本科目では、LD、ADHD、自閉スペクトラム症についての定義、生理、病理、心理、認知・行動等の特徴、支援方法、学校・地域関連機関の連携システム等について、基本的知識を習得することを目的とする。さらに、重複障害、言語障害、情緒障害について、基本的知識を習得することを目的とする。

到達目標

- ・LD、ADHD、自閉スペクトラム症の定義について説明できる。
- ・LD、ADHD、自閉スペクトラム症の特徴と支援方法について理解する。
- ・自立活動の視点を踏まえた必要な支援の内容や方法を考えることができる。
- ・地域における連携機関とその連携方法について理解する。
- ・重複障害、言語障害、情緒障害について、その概要を説明することができる。

授業計画

- 第1回 LD、ADHD、自閉スペクトラム症の定義と生理・病理
- 第2回 発達障害の心理－アセスメントの実際－
- 第3回 事例検討① LD
- 第4回 事例検討② ADHDと自閉スペクトラム症
- 第5回 個別の教育支援計画と個別の指導計画の概要と作成・活用上の留意点
- 第6回 発達障害のある児童生徒等の教育的ニーズと通常の学級における支援
- 第7回 重複障害、言語障害、情緒障害の理解と支援
- 第8回 発達障害のある児童生徒のための教材・教具等、まとめ（これまでの振り返り）

授業方法

- ・資料を配付し、講義形式で授業する。
- ・DVDの視覚映像を提示し、発達障害の具体的理解を図る。
- ・ミニワークを行い、具体的な支援方法を協議し交流する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

テキスト及び参考文献『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）』において、「到達目標」に関した章を読み、予習をしておくこと。学習時間は以下の通り。

LD、ADHD、自閉スペクトラム症の定義と生理・病理（学習時間 6 時間）、個別の教育支援計画と個別の指導計画の概要と作成・活用上の留意点（学習時間 6 時間）、発達障害の心理－アセスメントの実際－（学習時間 6 時間）、発達障害のある児童生徒等の教育的ニーズと通常の学級における支援（自立活動解説：学習時間 6 時間）、発達障害に関連する法規と教育政策（学習時間 6 時間）＜学習時間合計30時間＞

受講上の注意事項

スクーリング最終日の試験は、授業中の講義資料の持ち込みを認める。

評価基準

- ・最終試験 80%
- ・授業への取り組み 20%

参考文献

- ・尾崎洋一郎 『学習障害（LD）及びその周辺の子どもたち 特性に対する対応を考える』 同成社
- ・尾崎洋一郎 『ADHD及びその周辺の子どもたち 特性に対する対応を考える』 同成社
- ・尾崎洋一郎 『高機能自閉症・アスペルガー症候群及びその周辺の子どもたち 特性に対する対応を考える』 同成社
- ・文部科学省 『特別支援学校幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』
海文堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）』
開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 ジアース教育新社又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20111	科目名 [単位数/学習時間]	特別支援学校教育実習事前事後指導〔1単位／45時間〕				科目担当	「親和通信」で連絡
テキスト	●文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』海文堂出版							
ISBN	9784303124243	本体価格(円) (2024年1月現在)	440	生協 テキストNo.	24095	文部科学省HPよりダウンロード可能		
実務経験のある教員による科目			公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事					

科目の目的

教育実習は大学の管理と実習校の教員の指導の下、大学で学んできた特別支援教育の知識・理論ないし技能を、実践的・総合的に習得するものである。このような教育実習をより充実したものとするため、実習の目的や意義をはじめ、特別支援学校での諸活動に関する事前の心構え、実習記録の書き方、学級経営、指導案の書き方、模擬授業など、実習に必要な諸事項について学ぶとともに、実務経験のある教員から特別支援学校における実務経験を活かした実践的な内容について学ぶ。

到達目標

- ・指導案を各自で書き、書式、必要な内容、指導案の論旨の一貫性について理解する。
- ・模擬授業を行い、基本的な授業スキルを身につける。
- ・特別支援学校の知識、教員の心構えを理解する。
- ・教育実習の記録の書き方に慣れる。

授業計画

<事前指導授業計画>

- 第1回 教育実習の意義と目的、教育実習の心得、教育実習の内容
- 第2回 「教育実習の記録」の書き方、「児童生徒観察記録」の書き方
- 第3回 特別支援学校の教育課程、学級経営、生徒指導について
- 第4回 特別支援学校の授業技術、指導案の書き方について①
- 第5回 指導案の書き方について②、模擬授業の計画
- 第6回 模擬授業①
- 第7回 模擬授業②
- 第8回 学びの振り返り

授業方法

<事前指導授業方法>

- ・指導案を各自で作成するとともに、必ず模擬授業を行う。
- ・他の受講者の模擬授業を参観し、お互いに評価し合う。

<事後指導>

実習終了後の提出物（教育実習の記録、学習指導案等）によるものとする。なお、必要と認められた場合は、個別面接指導を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】

次の2つの課題をスクーリング初日に提出すること。（学習時間15時間）

【課題1】

教育実習校に赴任した最初の日に、自己紹介を兼ねたあいさつを求められます。あなたはどんなあいさつをしますか？

- ①全校職員を対象にしたあいさつ（場所は、職員室）
- ②全校朝礼の時に、全校児童・生徒を対象にしたあいさつ（場所は、運動場または体育館）

※時間はそれぞれ30秒以内で、2つのパターンのあいさつを考えること。

2つのあいさつ文案をスクーリング初日に持参、提出すること。

スクーリング時に「模擬着任式」の場を設定し、お互いのあいさつを聞き合う。

【課題2】

スクーリングでは指導案をグループ・個人で作成し、模擬授業を行う。そこで特別支援学校の指導案を予習するために、インターネットで「特別支援学校学習指導案」で検索し、自分が実習する障害種（知的か肢体か病弱）の特別支援学校の指導案の中から、1つの指導案を選び、そのまま手書きで写す。また、選んだ指導案をもとに自分が授業することを想定し、具体的な留意点・配慮点を挙げて書き出したものを作成する。手書きの指導案及び留意点・配慮点を書きだしたものをスクーリング時に持参、提出すること。

【復習】

- 1. 「実習の記録」を整理する。（学習時間4時間）
- 2. 教育実習の成果についてまとめる。（学習時間10時間）

受講上の注意事項

スクーリング受講にあたって、2つの課題（上記授業外学習の【予習】）に必ず取り組むこと。

評価基準

- ・授業への取り組み（模擬授業等） 40%
- ・授業中の提出物（指導案等） 60%

参考文献

- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20116	科目名 [単位数/学習時間]	教職実践演習(幼・小)＜幼稚園教育実習終了者用＞[2単位/90時間]			科目担当	長谷川 重和・植山 佐智子 猪田 裕子
テキスト		●文部科学省『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』フレーベル館					
ISBN	9784577814475	本体価格(円) (2024年1月現在)	240	生協 テキストNo.	24080		
実務経験のある教員による科目		長谷川：公立小学校長、教育委員会指導主事 植山：公立幼稚園教諭・主任教諭・園長 猪田：私立幼稚園教諭					

科目の目的

教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況をふまえ、演習を通して教員として必要な知識技能を修得したことを確認し、不足している知識技能を補う。実務経験（小学校・幼稚園教員）を活かして実践的教育を行う。

到達目標

- ・教育に対する使命感や責任感、教育的愛情を培うとともに、社会性や対人関係構築能力を身につける。
- ・教諭に必要な子ども理解と学級経営の理論及び実践的指導力を確認する。
- ・大学内外の活動を通して、自らの課題を明確に持つ。
- ・『幼稚園教育要領』の趣旨を理解し、求められる保育者像を再考する。

授業計画

第1回

イントロダクション：教職実践演習の目的・意義及び課題の設定（長谷川）

第2回

学校園組織や教員の役割・職務内容等の理解について（長谷川）

第3回

教育実習で見いだされた課題について（小集団にて）（長谷川）

第4回

生徒指導・子育ての課題と方策について（長谷川）

第5回

保護者・地域との連携について（長谷川）

第6回

教諭に必要な資質やスキル① 特別支援を要する支援を事例から考える（植山）

第7回

教諭に必要な資質やスキル② 事例を基に保護者への支援を考える（植山）

第8回

教諭に必要な資質やスキル③ 実習での事例を踏まえて話し合い（植山）

第9回

教諭に必要な資質やスキル④ 幼稚園、小学校との接続を考える（各自の資料を参考に話し合い）（植山）

第10回

①～④ まとめと発表（植山）

第11回

教諭に必要な資質やスキル⑤ 幼稚園教育要領に基づく幼児理解について（実習経験を踏まえて）（猪田）

第12回

教諭に必要な資質やスキル⑥ 幼児期における規範意識について（実習経験を踏まえて）（猪田）

第13回

教諭に必要な資質やスキル⑦ 様々な保育形態とアプローチ（猪田）

第14回

教諭に必要な資質やスキル⑧ 様々な保育形態と環境（猪田）

第15回

実践演習の学びをまとめ、レポートとして提出する（猪田）

授業方法

教職課程における学びの総括として位置づけられる科目である。複数教員による担当で、講義および実践的内容、情報機器等を用いて演習形式で行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・幼稚園教育実習における自己課題や問題点等を振り返り、教職に就くに当たっての自分の課題についてまとめておく。（学習時間10時間）
- ・「授業計画」を確認し事例研究ができるよう、自らの実践例をまとめる。（学習時間10時間）
- ・実習期間に経験した学級経営についての課題をまとめる。（学習時間10時間）
- ・実習期間に経験した保育実践を振り返り、自らの課題を明確にする。（学習時間10時間）
- ・参考文献『幼稚園教育要領』を熟読し、理解をする。（学習時間10時間）
- ・参考文献『幼稚園教育要領』の中の幼稚園と小学校との滑らかな接続に関しての資料を収集し理解を深める。（学習時間10時間）

受講上の注意事項

- ・主体性をもって受講すること。
- ・実習での記録を整理し、実践事例が提出できるようまとめておく。
- ・実習等の活動記録から、自分自身の課題を考え、振り返りをしておくこと。

評価基準

- ・各担当が行う授業への取り組み 60%
- ・レポート（授業での各立案も含む） 40%

参考文献

- ・文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20116	科目名 [単位数/学習時間]	教職実践演習(幼・小)＜小学校教育実習終了者用＞[2単位/90時間]				科目担当	長谷川 重和・植山 佐智子 小坂 明
テキスト	●文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年3月＞』 東洋館出版社							
ISBN	9784491034607	本体価格(円) (2024年1月現在)	201	生協 テキストNo.	24099	文部科学省HPよりダウンロード可能		
テキスト	●内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（平成29年告示）』 チャイルド本社							
ISBN	9784805402580	本体価格(円) (2024年1月現在)	500	生協 テキストNo.	24100			
実務経験のある教員による科目			長谷川：公立小学校長、教育委員会指導主事 植山：公立幼稚園教諭・主任教諭・園長 小坂：公立小学校長					

科目の目的

教育課程や教育課程外での様々な活動を通して身に付けた教員としての資質能力を確実なものとする。その上で、教員生活をより円滑にスタートできるように、教員としての自分自身の課題を自覚し、不足している知識や技能を補い定着を図る。実務経験（小学校・幼稚園教員）を活かして実践的教育を行う。

到達目標

- ・教育に対する使命感や責任感、教育的愛情を培うとともに、児童や保護者と良好な人間関係を築ける社会性や対人関係構築能力を身につける。
- ・児童の内面的理解に基づく指導に努め、人間的なふれあいを通して心の通い合う学級経営・保育指導ができる資質能力を培う。
- ・教育現場の生の情報を取り入れながら、教科指導、生徒指導、学級経営、保育指導など、教育・保育における実践的な指導力を養う。

授業計画

- 第1回 イントロダクション：教職実践演習の目的・意義及び課題の設定（長谷川）
第2回 学校園組織や教員の役割・職務内容等の理解について（長谷川）
第3回 教育実習で見いだされた課題について（小集団にて）（長谷川）
第4回 生徒指導・子育ての課題と方策について（長谷川）
第5回 保護者・地域との連携について（長谷川）
第6回 教諭に必要な資質やスキル① 特別支援を要する支援を事例から考える（植山）
第7回 教諭に必要な資質やスキル② 事例を基に保護者への支援を考える（植山）
第8回 教諭に必要な資質やスキル③ 実習での事例を踏まえて話し合い（植山）
第9回 教諭に必要な資質やスキル④ 幼稚園、小学校との接続を考える（各自の資料を参考に話し合い）（植山）
第10回 ①～④ まとめと発表（植山）
第11回 道徳の授業づくりについて（小坂）
第12回 道徳の指導略案検討について（小坂）
第13回 道徳模擬授業の取組について（小坂）
第14回 新学習指導要領で求められていること（小坂）
第15回 学びの振り返りとグループによるプレゼンテーションと講評、まとめ（小坂）

授業方法

- ・教員に必要な授業力を付けていくために、指導案作成・模擬授業を行う。
- ・各個人の課題解決に繋がる具体的な項目を提示し、学びを深めていく。
- ・事例研究や演習、グループワークを通して、実践力を付けていく。
- ・各自が資料をパソコン等で作成し発表する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

＜スクーリング受講前（予習）＞（下記①②合わせて、学習時間30時間）

- ①入学時より個々の学習内容、理解度等が示されているレポートやスクーリングの学びを見直すと共に、これまでの学びを振り返り、自身の課題を明確にし、目的意識をもっていること。
②教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、附則、テキスト『小学校学習指導要領』第3章「特別の教科 道徳」、第6章「特別活動」を予習しておくこと。

＜スクーリング受講後（復習）＞（学習時間30時間）

すべての授業内容をしっかり把握し、理解し、教師としての力量を高めること。

受講上の注意事項

大学での学びを確認し、教員として着任したその日から活用できる知識や技能を身につける授業である。積極的に演習等に参加すること。

評価基準

- ・「履修カルテ」に基づき自分自身の課題等に気付き、学びを明確にすることができる 20%
- ・学級経営案、道徳指導案、模擬授業、グループ討議、プレゼンテーション等を通して、教員として必要な資質・能力が付いているか 60%
- ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表・表現等） 20%

参考文献

文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編＜平成29年 7 月＞』
あかつき教育図書又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20117	科目名 [単位数/学習時間]	音楽 [1 単位／45時間]				科目担当	山本 裕之 高 奈奈
テキスト	●池内友次郎 外崎幹二 『楽典 新訂』 音楽之友社							
ISBN	9784276100015	本体価格(円) (2024年1月現在)	1,100	生協 テキストNo.	24101			
テキスト	●小林美実 『こどものうた200 保育実用書シリーズ』 チャイルド本社							
ISBN	9784805481004	本体価格(円) (2024年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	24102			
テキスト	●初等科音楽教育研究会 『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社							
ISBN	9784276821026	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	24065			
テキスト	●フェルディナント・バイエル 全音楽譜出版社 『標準バイエルピアノ教則本』 全音楽譜出版社							
ISBN	9784111010103	本体価格(円) (2024年1月現在)	1,000	生協 テキストNo.	24103	グレードA・B選択者のみ		
テキスト	●ヨハン・フリードリヒ・フランツ・ブルクミュラー 北村智恵 『ブルクミュラー／25の練習曲』 全音楽譜出版社							
ISBN	9784111020102	本体価格(円) (2024年1月現在)	800	生協 テキストNo.	24104	グレードC・D・E選択者のみ		
実務経験のある教員による科目			山本：公立高等学校専任音楽科教諭 高：私立幼稚園音楽表現活動講師					

科目の目的

幼稚園・保育園・認定こども園での音楽表現や小学校での音楽表現において、指導者に求められる大切なことは、楽譜を正確に読み取り、音楽性豊かに表現することである。そのためには、歌唱力やピアノ演奏力が十分に備わっていないといけない。

◆声楽（クラス授業）では、童謡・唱歌・歌曲・合唱曲を通して、発声法や歌唱法を学びながら豊かな表現力を身につける。

◆器楽（各自の進度に合わせたグレード別個人レッスン授業）では、ピアノ奏法の基礎から学び、弾き歌いや身体表現のためのリズム曲の演奏法を身につける。

実務経験を十分に生かし、歌唱法やピアノ奏法等の実践的な教育を行う。

到達目標

- ◆声楽
- ・呼吸法及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付け、音程やリズムを正確に取り、表情豊かに歌唱することができる。
 - ・手話付きの歌曲を、手話を付けて歌唱することができる。
 - ・他の声部を聴きながら自分のパートの旋律を合わせることでできるハーモニー感を養う。
- ◆器楽
- ・旋律、リズム、和音を正確に読み取る読譜力を身につけ、ピアノ曲や身体表現のためのリズム曲を音楽性豊かに演奏することができる。
 - ・表情豊かに弾き歌いをすることができる。
 - ・簡易伴奏付けによるピアノ伴奏ができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：声楽実技実習授業の進め方
- 第2回 声楽 実技実習授業①
- 第3回 声楽 実技実習授業②
- 第4回 声楽 実技実習授業③
- 第5回 声楽 実技実習授業④
- 第6回 声楽 実技実習授業⑤
- 第7回 まとめ（音楽理論全般について）と確認テスト（声楽）
- 第8回 オリエンテーション：器楽（ピアノ）実技実習授業の進め方、グレード分け、和音について
- 第9回 器楽（ピアノ） 実技実習授業①
- 第10回 器楽（ピアノ） 実技実習授業②
- 第11回 器楽（ピアノ） 実技実習授業③
- 第12回 器楽（ピアノ） 実技実習授業④
- 第13回 器楽（ピアノ） 実技実習授業⑤
- 第14回 器楽（ピアノ） 実技実習授業⑥
- 第15回 まとめ（実技試験全般について）と確認テスト（ピアノ）

授業方法

- 声楽と器楽（ピアノ）の授業を行う。
- ◎声楽〔クラス授業〕
- ・リラクゼーション
 - ・呼吸法
 - ・発声練習
 - ・子どもの歌（童謡・唱歌・手話付き歌）
 - ・芸術歌曲
 - ・合唱
 - ・音楽理論

◎器楽（ピアノ）〔個人レッスン〕

・以下の表のように、A～Eのグレード別に分かれて、必修課題曲に取り組む。

①グレード表

グレード	内 容
A	全くの初心者で音符もあまり読めない
B	バイエルをほぼ終了している
C	バイエルを終了し、ブルグミュラー程度の曲なら数曲弾いている
D	ブルグミュラー程度の曲ならば、それほど練習に負担がかからない
E	ソナチネ（ソナタ）程度の曲をかなり弾いている

※グレードA～Eの選択基準について

器楽（ピアノ）の授業に関しては、授業開始時にグレードA～Eのどのグレードを選択するかを自己申告する。各グレードの基準は上記のようにになっているが、次の②必修課題曲表を参考にして、各自どのグレードにするかを決めたい。必ず受講前に練習しておくこと。

②必修課題曲表

- ・「和音付け（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）及び移調」及び「弾き歌い」の課題は、取得を希望する免許状校種によって課題が異なるので、希望する免許状校種の課題に取り組むこと。
- ・「和音付け（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）及び移調」の課題については、スクーリングで詳しく説明する。和音付けの方法が分からない場合は、メロディーを右手で弾く練習をしておくこと。

器楽（ピアノ・弾き歌い）必修課題						
課 題 グレード	標準バイエル ピアノ教則本	ブルグミュラー 25の練習曲	保育のためのリズム曲集 ＜スクーリング受講許可 時に送付＞	カデンツ ＜スクーリング受講 許可時に送付＞	和音付け（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ） 及び移調	弾き歌い
グレードA (①グレード表 参照)	No.3,4,5,6,7,14 48,52		マーチ・かけあしより 各1曲ずつ計2曲 マーチ：No.7,11 かけあし：No.24,26	pp.192-193の「簡単 に弾けるカデンツ」 より ハ長調・ト長調・ヘ 長調のカデンツ	◇幼稚園教諭 ◆小学校教諭 共通課題 『こどものうた200』 より 「むすんでひらいて」 (ハ長調)	◇幼稚園教諭 『こどものうた200』 より 「おかたづけ」 ◆小学校教諭 『最新 初等科音楽 教育法』より 「かたつむり」 ※簡易伴奏
グレードB (①グレード表 参照)	No.65,78,88,96		マーチ・かけあしより 各1曲ずつ計2曲 マーチ：No.7,11 かけあし：No.24,26	pp.192-193の「簡単 に弾けるカデンツ」 より ハ長調・ト長調・ヘ 長調のカデンツ	◇幼稚園教諭 『こどものうた200』 より 「ちょうちょう」(ヘ 長調) 「おおきなくりのき のしたで」(ハ長調) ◆小学校教諭 『最新 初等科音楽 教育法』より 「春がきた」(ハ長調)	◇幼稚園教諭 『こどものうた200』 よりどちらか1曲 「とんぼのめがね」 「おもいでのアльバ ム」 ◆小学校教諭 『最新 初等科音楽 教育法』よりどちら か1曲 「うみ」 「虫のこえ」 ※簡易伴奏
グレードC (①グレード表 参照)			マーチ・かけあし・ スキップより各1曲 ずつ計3曲 マーチ：No.7,11,16 かけあし：No.24,26,28 スキップ：No.39,41,49	pp.192-193の「簡単 に弾けるカデンツ」 より ハ長調・ト長調・ヘ 長調のカデンツ	◇幼稚園教諭 『こどものうた200』 より 「ちょうちょう」(ヘ 長調) 「たきび」(ハ長調) ◆小学校教諭 『最新 初等科音楽 教育法』より 「春がきた」(ハ長調)	◇幼稚園教諭 『こどものうた200』 よりどちらか1曲 「めだかのがっこう」 「おもいでのアльバ ム」 ◆小学校教諭 『最新 初等科音楽 教育法』よりどちら か1曲 「虫のこえ」 「ふじ山」 ※簡易伴奏可

器楽（ピアノ・弾き歌い）必修課題						
課 題 グレード	標準バイエル ピアノ教則本	ブルクミュラー 25の練習曲	保育のためのリズム曲集 ＜スクーリング受講許可 時に送付＞	カデンツ ＜スクーリング受講 許可時に送付＞	和音付け（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ） 及び移調	弾き歌い
グレードD (①グレード表 参照)		No.2,5,6,7,9,11 14,15,25より 2曲	マーチ・かけあし・ ギャロップ・スキッ プより各1曲ずつ計 4曲 マーチ：No.7,11,16 かけあし：No.24,26,28 ギャロップ：No.33,37,92 スキップ：No.39,41,49	pp.178-189の各調の カデンツ（終止形） のみ	◇幼稚園教諭 『こどものうた200』 より 「たきび」 （ハ長調・二長調） 「ごあいさつ」 （ヘ長調・ト長調） ◆小学校教諭 『最新 初等科音楽 教育法』より 「ふるさと」 （ヘ長調・ハ長調）	◇幼稚園教諭 『こどものうた200』 より 「あめふりくまのこ」 「いぬのおまわりさん」 ◆小学校教諭 『最新 初等科音楽 教育法』より 「もみじ」 ※簡易伴奏可
グレードE (①グレード表 参照)		No.14,15,17,24,25 より2曲	マーチ・かけあし・ ギャロップ・スキッ プ・ワルツより各1 曲ずつ計5曲 マーチ：No.7,11,16 かけあし：No.24,26,28 ギャロップ：No.33,37,92 スキップ：No.39,41,49 ワルツ：No.53,54,59	pp.178-189の各調の カデンツ（終止形） のみ	◇幼稚園教諭 『こどものうた200』 より 「たきび」 （ハ長調・二長調） 「ごあいさつ」 （ヘ長調・ト長調） ◆小学校教諭 『最新 初等科音楽 教育法』より 「ふるさと」 （ヘ長調・ト長調） 「こいのぼり」 （ヘ長調）	◇幼稚園教諭 『こどものうた200』 より2曲選択 「もりのくまさん」 「あわてんぼうのサ ンタクロース」 「いちねんせいにな ったら」 ◆小学校教諭 『最新 初等科音楽教 育法』より2曲選択 「ふじ山」 「もみじ」 「われは海の子」 ※簡易伴奏可

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- Ⅰ．「声楽」については、スクーリング受講までに下記の歌曲（スクーリング受講許可時に楽譜送付）について歌えるように練習しておくこと。
- ①ともだちになるために（練習時間 1 時間）
 - ②世界中のこどもたちが（練習時間 1 時間）
 - ③にじ（練習時間 1 時間）
 - ④きみとぼくのララ（練習時間 1 時間）
- Ⅱ．「器楽（ピアノ）」については、スクーリング受講までにグレードA・B・C・D・Eより各自のピアノ演奏スキルに合わせたグレードを1つ選び、下記の曲を練習しておくこと。
- ①『バイエル』、または『ブルクミュラー』よりピアノ曲（練習時間 3 時間）
 - ②『保育のためのリズム曲集』＜スクーリング受講許可時に送付＞よりピアノ曲（練習時間 3 時間）
 - ③「カデンツ」＜スクーリング受講許可時に送付＞（練習時間 2 時間）
※グレードA・B・Cはハ長調・ト長調・ヘ長調、グレードD・Eは6つの調すべてを左手で弾く練習をする。
 - ④「弾き歌い」より歌曲の弾き歌い（練習時間 3 時間）

受講上の注意事項

《持参する物》

- ①スクーリング受講許可時送付の楽譜すべて
- ②テキスト『こどものうた200』
- ③テキスト『改訂版 最新 初等科音楽教育法』

※上記の持参物を忘れた場合は、スクーリングを受講することができない。

評価基準

- ・器楽実技試験 50%
- ・声楽実技試験 40%
- ・音楽理論筆記試験 10%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20118	科目名	美術 [1単位／45時間]			科目担当	須増 啓之
		[単位数 / 学習時間]					
テキスト		● 松岡宏明 『子供に子供の美術を』 三元社					
ISBN	9784883035755	本体価格(円) (2024年1月現在)	1,700	生協 テキストNo.	24105		
科目の目的 小学校図画工作科の内容について解説し、個人や共同での制作活動を通して、児童の造形表現について体験的に理解する。そして、様々な材料や表現方法、用具に触れることで指導実践に生かすことのできる基礎的な知識や技術を習得する。また、活動を通して描いたり、つくったり、見たりすることの楽しさを味わい、造形を愛好する心情を養う。 到達目標 ・ 様々な素材や材料、道具に触れ、その特性を理解し、図画工作科における造形指導の基礎的な知識や技術、発想や構想の能力を身につける。 ・ 制作活動や鑑賞活動を通して感性を豊かにし、他者の考え方や造形に触れながら自分とは異なる表現を楽しみ、受容することができるようになる。 ・ 児童の造形表現や内容について、活動を通して理解する。 ・ 造形活動に関心をもち、造形指導への意欲を培う。 ・ 活動について自分なりに体験を分析し、記録としてまとめることができる（授業外学習）。 授業計画 第1回 オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認など） 自分の造形体験を振り返ることから造形表現について考える 第2回 描いてみよう ～形から発想しよう～ 第3回 パスで色をぬろう① ～いろいろなパスの表現を試そう～ 第4回 パスで色をぬろう② ～型紙を使って、パスを指でのぼそう～、及びパスについての基礎・基本 第5回 紙でつくろう ～紙を折ったり、切ったりして、いろいろな形を発見～ 第6回 絵具で色をぬろう① ～色について体験的に学ぼう～、及び色についての基礎・基本 第7回 絵具で色をぬろう② ～いろいろな用具を試して色をつけてみよう～ 第8回 うつしてみよう① ～彫刻刀を使ってみよう～、及び版画についての基礎・基本 第9回 うつしてみよう② ～彫刻刀を使って、回転木版画に挑戦～ 第10回 うつしてみよう③ ～つくった版にインクをつけてうつそう～ 第11回 仕組みを使ってつくろう ～動く仕組みを工夫して工作をしよう～ 第12回 感触を楽しもう ～粘土で遊ぼう～、及び粘土についての基礎・基本 第13回 材料で遊ぼう ～並べたり、積んだり、つなげたり～ 第14回 見てみよう ～つくった作品を鑑賞しよう～ 第15回 図画工作科の内容と児童の造形表現の特徴について 授業方法 造形遊びや造形表現、鑑賞などの実技（講義を含む）を行う。 授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・ 授業での学習を深めるために、スクーリング受講前までにテキスト（pp.56-80、pp.82-130）や参考文献を読み、図画工作科で大切にすることや指導方法などについて予習しておくこと。（学習時間 5 時間） ・ スクーリング受講後は、授業で取り組まなかった表現技法やさらに深めたい表現（授業で十分にできなかった表現を含む）などに各自取り組むこと。また、学んだことや授業で活動した作品のつくり方や工夫点、難しかった点、活動後の変化などについて、自分なりに写真などを使ってノートやデータ（WordやPowerPointなど）に視覚的にまとめて、学びを分析し深めること。（学習時間10時間） 受講上の注意事項 【受講に関する注意等】 ・ 描いたり、つくったりすることが苦手でも構わない。失敗を恐れず、チャレンジすることが大切である。個人活動だけでなくグループ活動も行うため、積極的に参加すること。 ・ 実技がメインとなるため、汚れを気にしない服装やエプロンなどを持参して受講すること。 【持参する物】 ・ 指定テキスト ・ 以下の材料・用具（<u>忘れると活動できないので、必ず各自準備のうえ持参すること。</u>） [全日程共通] はさみ、カッターナイフ、のり、セロテープ [1日目で使用予定] パス（クレパスなど）もしくはクレヨン、折り紙 [2日目で使用予定] 水彩用具（水彩絵具・筆・筆拭き用の布 ※パレットや筆洗は本学で貸し出し可。） [3日目で使用予定] 両面テープ、木工用接着材 ※上記の材料、用具類は「教科教育法・図画工作」、「子どもと造形表現」などでも使用する。<u>なお、授業の進み具合などによって使用しない場合もある。</u>							

評価基準

- ・活動（制作・鑑賞）への取り組み 70%
- ・小レポート 30%

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編＜平成29年 7 月＞』
日本文教出版又は文部科学省HP
- ・松岡宏明 『子供の世界 子供の造形』 三元社
- ・大橋功 『美術教育概論 新訂版』 日本文教出版
- ・『図画工作科教科書 1～6 年』 開隆堂出版または日本文教出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20132	科目名 [単位数/学習時間]	子どもの食と栄養 [1 単位／45時間]				科目担当	廣田 有加里	
テキスト	●太田百合子		堤ちはる 『子どもの食と栄養 保育現場で活かせる食の基本 第2版』 羊土社						
ISBN	9784758109116		本体価格(円) (2024年1月現在)	2,400		生協 テキストNo.	24109		
実務経験のある教員による科目			管理栄養士（企業、福祉、医療分野での健康管理業務）						

科目の目的

乳幼児期の食と栄養は、豊かな人間性を育て、生きる力をはぐくみ、発達を支え、健康な身体を作る基礎であることを理解する。栄養に関する基礎知識をもとに、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの発育・発達、疾患等での対応食に関して理解し、健全な発育・発達を促すため必要な事柄を栄養・食生活面から学ぶ。また、食育の進め方や食育を推進するための取り組みについての知識を習得し、さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食生活全般への働きかけや栄養教育等を学ぶ。健康管理の実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・親の生活習慣に影響を受ける子どもの食生活の現状を把握し、認識することで課題を探りだすことができる。
- ・子どもの食と栄養の特性を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた適切な食生活について説明できる。
- ・乳児期では、離乳の意義と実践の方法について、具体的に指導ができるようになる。
- ・幼児期の生活習慣はその後にも影響を及ぼすことから、食生活上の問題を理解し、対策を講じることができる。
- ・学童期の学校給食の役割と現状について理解し、食育ができるようになる。
- ・食育の基本とその必要性や取り組みについて、地域社会・文化との関わりの中で理解し実践できる。
- ・特別な配慮を要する子どもへの適切な対応方法を案出し、実行に移すことができる。

授業計画

- 第1回 子どもの健康と食生活の意義／乳幼児栄養調査結果から読みとる子どもの食生活の現状と課題
- 第2回 栄養に関する制度／食事摂取基準と献立作成・調理の基本
- 第3回 子どもの発育・発達と食生活／乳児期の心身の特徴と食生活の関係
- 第4回 乳児期の食生活／乳汁栄養・離乳食期栄養の意義とその実践
- 第5回 幼児期の心身の発達と食生活／幼児期の食機能の特徴／幼児期の間食
- 第6回 学童期・思春期の心身の発達と食生活／学童期・思春期の食生活上の問題と対応と学校給食を活用した食育
- 第7回 食育の基本と内容／子どもの心と体を育む食育／食生活指導及び食を通じた保護者への支援
- 第8回 食物アレルギーのある子どもへの対応／まとめとして、講義内容の理解度を確認するために試験を実施する

授業方法

- ・パワーポイントを使用した講義および演習をテキストと配付資料を用いて進める。
- ・受講生同士によるディスカッションを行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】

- ・テキストpp.22-33を熟読し、栄養素の種類と機能について予習をしておくこと。（学習時間 6 時間）
- ・テキストpp.48-59を熟読し、妊娠前、妊娠期および授乳期の生活習慣が乳児に及ぼす影響について予習をしておくこと。（学習時間 4 時間）
- ・テキストpp.62-68を熟読し、乳汁栄養について予習をしておくこと。（学習時間 3 時間）
- ・テキストpp.68-75および参考文献『授乳・離乳の支援ガイド（2019年改定版）』を熟読し、離乳食の意義と進め方のポイントを予習しておくこと。（学習時間 3 時間）
- ・テキストpp.76-87を熟読し、幼児期の間食の意義と栄養問題について予習をしておくこと。（学習時間 3 時間）
- ・テキストpp.132-141を熟読し、児童福祉施設における食生活の実態と問題点について予習をしておくこと。（学習時間 3 時間）
- ・テキストpp.161-170を熟読し、食物アレルギーに関する新しい知識や見解を予習しておくこと。（学習時間 3 時間）

【復習】

- ・『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』から、離乳期の子どもへの意識、養育者の健康や食生活に対する考え方について復習する。（学習時間 2 時間）
- ・『令和元年「国民健康・栄養調査」の結果の概要』から、成人期（親世代）の生活習慣について復習する。（学習時間 1 時間）
- ・『日本人の食事摂取基準（2020年版）』の策定ポイントを正しく理解しておく。（学習時間 2 時間）
- ※『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』と『令和元年「国民健康・栄養調査」の結果の概要』の抜粋した資料は、スクーリング時に配付する。

受講上の注意事項

- ・保育士をめざす学生の素養として、日頃から食に関して興味や関心を持ち、新聞、書籍、雑誌、インターネットなどから情報を取り入れる習慣を持つ。
- ・子どもの望ましい発育のためには周りの大人が自覚ある生活を送ることが必要であるため、自分自身の食生活を振り返り、見直す姿勢を持ち、実践するように心がける。
- ・栄養素の基礎知識を身につけて受講に臨むこと。

評価基準

- ・最終試験 50%
※試験は、講義の内容を理解した上で、設問に対して的確に解答していることを評価する。
- ・授業への取り組み 25%
※講義への参加態度に関しては、自ら積極的に発言する姿勢を評価する。
- ・提出物（課題） 25%
※課題の趣旨を理解し、論理的に記述しているかを評価する。

参考文献

- ・厚生労働省 『日本人の食事摂取基準（2020年版）』
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08517.html
 - ・厚生労働省 『妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針』
 - ・厚生労働省 『授乳・離乳の支援ガイド（2019年改定版）』
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html
 - ・厚生労働省 『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html>
 - ・厚生労働省 『令和元年「国民健康・栄養調査」の結果』
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_14156.html
 - ・『食物アレルギー栄養食事指導の手引き2022』 <https://www.foodallergy.jp>
 - ・消費者庁 『食品による子どもの窒息・誤嚥事故に注意！』
<https://www.caa.go.jp/notice/entry/022854/>
 - ・農林水産省 『食事バランスガイドと従来の分類法との関連』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/guide.html
 - ・農林水産省 『第4次食育推進基本計画』
https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/hyoji/210331_35.html
- ※官公庁のWebサイトのみ可。参考文献および引用文献の記載のない健康雑誌や企業等のWebサイトは不可。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20138	科目名 [単位数/学習時間]	保育実習指導ⅠA(保育所)[1単位/45時間]				科目担当	北野 富美子
テキスト	●公益財団法人児童育成協会『新・基本保育シリーズ 20 保育実習』中央法規出版							
ISBN	9784805858004	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	24081			
実務経験のある教員による科目		公立保育士(主任・所長)、地域子育て支援センター長						

科目の目的

本科目では、充実した実りの多い実習となるよう、事前の準備や保育者としての心構え、具体的な保育内容の研究等を行う。また、子どもとの関わりを大切にすることで、その理解を深め、保育者としての成長をめざす。実習終了後には、実習記録、実習指導案の提出が必要となる。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・保育実習に関する基本的な事項を学び、実習の意義や目的について理解する。
- ・実習生としての心構えや準備について理解する。
- ・実習の課題を明確にし、その設定から実践、考察までの過程を理解する。

授業計画

<事前指導授業計画>

- 第1回 保育実習の目的と概要
- 第2回 保育所の役割と機能
- 第3回 保育実習の心構えと準備
- 第4回 保育実習の記録と子どもを捉える視点
- 第5回 保育所における計画と実践① 実習日誌の作成
- 第6回 保育所における計画と実践② 指導案の立案と実践
- 第7回 自己課題の明確化
- 第8回 学びを深めるために

授業方法

<事前指導授業方法>

講義と演習を交えた形式で行う。学生同士の意見交流やロールプレイ等も行うので、積極的な参加を心がけてほしい。

<事後指導>

実習終了後の提出物(実習記録、実習指導案)によるものとする。なお、必要と認められた場合は、個別面接指導を行う。

授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・テキストpp.256-257に記されている「全国保育士会倫理綱領」を一読し、テーマ「私の目指す保育者像」について600～800字程度(A4用紙でパソコン等による作成可)にまとめなさい。作成したレポートの提出は、スクーリング初日とする。(学習時間10時間)
- ・保育実習中に使用する手作りの名札を作成する。具体的な説明はスクーリング中に行う。(学習時間5時間)
- ・保育実習中における実習日誌及び保育指導案の書き方を修得する。具体的な説明はスクーリング中に行う。(学習時間5時間)
- ・スクーリング受講後は、テキストpp.213-228を読んでおくこと。(学習時間10時間)

受講上の注意事項

講義及び演習では、保育実技等の実践も多くなるので、意欲を持って積極的に参加してほしい。

評価基準

- ・事前課題を行うなど、意欲的に参加できているか 20%
- ・授業内容や様々な実践を通して、「保育」に対する考察が深められているか 60%
- ・具体的な保育内容の探究ができているか 20%

参考文献

- ・厚生労働省『保育所保育指針解説<平成30年3月>』フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説<平成29年告示>』フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」のX)を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20139	科目名 [単位数/学習時間]	保育実習指導Ⅱ（保育所）[1単位/45時間]	科目担当	久保木 亮子
テキスト	●公益財団法人児童育成協会『新・基本保育シリーズ 20 保育実習』中央法規出版				
ISBN	9784805858004	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	24081
実務経験のある教員による科目	公立保育園長、公立保育園・幼稚園兼務園長、子育て支援センター長				

科目の目的

本科目は、実習を通して子どもや保育者との直接的な関わりを観察・体験することにより、これまで学んできた様々な知識や技能を基礎として、子ども理解を図り保育の理論と実践の関係について習熟する。実習終了後には、実習記録、実習指導案の提出が必要となる。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・保育所の役割や機能について理解する。
- ・子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
- ・保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価について理解する。
- ・保育士の業務内容や職業倫理について理解する。
- ・保育士としての自己課題を明確にする。

授業計画

<事前指導授業計画>

- 第1回 子どもの最善の利益を考慮した保育の理解 事例をもとに講義・討議する
- 第2回 子どもの保育と保護者支援 事例をもとに講義・討議する
- 第3回 保育実践力の育成① 子どもの発達理解とその関わり
- 第4回 保育実践力の育成② 表現技術を活かした保育実践 絵本の読み聞かせ、わらべうたなどの技術を習得する
- 第5回 保育所における計画と実践① 指導案の立案 乳児・幼児（半日、全日）
- 第6回 保育所における計画と実践② 指導案による模擬保育の実施と評価反省を行う
- 第7回 自己課題の明確化 PDCAサイクルを活用し自身の強み、不足部分を知り保育士としての成長につなげる
- 第8回 まとめ：学びの深まりを確認 疑問点、不安な点について話し合い自信につなげていく

授業方法

<事前指導授業方法>

講義と討議・演習を交えた形式で行う。受講生同士の意見交流や模擬保育なども行うので、意欲的に学んでほしい。

<事後指導>

実習終了後の提出物（実習記録、実習指導案）によるものとする。なお、必要と認められた場合は、個別面接指導を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・テキストの第15講に記載されている【保育所実習 施設実習⑤施設内の生活環境、衛生、安全管理】を読み、テーマ「施設内の生活環境や管理とリスクマネジメント等」について、1,000字程度（A4用紙でパソコン等による作成可）にまとめなさい。作成したレポートの提出は、スクーリング初日とする。（学習時間 5 時間）
- ・乳児、幼児で実践できる保育指導案を作成する。具体的な説明、指導はスクーリング中に行う。（学習時間10時間）
- ・保育に使える手遊び、絵本の読み聞かせを練習しておく。（学習時間 5 時間）
- ・模擬保育を行うので保育指導案をもとに保育実践の練習をしておく。（学習時間 5 時間）
- ・スクーリング受講後は、テキストの第18講を読んでおくこと。（学習時間 5 時間）

受講上の注意事項

- ・講義及び演習では、保育実技などの実践を多く取り入れるので、事前準備を行い意欲的に参加すること。
- ・1日目に絵本の読み聞かせを行うので、乳児用、幼児用各1冊ずつ持参すること。

評価基準

- ・事前学習（予習）をしているか 20%
- ・授業内容や様々な実践を通して、「保育」に対する考察が深められているか 60%
- ・具体的な保育内容を理解し探求できているか 20%

参考文献

- ・厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20143	科目名 [単位数/学習時間]	教育実習事前・事後指導(初等)【幼稚園】[1単位/45時間]		科目担当	猪田 裕子	
テキスト		●文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館					
ISBN	9784577814222	本体価格(円) (2024年1月現在)	149	生協 テキストNo.	24058		
テキスト		●内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館					
ISBN	9784577814246	本体価格(円) (2024年1月現在)	149	生協 テキストNo.	24060		
実務経験のある教員による科目		私立幼稚園教諭					
科目の目的 ・幼児教育について理解を深め、幼稚園教諭としての資質の向上と実践に必要な力を身に付ける。 ・様々な実習場面を想定することで、柔軟性及び対応力を養う。 ・実習を通し、今後の自己の課題を明確にする。							
到達目標 ・幼児の興味や関心に沿った保育指導案を作成する。 ・一日の保育の流れや個々の幼児の姿を的確にとらえた記録を作成する。 ・必要な技術を身に付ける。 ・実習の成果や評価を踏まえ、今後の自己課題を明確に持つ。 ・教育的愛情に関する視点を深める。							
授業計画 ＜事前指導授業計画＞ 第1回 幼稚園教育実習の意義と目的、及び各回授業の内容について（オリエンテーション） 第2回 幼児の特性、教師の役割について 第3回 教育実習の記録の書き方（環境の構成、教師の援助等の意味を考える） 第4回 DVD視聴を通して、幼稚園生活の一日の流れを把握する 第5回 エピソード記録の書き方 第6回 指導案の書き方 第7回 部分保育を想定した実技指導（季節の歌、絵本読み、身体を動かす遊び等）／課題を用いて行う模擬保育 第8回 模擬保育を振り返り学生同士で反省・評価をする							
授業方法 ＜事前指導授業方法＞ ・幼稚園の生活が具現化できるよう講義や映像を通して学習する。 ・毎日の保育記録が的確に作成できるように、模写や実際の映像をみて学習を進める。 ・模擬授業を通し、歌や絵本、ゲームなどの実践的な能力を培う。 ・教育現場でのマナーや心得、保護者対応のあり方などを学ぶ。 ＜事後指導＞ ・実習終了後の提出物『記録』によるものとする。なお、記録の内容や現場における評価から必要とみなされる場合は、個別面接指導を行う。							
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・受講前（予習）…模擬保育で取り組む教材を作成し、スクーリング初日に持参すること。 ペープサート、エプロンシアター、手作り紙芝居等、各自で教材研究を行い作成すること。 (学習時間12時間) 模擬保育の流れの中で行う手遊び1つと絵本1冊を選びスクーリング初日に持参すること。 子どもの前で手遊びや絵本を読むことを意識して練習すること。(学習時間2.5時間) ・受講後（復習）…テキスト『幼稚園教育要領』（pp.5-13）の「第1章 総則」を熟読し、実習での学びを踏まえ考察すること。(学習時間14.5時間)							
受講上の注意事項 ・幼稚園現場での実習に備えた授業である。従って理論はもとより、実際に歌ったり、絵本を読んだりと模擬保育的な内容であるので、動きやすい服装で参加すること。 ・事前にテキスト『幼稚園教育要領』や各種保育雑誌に目を通し、幼稚園教育について理解をしておくこと。 ・授業外課題である教材研究で作成した教材は、確認のため初日に持参するが、使用予定は2日目である。							
評価基準 ・授業への取り組み 70% ・模擬保育への姿勢 15% ・課題等提出物 15%							
参考文献 ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館 ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説＜平成29年告示＞』 フレーベル館							
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩ）を参照すること。							
課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。							

科目コード	20143	科目名 [単位数/学習時間]	教育実習事前・事後指導(初等)【小学校】[1単位/45時間]	科目担当	齋藤 隆彦 山田 希代子
テキスト	●文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編＜平成29年7月＞』 東洋館出版社				
ISBN	9784491034621	本体価格(円) (2024年1月現在)	162	生協 テキストNo.	24029 文部科学省HPよりダウンロード可能
実務経験のある教員による科目	齋藤：中学校教諭（教科「国語科」） 山田：公立小学校教員・管理職、小学校教育研究会部長（生活・総合的な学習部）				

科目の目的

教育実習は、これまでに教職科目及び専門科目等で身に付けた教育に対する知見を実際の教育現場で試し、より鍛えていく意義ある機会である。この事前指導では、小学校における教育実習の目的や意義を理解し、心得や準備など、諸事項を学んで実習に備える。

各担当者の実務経験をもとに教育実習で成長するための知識・技能、思考法などを内容とした講義・演習を行う。

到達目標

- ・小学校教育実習に向けて、実習の意義と概要を理解し、実習生としての心構えができる。
- ・自己紹介、実習記録や学習指導案の書き方、教室での言動など、実習に必要な知識やふるまいを理解し、身につける。
- ・「学習指導案」の作成・自己添削による授業の構想（またはミニ模擬授業）を通して、実際的な教育活動について、知識と技能を高めることを目的とする。

授業計画

<事前指導授業計画>

- 第1回 教育実習の意義と目的、教育実習の概観、心構えと服装、態度
- 第2回 学級経営、教科経営、生徒指導、教科指導
- 第3回 「自己紹介」を通して取材編集表現演習と教育実習の記録、観察演習
- 第4回 「自分を伝える」「子どもたちから受け取る」教室での表現と児童理解 それらをもとに「授業参観」や「実習日誌」の目的・方法を考える。
- 第5回 授業の構築と学習指導案 目標・発問・板書・ワークシート・評価等
- 第6回 「学習指導案」の自己添削とミニ模擬授業①
- 第7回 「学習指導案」の自己添削とミニ模擬授業②
- 第8回 「お礼の手紙」等の作法、教育実習で「学ぶべきこと」「学びたいこと」のまとめ

※上記計画の内容を行う予定であるが、その順序・各内容の軽重等に変更の場合がある。

授業方法

<事前指導授業方法>

講義方式と、受講生によるプレゼンテーション（自己紹介、授業構想等）、ペアまたはグループワーク等の演習方式で行う。

<事後指導>

実習修了後の提出物（教育実習記録・学習指導案・実習記録ノートなど）によるものとする。なお、必要と認められた場合は、個別面接指導を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講前 には、次の準備をすること。

1. 次の内容について考え、①②をあわせA4用紙 1 枚にまとめたものを作成する。（学習時間 4 時間）
 - ①教育実習の期間中に、どんな力を高め、磨いていきたいのか。教育実習における自分自身の課題について。
 - ②教員志望の動機（なぜ、教員をめざすのか）、志望都道府県あるいは市の動機（なぜ、この都道府県あるいは市を選ぶのか）、教員として生かせる経験、めざす教員像について。
2. 実習校がすでに決定している場合は、実習校のHPなどで沿革、規模（児童数・教員数、学年構成など）、行事など、概要を把握しておくこと。決定していない場合は、任意の学校（自分の母校・近隣の学校など）について、同様の内容を調べ、「小学校」について把握に努めること。（学習時間 2 時間）
3. 小学校で指導する「学年別漢字配当表」（テキスト『小学校学習指導要領解説 国語編』）の漢字について、筆順を確認しておく。まれに、ひらがなの筆順のあやしい人もいるので、ひらがな、カタカナの筆順も確認しておく。（学習時間 3 時間）
4. 次の①②③の 3 点を作成する。
 - ①挨拶文「教職員への挨拶（約200字）」「朝会における全校生への挨拶（約300字）」「担当学級児童への挨拶（約600字：何学年の児童へ向けての挨拶かも明記すること）」
A4用紙 1 枚に上記 3 つの自己紹介を書く。（ワープロソフト等による作成可）（学習時間 2 時間）
 - ②自己紹介プリント
実習配属クラスにも「あなたの自己紹介」を掲示してもらえらることになったと想定して、A4用紙 1 枚の「自己紹介ポスター」を書くこと。名前他、内容の項目やイラストなども自分で工夫・選択し作成する。（学習時間 2 時間）
 - ③学習指導案（教科は自由選択とする。）
任意に選択した 1 教科の単元について、A4用紙 3 枚程度にまとめる。（ワープロソフト等による作成可）
提出分と控え（自分用）として、2 部印刷してくること。
言うまでもないが、ネット等の資料の「まる写し」や「ぼぼ丸写し」ではなく、自分自身で「この教科のこの題材を使って、児童にどんな力をつけたいか」を考えながら、作り上げる。（学習時間 4 時間）

スクーリング受講後 には、次の復習をすること。

1. 教員になるにあたって、講義の内容、他の受講生の意見などをもとに自分の課題を見直す。(学習時間 2 時間)
2. 教員志望の動機、都道府県あるいは市の動機について、講義の内容、他の受講者の意見などをもとに自分の動機を見直す。(学習時間 2 時間)
3. 板書など書字について、各自で見直し練習する。(学習時間 2 時間)
4. 挨拶文例・自己紹介ポスターを講義の内容、他の受講生の意見などをもとに見直す。(学習時間 2 時間)
5. 授業参観の仕方・「実習日誌」の書き方を講義の内容、他の受講生の意見などをもとに見直す。(学習時間 2 時間)
6. 学習指導案を講義の内容、他の受講生の意見などをもとに見直す。(学習時間 2 時間)

受講上の注意事項

- ・**教師として相応しい服装で参加すること。**(1 日目：実習初日に学校に向かう服装。2 日目：自分の想定する模擬授業にふさわしい服装。)
- ・「授業外学習(予習・復習)の具体的な内容及びそれに必要な時間」の「スクーリング受講前の準備」で指示した、**次の①～④をスクーリング初日に持参すること。**(※初日朝提出。提出物すべてに学籍番号と氏名を記載。)
 - ①教育実習における自分の課題と教員志望の動機(スクーリング受講前の準備 1.①②)
 - ②挨拶文(スクーリング受講前の準備 4.①)
 - ③自己紹介プリント(スクーリング受講前の準備 4.②)
 - ④学習指導案(スクーリング受講前の準備 4.③)＜提出分と控え(自分用)として、2 部印刷してくること。＞

評価基準

- ・授業態度(講義を聴く、あるいは発言する態度。プレゼンテーションなどのペア・グループワーク時の参加の態度) 50%
- ・提出物(教育実習における自分の課題、教員志望の動機、挨拶文例、自己紹介プリント、学習指導案) 50%

参考文献

- ・筒井美紀 遠藤野ゆり 『ベストをつくる教育実習－強みを活かし実力を伸ばす』 有斐閣
- ※「教育実習」関係の書籍は上記以外にも多く出版されているので、図書館や書店で探し、自分なりに「よい」と思うものを熟読しておくとうい。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」の **X**) を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20145	科目名 [単位数/学習時間]	保育実習指導ⅠB(施設)[1単位/45時間]		科目担当	藤原 伸夫
テキスト		スクーリング時に適宜資料を配付する。				
ISBN		本体価格(円) (2024年1月現在)		生協 テキストNo.		
実務経験のある教員による科目		地方公務員（福祉専門職）、福祉事務所係長、公立施設長				
科目の目的						
児童福祉施設の役割や機能を確認し、社会的養護について深く理解できるよう、施設での保育、養護を体験し、同時に施設における保育士に求められている専門的知識・技術に関する必要な資質の向上をめざす。福祉施設の指導員や施設長としての体験談、事例紹介など実務経験を活かして教授する。						
到達目標						
・児童福祉施設（保育所以外）における保育士の職務内容や職業倫理について理解する。 ・施設実習の意義・目的を理解する。 ・実習先施設の役割や機能を理解し、自らの実習課題を明確にする。 ・実習に向けて、人権擁護と最善の利益の考慮、プライバシーの保護、守秘義務等について理解する。 ・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。						
授業計画						
＜事前指導授業計画＞						
第1回 オリエンテーション 第2回 施設実習の意義・目的・内容の理解 第3回 施設実習の機能・役割・対象者の理解 第4回 障害及び疾病、虐待等の理解と援助の方法 第5回 子ども理解と観察・記録の方法 第6回 実習日誌・実習指導案の書き方 第7回 実習の課題と目的の明確化 第8回 実習に際しての留意事項・実習生としての心構え						
授業方法						
＜事前指導授業方法＞						
・講義と共に、ビデオ視聴により、より具体的な施設の理解を深める。 ・事例をもとに、グループ討議、ロールプレイなどを行い、実践力を身に付ける。						
＜事後指導＞						
・実習終了後の提出物（実習記録、実習指導案）によるものとする。なお、必要と認められた場合は、個別面接指導を行う。						
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
・実習を行う施設の情報を調べる。（学習時間 4 時間） ・施設の対象児、利用者についての資料を読み、理解に努める。（学習時間 7 時間） ・対象児や利用者に向けて、実施することが予想される指導案を考える。（学習時間 7 時間） ・実習課題と目的を達成するために必要な自己課題を検討する。（学習時間 5 時間） ・次の3つの課題について、それぞれA4用紙1枚（様式自由・ワープロソフト使用可）にまとめ、合計3枚レポートを作成し、スクーリング初日に提出する。（学習時間 7 時間） 【課題1】この実習で何を学ぶのか。（目標） ＜例＞施設の理解：役割・機能、一日の流れについて理解する。 保育士の理解：保育士の職務内容や役割、チームワークなどを理解する。 子どもの理解：子どもの特性・特徴、入所の背景を知る。 援助方法の理解と習得：子どもへの対応の仕方や援助方法、養護技術を学ぶ。 【課題2】目標を達成するためになにをするのか、ある程度具体的に記述する。 なお、どのような目標を立てても、基本となるのは以下のことである。 ①積極的に子どもに関わり、保育士の仕事にも参加する。疑問があれば質問する。 ②子どもの名前、年齢、特徴を早く覚え、子どもとの関係を築く。 ③施設の一日の流れ、仕事内容を早く覚える。 【課題3】実習先の施設の目的・機能について勉強したこと。						
受講上の注意事項						
・実習の目標をしっかりと立て、課題に向き合って実習に臨めるよう、事前の学びを意欲的に取り組むこと。 ・スクーリング受講にあたって、3つの課題（上記授業外学習分）をスクーリング初日に提出すること。 ・持参物は、3つの課題（上記授業外学習分）のレポートと筆記用具。なお、各自メモを取れるようにしておくこと。						
評価基準						
・授業への取り組み（積極的な態度、実習課題の明確化等） 70% ・授業内の課題提出物 30%						
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連						
所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。						
課題に対するフィードバック						
スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。						

科目コード	20146	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容（健康）[1単位／45時間]				科目担当	植山 佐智子	
テキスト		●勝木洋子 『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康 第2版』 みらい							
ISBN	9784860154714		本体価格(円) (2024年1月現在)	2,100	生協 テキストNo.	24111			
実務経験のある教員による科目			公立幼稚園教諭・主任教諭・園長						

科目の目的

乳幼児が生活や遊びの中で積極的に身近な環境と関わることの意義、その重要性、発達に及ぼす影響について理解を深め、環境に関わる力を育てる保育のあり方とその実践的内容について学ぶ。また幼稚園、保育所、こども園において実際に実践していく中での知識を習得し、保育者としての実践力を身に付ける。幼児教育現場において学びが活かされるように、実践的内容をアクティブラーニングを通して（運動遊びの保育指導案作成と模擬保育・「ほけんだより」作成）を実践より学ぶ。

到達目標

- ・子どもたちの発育発達、基本的生活習慣の形成、安全管理等について理解を深める。
- ・子どもの心身の育ちに着目し、どのような環境や援助・指導が適しているかを自ら進んで考える。
- ・乳幼児の体や子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点、改善の方策を自分なりに考える。
- ・子どもの健康と保育の意義について理解する。
- ・授業については、グループワークで学びを深め、視聴覚教材や体験学習、遊びの指導案等の作成、子どもの健康に関する新聞記事等に目を通したり、情報機器を使い、アクティブラーニングを通してグループワーク研究を発表する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
実技「わらべうた」の遊びの展開を考える／グループで遊びについてどう保育するか考える（教材作り含む）
- 第2回 実技「わらべうた」の遊びの展開を考える／模擬保育①
- 第3回 実技「わらべうた」の遊びの展開を考える／模擬保育②／保育指導案作成（グループ活動）
- 第4回 子どもの事故や病気、危機管理について＜テキスト第12章 pp.179-195＞
グループに分かれて発表をまとめる（プレゼンか紙面発表）
- 第5回 子どもの事故や病気、危機管理について＜テキスト第12章 pp.179-195＞／グループで発表する
- 第6回 「子どもの怪我と病気」のミニ本、「ほけんだより」を作成する
- 第7回 安全教育と危機管理について～東北大地震を通して学ぶ～
- 第8回 ふり返りとテスト／グループに分かれて発表をまとめる＜テキスト第12章 pp.179-187＞／グループで発表する

授業方法

- ・各単元終了後に受講後のまとめをする。
- ・テキストを熟読し理解している上で、ワークショップによる講義や実技を通して遊びを展開する力を身につける。
- ・受講生同士のディスカッションを大切にしながら、「健康に関する教材研究と発表」などのまとめを作成する。
- ・PC演習室のパソコンを使って「ほけんだより」を作成する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

実践につながる学習を展開するので、スクーリング受講までにテキストを熟読し、健康に関する知識を身に付けておくこと。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

- ・授業では、グループディスカッションを予定しているので、積極的に参加する。
 - ・絵画や制作など実技を行うので、活動しやすい服装で出席すること。
- ＜持参物＞はさみ・色鉛筆・クレパス

評価基準

- ・テスト 30%
- ・提出物 30%
- ・実技・受講態度 40%

参考文献

- ・文部科学省 『幼児期運動指針 ガイドブック』 サンライフ企画
- ・文部科学省 『幼児期運動指針』
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20147	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容(人間関係) [1単位/45時間]	科目担当	福井 逸子
テキスト	● 田村美由紀 室井佑美 『＜領域＞人間関係ワークブック』 萌文書林				
ISBN	9784893472625	本体価格(円) (2024年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	24112

科目の目的

現代社会の多様な人間関係の中で育っていく子どもたちにとって、乳幼児期の人との関わりは重要である。本科目では、子どもの人間関係における発達過程と、子どもが園生活において主体的かつ意欲的に遊び、学ぶ過程を理解し、そのプロセスに即して、具体的な支援や指導を行える実践力を身につけることを目的とする。

到達目標

- ・保育における「人間関係」とは何かについて理解・考察を深める。
- ・領域「人間関係」のねらいと内容、保育実践上の配慮について理解・考察を深める。
- ・保育者の働きと役割について理解・考察を深める。
- ・グループワークによって、学習者同士の学びや保育観について、相互理解・考察を深める。

授業計画

- 第1回 保育内容「人間関係」について3つの現行のガイドラインより
- 第2回 フォトランゲージの実践－グループ活動－
- 第3回 保育所保育指針・幼稚園教育要領から学ぶ① 指導案の書き方について
- 第4回 保育所保育指針・幼稚園教育要領から学ぶ② 教材研究、指導案の再考
- 第5回 模擬保育実践と振り返り① 前半チームの実践と質疑応答
- 第6回 模擬保育実践と振り返り② 後半チームの実践と質疑応答
- 第7回 豊かな人間関係を導く保育実践のために（講義・グループ討議・発表）
- 第8回 人間関係における保育者の役割・再考と確認テスト

授業方法

- ・各テーマについて、講義とグループディスカッションおよび発表を行い、学びを深める。
- ・事前に調べ、取り組んだ課題学習（指導計画）については、グループディスカッション等を基に再考した上で、模擬保育を行う。実践後は各自で振り返りを行い、指導計画のブラッシュアップをはかる。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講までに、下記の課題に取り組み、スクーリング初日には②を提出すること。

- ①テキスト第1章～第10章にある巻末の課題は、各章を丁寧に読み進めた上で、取り掛かる。（学習時間10時間）
- ②スクーリング初日に提出する課題は以下の通りである。

テキスト第13章の課題（2）に取り組む。A4サイズ、タテ型横書きとし、1課題あたり1枚の用紙を使用すること。本学所定レポート用紙やルーズリーフは用いず、パソコン用の白紙にすること。

テキスト第14章の（1）の指導案を作成する。＊ここでは、ゲーム編、製作編のどちらか一つを選ぶ。p.135、p.136をコピーして使用してもよい。また、該当ページの書式にならって、パソコン用の白紙（A4サイズ）を使用してもよい。＜パソコン（文書作成ソフト等）の使用可。＞（学習時間15時間）

スクーリング受講後は、スクーリングでの学びをふまえ、年齢に応じた保育実践上の配慮をまとめる。（学習時間5時間）

受講上の注意事項

- ・上記の事前課題①、②及び参考文献『幼稚園教育要領』他のガイドライン（解説書でも可）を必ず持参すること。
- ・グループディスカッションや個別に発表等も行うので、積極的に授業に参加することが望ましい。
- ・スクーリング最終日の試験は、持ち込み一切不可で行う。
- ・講義の中では、質疑応答の時間も設けるので、疑問などがある場合は、積極的に意見を述べて欲しい。

評価基準

次の観点について、提出物、授業中の発言・発表、試験により評価を行う。

- ・事前課題を行うなど、意欲的に授業に参加できているか 30%
- ・授業内容や受講生同士の意見交流の内容を適切に理解し、自分なりの考察を深めているか 30%
- ・試験問題の趣旨に沿って、授業で学んだ内容について、明確にわかりやすく解答できているか 40%

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・無藤隆 古賀松香 『社会情動のスキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは』 北大路書房
- ・無藤隆 『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』 東洋館出版社
- ・『月刊 保育とカリキュラム（保育雑誌）』 ひかりのくに

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20148	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容（環境）[1単位／45時間]				科目担当	佐藤 智恵
テキスト	●無藤隆 福元真由美 『新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境』 萌文書林							
ISBN	9784893472588	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	24113			
テキスト	●内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（平成29年告示）』 チャイルド本社							
ISBN	9784805402580	本体価格(円) (2024年1月現在)	500	生協 テキストNo.	24100			
実務経験のある教員による科目			保育士					

科目の目的

学生が主体的で対話的な学びが得られるよう、グループワークや模擬保育の実践を取り入れ、保育方法や保育内容のあり方への理解を深める。指導計画の作成、実践、ふり回りという流れを体験的に理解させるとともに、情報機器を活用する方法についても学びを深める。

到達目標

主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

授業計画

- 第1回 いろいろな保育形態や指導方法について
- 第2回 保育形態に関するDVD視聴（視聴覚教材）
- 第3回 指導計画作成について
- 第4回 様々な道具や遊具を用いた保育内容の計画①（指導計画作成）
- 第5回 様々な道具や遊具を用いた保育内容の計画②（指導計画作成）
- 第6回 様々な道具や遊具を用いた保育内容の実践①（模擬保育）
- 第7回 様々な道具や遊具を用いた保育内容の実践②（模擬保育とふり回り）
- 第8回 まとめ（領域「環境」の視点から保育実践を理解する）と最終レポート

授業方法

- ・グループワークによる指導計画の作成や模擬保育、ふり回り
- ・DVD視聴後のグループ討議

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・書籍やインターネットから情報を収集し、「様々な道具や遊具を用いた保育内容」を＜5歳児クラス（20名）：45分～1時間程度の設定保育の中で行えるもの、室内での遊び。＞の条件で、5つ考え、箇条書きで記述したものをスクーリング初日に持参すること。持参したものをもとにグループで話し合い模擬保育を行うため、実現可能なものを考えてくること。様々な道具や遊具とは、画用紙・いらがみ・空き箱・紙皿なども含む。（学習時間10時間）
- ・スクーリング1日目に指導案の書き方を学習するので、帰宅後書き方を復習しておくこと。スクーリング2日目授業終了時に提出する。（学習時間3時間）
- ・スクーリング受講後、テキスト『新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境』のpp.32-35を熟読し、保育実践における保育者の役割についての学びを深める。（学習時間17時間）

受講上の注意事項

- ・2日目の模擬保育に必要な材料は、各グループで用意すること（初日に持参する必要はない）。
（※A4サイズの色画用紙とマジックペンは本学で用意する。）

評価基準

- ・グループワークや模擬保育などへの参加の積極性 20%
- ・レポート 50%
- ・提出物（「様々な道具や遊具を用いた保育内容を記述した用紙」、「指導案」） 30%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20150	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容（表現）〔2単位／90時間〕				科目担当	岩濱 里江子
テキスト	●文部科学省『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』フレーベル館							
ISBN	9784577814475	本体価格(円) (2024年1月現在)	240	生協 テキストNo.	24080			
テキスト	●厚生労働省『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』フレーベル館							
ISBN	9784577814482	本体価格(円) (2024年1月現在)	320	生協 テキストNo.	24115			
テキスト	●内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞』フレーベル館							
ISBN	9784577814499	本体価格(円) (2024年1月現在)	350	生協 テキストNo.	24116			
実務経験のある教員による科目		公立幼稚園教諭・園長、教育委員会（指導主事）						
科目の目的								
学生が主体的で対話的な学びを得られるよう、グループワークや模擬保育の実践を取り入れ、保育方法や保育内容のあり方への理解を深める。幼児教育施設における表現活動を楽しむ幼児の具体的な姿をもとに、指導計画の作成、実践、ふり返りという流れを体験的に理解するとともに、指導上の留意点及び評価の考え方についても、実務経験を活かして教授する。								
到達目標								
・幼稚園教育及び幼保連携型認定こども園教育・保育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。 ・領域「表現」に関わる指導場面を想定し、その保育を構想する方法（評価を含む）を身に付ける。 ・保育内容「表現」の指導法について理解する。								
授業計画								
第1回 保育内容「表現」とは何か 第2回 『幼稚園教育要領』及び『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における「表現」 第3回 保育内容「表現」の指導法及び指導例 第4回 絵本や物語を題材にした表現事例鑑賞 第5回 表現活動① 身体表現を考える レポートの作成 第6回 表現活動② 音楽・造形・言語表現を考える 第7回 表現活動③ 総合表現を考える（計画） 第8回 表現活動④ 総合表現を考える（実践） 第9回 表現活動⑤ 総合表現を考える（実践） 第10回 表現活動⑥ 総合表現を発表する 第11回 表現活動の鑑賞から指導を考える 第12回 レポートの作成（情報機器及び教材の活用） 第13回 指導計画の作成と模擬保育 第14回 指導計画と模擬保育の振り返り 領域「表現」の視点から保育内容を理解する 第15回 まとめと確認 領域「表現」の視点から今後の保育内容を考える								
授業方法								
・PC教室においての講義、ダンス室・講堂等での実践を行う。 ・テーマに基づいてグループ学習を行う。 ・学習成果の発表や鑑賞、パソコンを活用した最終レポート作成を行う。								
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
＜スクーリング受講前（予習）＞ 表現活動に関して、使用したい絵本などの資料や音楽、簡単な衣装、小道具など、作品づくりのために興味あることについて調べて、準備しておく。（学習時間50時間） ＜スクーリング受講後（復習）＞ スクーリングで学習した内容について、さらに理解を深めるように復習する。（学習時間10時間）								
受講上の注意事項								
・将来、保育者をめざす人には必要な身体表現活動なので、積極的に参加すること。 ・実技の際は、運動着やジャージ等の動きやすい体育実技の服装等で臨むこと。（髪は括り、アクセサリは外す） ・持ち物：筆記用具、書く時の下敷き代わりになる物、体育館シューズ、汗拭きタオル、水分補給用飲み物								
評価基準								
・表現発表 40% ・最終レポート 20% ・鑑賞レポート 20% ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、グループ活動など） 20%								
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連								
所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。								
課題に対するフィードバック								
スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。								

科目コード	20151	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容(表現技術A)[2単位/90時間]	科目担当	高 奈奈
テキスト	●小林美実 『続 こどものうた200 保育実用書シリーズ』 チャイルド本社				
ISBN	9784805400029	本体価格(円) (2024年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	24117
実務経験のある教員による科目	私立幼稚園音楽表現活動講師				

科目の目的

『幼稚園教育要領』に示された領域「表現」のねらいおよび内容を理解し、幼児の生活や発達に即した保育を行うことができる様々な表現技術を身につける。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・領域「表現」の目標・内容を学び、保育における表現活動の意義と役割について理解する。
- ・子どもの生活に寄り添ったあそび歌や子どもの歌を学び、乳幼児の音楽的な発達に合わせた活動内容や指導法を身に付ける。
- ・基礎的な音楽理論やリズムの要素について理解した上で、リズム合奏を実践することができる。
- ・これまで実践されてきた保育現場における表現活動や教育法に触れ、その技法を学ぶ。
- ・表現活動の指導案を作成し、模擬保育を行う。

授業計画

- 第1回 『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域「表現」について
 第2回 乳幼児の音楽的な発達について
 第3回 わらべうた・童謡・唱歌について理解を深める（歴史的な変遷、教材研究、指導法について）
 第4回 乳幼児の発達に応じたあそび歌と歌唱指導について①（春の歌、夏の歌、生活の歌）
 第5回 乳幼児の発達に応じたあそび歌と歌唱指導について②（秋の歌、冬の歌、生活の歌）
 第6回 表現活動に必要な基礎的な音楽理論①（音名、長音階、調性）
 第7回 表現活動に必要な基礎的な音楽理論②（音程、和音、移調）
 第8回 様々なリズム（マーチ・スキップ・ギャロップなど）の特性と子どもの表現を引き出すためのピアノ奏法について
 第9回 エミール・ジャック＝ダルクローズ、カール・オルフ、コダーイ・ゾルターンから音楽教育のメソッドを学ぶ
 第10回 リトミックを取り入れた音楽表現活動（スカーフ、フープなどを使った活動）
 第11回 リズム合奏のための音楽づくり（情報機器による教材の作成）及び筆記試験
 第12回 様々なリズム楽器の演奏法とリズム合奏の指導法
 第13回 身の回りのもので楽器を制作
 第14回 グループでの模擬保育①
 第15回 グループでの模擬保育②

授業方法

- ・実践に必要な基礎的な理論を講義形式で学ぶ。
- ・歌唱、リズム合奏、身体表現の演奏技術と指導法を実践の中で身に付ける。
- ・あそび歌やグループでの模擬保育などを通して、実践力を身に付ける。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】

- ・参考文献『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域「表現」について記述されている部分を読み、理解する。（学習時間10時間）
 ○第1章 総則「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」（p.9、p.33、p.65）
 ○ねらいおよび内容（pp.20-21、pp.35-36、pp.41-42、pp.48-49、pp.75-76、pp.80-81、pp.87-88）
- ・テキスト『続 こどものうた200』に掲載されている楽曲の中から、以下の楽曲をアカペラで歌唱できるように繰り返し練習する。あそびうたは、遊び方についても習得すること。（学習時間30時間）
 ①「さかながはねて」（p.18）、②「小さな庭」（p.31）、③「とんとんとんとんひげじいさん」（p.32）、④「かなづちトントン」（p.62）、⑤「グーチョコキパーでなにつくろう」（p.64）、⑥「八百屋のお店」（p.67）、⑦「十五夜さんのもちつき」（p.75）、⑧「バスごっこ」（p.102）、⑨「アイスクリームのうた」（p.110）、⑩「ながぐつマーチ」（p.127）、⑪「きのこ」（p.212）、⑫「やさしいグーチャーパー」（p.219）

【復習】

- ・授業の中で学んだ手遊びや子どもの歌を繰り返し練習し、表情豊かに表現する。（学習時間10時間）
- ・模擬保育の振り返りを行い、課題を見つける。（学習時間10時間）

受講上の注意事項

- ・ピアノや楽器を使用するので、必ず爪を切っておくこと。
- ・身体表現を伴うため、動きやすい服装・靴で受講すること。
- ・テキストを必ず持参すること。
- ・状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。

評価基準

- ・筆記試験 40%
- ・講義中の意欲、態度 20%
- ・模擬保育 40%

参考文献

- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
＜原本＞（平成29年告示）』 チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20152	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容(表現技術B)[2単位/90時間]	科目担当	須増 啓之
テキスト	● 内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本> (平成29年告示)』 チャイルド本社				
ISBN	9784805402580	本体価格(円) (2024年1月現在)	500	生協 テキストNo.	24100

科目の目的

領域「表現」、特に本科目では造形表現・言語表現に関する知識と技術について、体験を通して理解を深める。また、造形表現及び言語表現活動に関わる題材などの作成や具体的な展開方法などの指導者としての視点や、保育実践に対する発想や構想の能力を身につける。そして「表現」では過程を重視するため、活動の過程を捉える視点を育て、活動についてまとめる力を養う。

到達目標

- ・領域「表現」（造形表現・言語表現）のねらい、内容、育みたい資質や能力について活動を通して理解する。
- ・造形活動や言語表現における幼児の発達や学びの過程を理解し、題材研究と展開方法について理論と活動を通して知識と技術を深める。
- ・上記の点を踏まえ、具体的な保育を想定した指導案を作成し、指導者としての視点や保育実践に対する発想や構想の能力を身につけるとともに実践について省察する力を養う。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（本科目の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認など）
幼稚園教育要領などにおける領域「表現」の意義、内容について考える
- 第2回 「造形表現での幼児の活動、保育者の役割」（映像教材）について考える（情報機器及び教材の活用）
- 第3回 材料や素材と関わることから始まる造形の内容と情報機器を使用した展開について（情報機器及び教材の活用）
- 第4回 技法や行為、用具との関わりを楽しむ造形の内容と展開について
- 第5回 テーマや目的から始まる造形の内容と展開について
- 第6回 幼児の作品からみる造形表現の発達と特徴について
- 第7回 幼児の発達に合わせた造形表現の指導について及び指導案の作成
- 第8回 模擬保育と振り返り
- 第9回 言語表現活動や児童文化財の意義と保育教材の活用（映像教材）について考える
- 第10回 幼児の発達に合わせたお話の作り方
ペープサート、人形劇などの言語表現活動の教材制作①－グループでお話を決める・つくる－
- 第11回 保育教材の制作方法について
ペープサート、人形劇などの言語表現活動の教材制作②－グループで保育教材の制作－
- 第12回 保育教材を用いて演じる際のポイントや演じ方について
ペープサート、人形劇などの言語表現活動の教材制作③－グループで制作と演じる練習－
- 第13回 グループでの発表及び鑑賞と情報機器による記録
- 第14回 幼児の発達に合わせた保育教材を用いた指導について及び指導案の作成
- 第15回 模擬保育と振り返り
まとめ「造形・言語表現における保育者の役割と小学校の教科との関わり」

授業方法

- ・造形表現と言語表現について講義（実技・発表を含む）を行う。
- ・制作や発表、学んだ知識を生かして指導案を作成し、検討を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・授業での学びを深めるために、スクーリング受講までに参考文献を読んだり、造形表現や言語表現関連の書籍やインターネットで調べたりして、教材の種類や作り方、園での表現活動、表現に関する研究などについて予習しておくこと。（学習時間30時間）
- ・スクーリング受講後は、授業で学んだことを踏まえて、授業で作成した教材以外の造形表現や言語表現の教材作りに取り組むこと。また、学んだことや教材の作り方や工夫点、展開方法などについて自分なりにノートなどにまとめて整理すること。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

【受講に関する注意等】

- ・描いたり、つくったりすることが苦手でも構わない。個人活動だけでなくグループ活動も行うため、積極的に参加すること。
- ・実技もあるため、汚れを気にしない服装やエプロンなどを持参して受講すること。

【持参する物】

- ・以下の材料・用具（忘れると活動できないので、必ず各自準備のうえ持参すること。）
水彩用具（水彩絵の具・筆・筆拭き用の布 ※パレットや筆洗は本学で貸し出し可。）、パス（クレパスなど）もしくはクレヨン、はさみ、カッターナイフ、のり、ホッチキス、セロテープ、両面テープ、木工用接着剤、折り紙。
※上記の材料、用具類は全日程で使用予定。また「美術」「教科教育法・図画工作」等でも使用する。
なお、授業の進み具合などによって使用しない場合もある。

評価基準

- ・活動（制作・発表・鑑賞）への取り組み 60%
- ・レポート（小レポートを含む） 20%
- ・指導案の作成 20%

参考文献

- ・松岡宏明 『子供の世界 子供の造形』 三元社
- ・松岡宏明 『子供に子供の美術を』 三元社
- ・榎英子 『保育をひらく造形表現 第2版』 萌文書林
- ・平田智久 『＜感じる＞から始まる 子どもの造形表現』 教育情報出版
- ・大橋功 『美術教育概論 新訂版』 日本文教出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20158	科目名 [単位数/学習時間]	子どもの理解と援助[1単位/45時間]	科目担当	権藤 眞織
テキスト	●内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本> (平成29年告示)』 チャイルド本社				
ISBN	9784805402580	本体価格(円) (2024年1月現在)	500	生協 テキストNo.	24100

科目の目的

人間形成の土台を築く乳幼児期では、子どもたちの心身の育ちがめざましく、多く変化する。その発達の過程を理解し、発達段階に合わせた保育や援助が求められる。生活の中で、子どもたちが何を経験し、何を学んでいくのかについて理解を深め、子どもの学びや育ち、発達の様相を適切に援助・支援できる保育実践についても学ぶ。

到達目標

- ・「保育」とは何か、「こどもの発達」とは何かについて理解・考察を深める。
- ・子どもを観察・理解する方法について学び、乳幼児期の子どもの発達について、理解・考察を深める。
- ・「学習」のプロセスについて理解を深め、学習過程の支援・援助について学ぶ。
- ・保育者援助や保育者の働きと役割について理解・考察を深める。
- ・グループワークによって、学習者同士の学びや保育観について、相互理解・考察を深める。

授業計画

- 第1回 はじめに：保育雑誌『保育とカリキュラム』から学ぶ
 第2回 保育と心理学 ～保育とは何か 心理学とは何か～
 第3回 子どもの発達 ～発達とは何か～
 第4回 発達過程に応じた保育実践 ～子どもの援助とは何か～
 第5回 子どもの生活・遊びと学び
 第6回 基本的生活習慣の発達および獲得と援助
 第7回 さまざまな角度からの子ども理解とその方法と評価
 第8回 発達障害に対する援助、まとめ（発達の統合的理解と実践にむけて）・確認テスト

授業方法

- ・各テーマについて、講義とグループディスカッションおよび発表を行い、学びを深める。
- ・PCを活用するなどして事前に調べたり、取り組んだりした課題学習について、グループディスカッション、発表をする。また、模擬保育実践も行う。その後、質疑応答の時間も設ける。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講までに、以下の（１）から（５）の課題を行い、（１）から（４）についてはプリントアウトしてスクーリング初日に持参すること。課題作成用紙は、A4サイズ、タテ型横書きとし、本学所定レポート用紙やルーズリーフは用いず、パソコン用の白紙を使用すること。＜ワープロソフト使用可。＞

- （１）保育とは何か。（80字～100字程度／学習時間 2 時間）
- （２）発達とは何か。（80字～100字程度／学習時間 2 時間）
- （３）学習とは何か。（80字～100字程度／学習時間 2 時間）
- （４）旧保育所保育指針（平成12年度施行版）の第3・4・5・6・7・8・9・10章の第1節「発達のおもな特徴」の部分をよく読む。各章の発達の特徴となるキーワード・キーフレーズを3つ抽出し、箇条書きでまとめておく。
(学習時間 9 時間)

旧保育所保育指針（平成12年度施行版） <http://ba.boj.jp/hoikushishin/> <保育所保育指針 原版（PDF）>

- （５）乳幼児期の前半（0歳から2歳）と後半（3歳以上）にふさわしい遊びや保育教材を調べておく。①絵本、②手遊び、③制作関係やゲームなど体を使った遊びなど。

スクーリング受講後は、以下の（１）、（２）に取り組む。

- （１）『保育所保育指針』をよく読み、年齢に応じた保育実践上の配慮をまとめる。（学習時間 5 時間）
- （２）乳児期、幼児期にふさわしい保育実践を立案し、指導案を作成する。（学習時間10時間）

受講上の注意事項

- ・保育雑誌『月刊 保育とカリキュラム』（ひかりのくに）を持参すること。2024年の何月号でもよいが（あるいは2023～2021年のバックナンバーでも可）、4月号は年間カリキュラムがついてるのでとても参考になる。
- ・スクーリング最終日の確認テストは、持ち込み不可。

評価基準

次の観点について、提出物、授業中の発言・発表、試験により評価を行う。

- ・事前課題に取り組むなど、意欲的に授業に参加できているか 50%
- ・授業内容や受講生同士の意見交流の内容を適切に理解し、自分なりの考察を深めているか 50%

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説<平成30年3月>』 フレーベル館
- ・永田豊志 『すべての勉強は、「図」！でうまくいく 今までの10倍「記憶力」「思考力」が強くなる』 三笠書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20161	科目名 [単位数/学習時間]	乳児保育演習 [1単位/45時間]	科目担当	大江 まゆ子
テキスト	● 乳児保育研究会 『資料でわかる乳児の保育新時代 改訂5版』 ひとなる書房				
ISBN	9784894642539	本体価格(円) (2024年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	24072
科目の目的 乳児の育ちを支える保育士としての実践力を身に付けるため、乳児保育の理論と実際を習得することを目的とする。長時間、保育所及び乳児院等で過ごす子どもたちの豊かな成長、発達の保障に必要な知識と実際の保育における技術を学ぶ。 ・ 乳児保育の意義、役割等について理解する。 ・ 0歳・1歳・2歳の発達過程を理解し、生活や遊びにおいて乳児の発達を保障する保育内容と方法を学び、乳児保育の具体的な事例の検討を踏まえながら保育者の援助や配慮を学ぶ。 ・ 乳児保育における環境と保育のあり方を学ぶ。					
到達目標 ・ 乳児保育に携わる保育者としての確かな保育観と専門性を養い、愛情をもって適切に援助する実践力を身につける。 ・ 0歳・1歳・2歳児の発達特性を理解し、個人差に配慮しつつ、一人ひとりの発達を保障するための生活や遊びの環境を考え、保育の内容や方法を理解する。 ・ 乳児を取り巻く社会情勢の変化に伴い、子育ての状況も大きく変化している現状を理解する。 ・ 多様化する保育ニーズに応えるため、乳児保育の意義や基本理念の理解を深め、課題を考察する。 ・ 保護者支援の基本や信頼関係の構築について理解する。					
授業計画 第1回 乳児期の重要性和と乳児保育の意義と目的 第2回 0歳児の心身の発達と保育 第3回 1歳児の心身の発達と保育 第4回 2歳児の心身の発達と保育 第5回 乳児保育についてグループディスカッション・発表 第6回 乳児保育の現状・課題と保護者との連携 第7回 多様化する保育ニーズに応える保育 第8回 まとめ確認試験（授業中テスト）と乳児保育の役割					
授業方法 講義、DVDを活用した授業、討論発表等 ・ 前半はテキスト、乳児の発達の姿のDVDを用いながら講義を行い、後半は、乳児保育の実際を視聴後にグループディスカッションを行い、発表、討論を行う。 ・ テキストをもとに講義する。					
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・ スクーリング受講までに、テキストの「はじめに」～第3章（pp.2-87）、第5章（pp.108-125）を予習しておくこと。また、参考文献『保育所保育指針』の第1章、第2章、第4章を一読しておくこと。（学習時間15時間） ・ テキスト第3章（pp.62-87）をよく読み、テーマ「0歳児期、1歳児期、2～3歳児期の遊びの様子と必要な環境構成および保育者の関わり」について、1,000字程度でまとめたレポート（A4用紙でパソコン等による作成可）をスクーリング初日に提出すること。（学習時間5時間） ・ スクーリング受講後は、テキストの第4章、第6章、第7章、第8章をよく読んで、保育の実際に必要な事項について学習すること。（学習時間10時間）					
受講上の注意事項 ・ スクーリング初日には予習で事前作成したレポートを必ず持参。 ・ スクーリング最終日の確認試験（授業中テスト）は、持ち込み一切不可で行う。 ・ グループディスカッションを行うので、積極的に参加すること。 ・ テキストを必ず持参。					
評価基準 ・ 確認試験（授業中テスト）による 50% ・ 授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表などにより評価する。）による 30% ・ その他（授業終了時に提出を求める小レポート） 20%					
参考文献 ・ 厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館 ・ 内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館 ・ 社会福祉法人あすみ福祉会茶々保育園グループ 『見る・考える・創りだす 乳児保育 I・II』 萌文書林					
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。					
課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。					

科目コード	20162	科目名 [単位数/学習時間]	社会的養護Ⅱ [1単位/45時間]				科目担当	波来谷 徹生
テキスト	● 吉田眞理 高橋一弘 村田紋子 『児童の福祉を支える <演習> 社会的養護Ⅱ 第2版』 萌文書林							
ISBN	9784893474209		本体価格(円) (2024年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	24124		
実務経験のある教員による科目			児童養護施設施設長					

科目の目的

ヤングケアラーの問題が多く取り上げられているが、本来自分たちができるはずの通学等もできなくなっている。その状況の中でも特に子育て世帯が貧困で孤立し虐待が発生していると考えられる。

本科目では「子どもの最善の利益」とは何かを考え、児童養護施設を利用する家庭の状況を把握し、施設が行っている児童・親への援助方法を検証する。そして、国が里親委託を推進している理由と施設の小規模化により現場が抱える問題点を考え、援助する大人に求められる資質と社会的養護のあり方を考えていく。

到達目標

- ・「子どもの最善の利益」とは何か「権利擁護と意見表明の受け止め方」について考えていく。
- ・家族から虐待を受けた子どもたち、貧困で食事・学業や進学之机を奪われている子どもたちがいるという現状を知り、どういった社会的支援が有り、どういった支援がなされているかを学習する。そして、施設・小規模施設・里親養育の現状を比較して、それぞれのよい所・不都合な所を検証し、子どもの最善の利益を守るための「社会的支援」はどうあるべきか考える。

授業計画

- 第1回 社会的養護における子どもの理解と支援方法
- 第2回 社会的養護における保育士等の専門性
- 第3回 児童養護の体系と児童福祉施設の概要
- 第4回 施設養護・家庭養護の生活と支援の違い
- 第5回 里親の種類と里親制度の実際
- 第6回 保育士の専門性にかかわる知識・技術とその実践
- 第7回 地域への支援と施設の在り方
- 第8回 今後の課題と展望

授業方法

- ・児童養護施設で生活する子ども達の事例を例示しながらテキストを通して講義を行い、社会的養護の現状を説明し社会の抱える課題を検証する。
- ・できるだけ事例を取り上げながら説明する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・テキストを読み、子どもの権利条約・児童憲章を参考にして「子どもを真ん中」に支援方法を考える。そして、「子どもの最善の利益とは何か」について自分の意見をまとめ、400字程度でまとめたレポート（A4用紙でパソコン等による作成可）をスクーリング初日に提出すること。（学習時間30時間）
- ・先にテキスト履修分の学習を進めており、レポートがすでに返却されている場合は、スクーリング受講までに見直しで復習しておくこと。

受講上の注意事項

- ・テキストを読み込んで受講すること。
- ・児童養護施設についての文献を読んでおくこと。
- ・テキストはスクーリングで使用するので必ず持参すること。

評価基準

- ・最終試験 50%
- ・授業への取り組み 50%

参考文献

- ・児童養護研究会 『養護施設と子どもたち』 朱鷺書房
- ・土井高德 『神様からの贈り物 里親土井ホームの子どもたち』 福村出版
- ・小田兼三 石井勲 『養護内容の理論と実際』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20166	科目名 [単位数/学習時間]	子どもの健康と安全[1単位/45時間]			科目担当	小島 光華
テキスト	●高内正子 梶美保 『保育の場で生きる 子どもの健康と安全』 建帛社						
ISBN	9784767951249	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	24128		

科目の目的

保育の現場において、起こりうるさまざまな状況に対応できる実践力及び応用能力を養うと同時に、必要な技術を習得する。内容として、子どもの成長と発達、健康状態を把握するための観察と評価、子どもの養護と看護に必要な技術、緊急時の応急処置、事故や安全管理の方法、保健面での子育て支援などについて広く学習する。

到達目標

- ・保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
- ・関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策・衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する。
- ・子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解する。
- ・保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態に即した適切な対応について理解する。
- ・子どもの健康及び安全管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価について理解する。

授業計画

第1回

保健的観点を踏まえた保育環境及び援助：身体計測、発育の評価

第2回

保育における健康及び安全の管理①：衛生管理、感染症対策、全身の清潔（沐浴、清拭）

第3回

保育における健康及び安全の管理②：事故防止及び安全対策

第4回

子どもの体調不良等に対する適切な対応①：バイタルサインズの測定、電法、与薬

第5回

子どもの体調不良等に対する適切な対応②：応急処置、救急蘇生法、エビペン

第6回

保育における保健的対応：抱き方、寝かせ方、衣服の着脱、おむつ交換、調乳

第7回

健康及び安全の管理の実施体制：保健活動の計画及び評価

第8回

まとめと確認

授業方法

- ・1項目ごとに講義、実習を行う。
- ・講義ではパソコン、DVDを活用する。
- ・実習はペアまたはグループで実施する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

（1）テキスト・下記ガイドライン（3種類）を熟読しておくこと。

①『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』＜2019（平成31）年4月、厚生労働省＞

②『保育所における感染症対策ガイドライン』＜2018年3月（2023年5月一部改訂）、こども家庭庁＞

③『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』＜平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省＞

（2）ガイドラインはプリントアウトして持参またはデバイス上で閲覧できるようにしておくこと。

（上記（1）（2）合わせて、学習時間30時間）

受講上の注意事項

【受講に関する注意等】

・乳幼児と接するにふさわしい動きやすい服装・履物で受講すること（スーツ、スカート、ハイヒール、サンダル不可）。

【スクーリング受講時の持参物】

・指定テキスト

・ハンドタオル1枚、バスタオル1枚、飲料水（水または茶）、ティースプーン。

評価基準

- ・確認試験（授業中テスト）70%（テキスト・資料 持ち込み不可）
- ・レポート 20%
- ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表・表現などにより評価する） 10%

参考文献

・小野次朗 榊原洋一 『幼児と健康 日常生活・運動発達・こころとからだの基礎知識』 ジアース教育新社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20167	科目名 [単位数/学習時間]	子育て支援 [1単位／45時間]				科目担当	北野 富美子
テキスト	●公益財団法人児童育成協会 『新・基本保育シリーズ 19 子育て支援』 中央法規出版							
ISBN	9784805857991	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	24129			
実務経験のある教員による科目		公立保育士（主任・所長）、地域子育て支援センター長						

科目の目的

保育士は専門的知識や技術を持って、社会的養護、虐待を受けた子どもや障害がある子どもなどの支援、保護者対応や地域の子育て支援等を行う。そのための子育て支援の意義と現場での実践事例を通して、子どもの育ちを支え、保護者や地域の育児力を高められるよう理論と技術を学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・子どもの最善の利益と福祉の重要性を学ぶ。
- ・保育者の行う子育て支援の特性について学ぶ。
- ・地域の資源の活用と関係機関との連携・協力について学ぶ。
- ・多様な支援ニーズを抱える子育て家庭を理解する。

授業計画

- 第1回 子育ての現状と子育て支援の必要性
- 第2回 保育における支援とその実際
- 第3回 職員間の連携・協働
- 第4回 保育所等における支援
- 第5回 地域の子育て家庭における支援
- 第6回 特別な対応を必要とする子どもや家庭への相談と支援
- 第7回 保育・教育相談支援の方法と技術（事例検討：保護者の立場からのロールプレイ）
- 第8回 保育者の求められる子育て支援とは 確認テスト

授業方法

- ・講義と演習により保育現場における子育て支援の実験を経験する。
- ・テキストにより講義を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・平成27年4月より、子ども・子育て支援新制度が本格的に実施されている。「子ども・子育て関連3法」で3つの法律と7つの特徴の中に、「地域の実情に応じた子ども・子育て支援の充実」が挙げられている。あなたの居住地で、どのような子育て支援（メニュー、内容等）が実施されているか調べ、800字程度にまとめたレポート（A4用紙、ワープロソフト使用による作成可）をスクーリング初日に提出すること。（学習時間 5 時間）
- ・子どもの最善の利益と福祉の重要性について予習しておくこと。（学習時間 5 時間）
- ・保護者に対する支援と指導（保育所・幼稚園・こども園・地域の子育て家庭）について予習・復習すること。（学習時間 5 時間）
- ・保育現場での実際の事例を検討し、グループ討議やワークショップ等で発表するので練習しておくこと。（学習時間10時間）
- ・まとめと確認テスト調べをすること（復習）。（学習時間 5 時間）

受講上の注意事項

- ・テキストを必ず持参すること。
- ・グループ討議・ワークショップ等を行うので積極的に参加すること。
- ・スクーリング最終日に確認テストを行う。（テキスト持ち込み不可）

評価基準

- ・確認テスト（筆記試験） 60%
- ・授業への取り組み（授業態度、関心、意欲、発表、表現等により評価する） 40%

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20169	科目名 [単位数/学習時間]	特別支援教育入門(初等)[1単位/45時間]				科目担当	「親和通信」で連絡	
テキスト	●小林倫代『改訂版 教員と教員になりたい人のための 特別支援教育のテキスト 気付き、工夫して、つなげる。』学研教育みらい								
ISBN	9784058017623	本体価格(円) (2024年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	24130				
テキスト	●内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>(平成29年告示)』チャイルド本社								
ISBN	9784805402580	本体価格(円) (2024年1月現在)	500	生協 テキストNo.	24100				
テキスト	●文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)<平成29年3月>』東洋館出版社								
ISBN	9784491034607	本体価格(円) (2024年1月現在)	201	生協 テキストNo.	24099	文部科学省HPからダウンロード可能			

科目の目的

- ・幼稚園・小学校における障害のある幼児・児童の障害の特性や教育の体制、目的、支援の方法について学習する。
- ・障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児・児童について、生活・行動上の課題と支援方法を学習する。
- ・障害のある幼児・児童の保護者や関係機関との連携について学習する。

到達目標

- ・障害のある幼児・児童の基本的な障害特性について概要を理解する。
- ・障害のある幼児・児童に対する教育の体制、目的、支援の方法を理解する。
- ・障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児・児童について、生活・行動上の課題と支援方法を理解する。
- ・保護者・関係機関との連携について理解する。

授業計画

- 第1回 特別支援教育の基本的考え方を知る。
- 第2回 五障害(視、聴、肢、病、知)に関して理解する。
- 第3回 発達障害、母国語等により特別な教育的ニーズのある子どもたちについて知る。
- 第4回 特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室等に関して理解する。
- 第5回 通常の学校におけるユバーサルデザインの支援について理解する。
- 第6回 通常の学校における支援体制について理解する。
- 第7回 保護者・関係機関との連携について理解する。
- 第8回 確認テストとまとめ(到達目標にあげた障害特性、教育の体制、目的、支援等の振り返りと確認及び質疑応答)

授業方法

テキスト『教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト』を用い、「到達目標」に基づいた基本的な内容を幅広く講義する。必要に応じて資料を配付する。

授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講までに、テキスト『教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト』の第1章～第5章を予習しておくこと。

- ◆幼稚園教諭免許状の取得を希望する場合は、以下のテキストや参考文献に目を通しておくこと。(学習時間30時間)
『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』p.13「第5 特別な配慮を必要とする幼児への指導」
『幼稚園教育要領解説』pp.124-126「第1章 総説 第5節 特別な配慮を必要とする幼児への指導 1 障害のある幼児などへの指導 (1) 障害のある幼児などへの指導」
- ◆小学校教諭免許状の取得を希望する場合は、以下のテキストや参考文献に目を通しておくこと。(学習時間30時間)
『小学校学習指導要領』pp.24-25「第1章 総則 第4 児童の発達の支援 2 特別な配慮を必要とする児童への指導」及びp.39「第2章 各教科 第1節 国語 第3 指導計画の作成と内容の取扱い1 (9)」
『小学校学習指導要領解説 総則編』pp.106-108「第3章 教育課程の編成及び実施 第4節 児童の発達の支援 2 特別な配慮を必要とする児童への指導 (1) 障害などの児童などへの指導 ① 児童の障害の状態等に応じた指導の工夫」
『小学校学習指導要領解説 各教科編』国語編pp.159-160、社会編pp.139-140、算数編pp.327-328、理科編p.97、生活編pp.65-66、音楽編p.122、図画工作編p.111、家庭編p.76、体育編pp.165-166、外国語活動・外国語編pp.47-48、p.127、特別の教科・道徳編pp.113-114、総合的な学習の時間編pp.43-44、特別活動編pp.148-149

受講上の注意事項

- ・スクーリング最終日の確認テストは、記述式試験を行う。テキストと配付プリントの持ち込み可とする。
- ・テキストを必ず持参すること。

評価基準

- ・授業への取り組み(授業態度、関心・意欲、発表など) 20%
- ・記述式試験(最終時間に実施) 80%

参考文献

- ・文部科学省 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』
海文堂出版又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編＜平成29年 7 月＞』
東洋館出版社又は文部科学省HP

このほか、小学校学習指導要領 解説の各教科編等を参考にすること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20171	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・外国語(英語)[1単位/45時間]	科目担当	眞崎 克彦
テキスト	● 樋口忠彦 加賀田哲也 泉恵美子 衣笠知子『最新 小学校英語教育入門』 研究社				
ISBN	9784327411084	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	24132 改訂版2023年10月刊行
実務経験のある教員による科目		公立小学校教諭、国公立小学校管理職、教育委員会指導主事			

科目の目的

テキストの実践的な内容の章を講読するとともに、映像資料を視聴したり、実務経験のある担当者によるモデル授業に児童として参加したり、模擬授業を行ったりすることによって、教授方法の理解を深め、実践的な指導力を身につける。

到達目標

小学校外国語教育の変遷及び今後の方向性に対する目標と内容について理解する。第二言語習得についての知識と実践的指導技術を身につける。実践で使える英語力育成のため、「聞く」「話す（やりとり・発表）」の分野に加えて、「読む」「書く」の技能の向上を目指す。さらに、デジタル教材の扱い方や外国語指導助手（ALT等）とのチームティーチングの方法についても理解を深める。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、小学校の英語教育の基礎知識
 - ・小学校英語教育の簡単な歴史
 - ・小学校英語で使える文法の範囲、語彙
 - ・教室英語（テキスト資料 1 p.229-）
 - ・小学校の英語運用能力（4 技能、5 領域）
- 第2回 アクティビティの考え方と実践1 ＜聞く・話す活動＞
 - ・Small Talk with Ema sensei (Model Talk)
 - ・Teacher Says (Simon Says)
 - ・絵本の読み聞かせ (The Very Hungry Caterpillar by Eric Carle 他) その他の活動
- 第3回 アクティビティの考え方と実践2 ＜読む・書く活動＞
 - ・Alphabet Jingle (ABC Chants)
 - ・文の書き方のおさらい Rules of Writing
 - ・My favorite day of the week. その他の活動
- 第4回 授業過程と学習指導案の作り方（12章） 授業づくりー事前準備からふりかえりまで（13章）
 - ・年間計画、単元計画、本時の計画・導入と展開
 - ・模擬授業で自分の行う活動を決定、準備
- 第5回 指導案作成と模擬授業練習（模擬授業は4人組で行う。教師役1名、児童役3名）
 - ・指導案作成（レポート2の中に記入）

※授業内の発言は、英語も含めてできるだけ覚えるようにする。
- 第6回 模擬授業1と2：（教師役1名 児童役3名）×2授業（1セット=模擬授業15分+ふりかえり10分）

第2回～第4回で学習したActivityを参考に、＜聞く・話す活動＞＜読む・書く活動＞から一つ選び、グループ内で模擬授業する。グループのメンバーがローテーションで教師役、児童役をする。
- 第7回 模擬授業3と4：（教師役1名 児童役3名）×2授業（1セット=模擬授業15分+ふりかえり10分）

第2回～第4回で学習したActivityを参考に、＜聞く・話す活動＞＜読む・書く活動＞から一つ選び、グループ内で模擬授業する。グループのメンバーがローテーションで教師役、児童役をする。
- 第8回 授業のまとめ 模擬授業のふりかえりを含めて、2日間の学習についてレポートを作成、提出。

授業方法

講義やディスカッション、グループワーク、模擬授業などを組み合わせて授業を進める。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

テキストの第7章～第8章（pp.92-134）、第10章～第13章（pp.152-217）を読み、それぞれの章末の「学習課題」のうち、いずれか1問についてテキストの内容をまとめ、自分の意見を書いてスクーリング初日に提出すること（「学習課題」は、テキストを読んで取り組めるものを選択すること）。レポートには、「学習課題」の問題の文章と、自分で選んだキーワード（3つ～5つ）を明示すること。キーワードは、問題の文章（タイトル）の下に記述し、レポート本文内のキーワードには、すべて下線を引くこと。（1,000字程度。A4用紙でパソコン等による作成可。）（学習時間30時間）

受講上の注意事項

- ・テキストの内容を踏まえた上での授業を行うため、テキストをよく読んでおくこと。
- ・テキスト内の指定をしていない章（第1章～第6章、第9章、第14章）にも関係のある内容が記述されているので、テキスト全体にも目を通しておくこと。
- ・4人組のグループで模擬授業発表を行うので、あらかじめ準備をしておくこと。スケッチブック、カラーペン、100円ショップのホワイトボード、学習カードの材料等、各自で必要なもの。

評価基準

- ・授業への取り組み 30%
- ・レポート 40%
- ・模擬授業発表 30%

参考文献

- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編＜平成29年7月＞』 開隆堂出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20173	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと健康 [1単位/45時間]	科目担当	植山 佐智子
テキスト	●勝木洋子 『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康 第2版』 みらい				
ISBN	9784860154714	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,100	生協 テキストNo.	24111
実務経験のある教員による科目	公立幼稚園教諭・主任教諭・園長				

科目の目的

乳幼児が生活や遊びの中で積極的に身近な環境と関わることの意義、その重要性、発達に及ぼす影響について理解を深める。また、常に社会の変化に敏感な視点を持ち、子どもの実態と理解を深める。また世界的な歴史の流れを理解し、広い視野で子どもの健康についての知識を得る。また教員の実務経験をもとに教授する保育での指導、保護者や地域の方とのかわり、小中学校との連携についてなどを理解する。幼児教育現場において学びが活かされるように、実践的内容をアクティブラーニングを通して（園庭での遊びの分析・怪我と病気のミニ本作り・リズムジャンプの保育）を領域健康から学ぶ。

到達目標

- ・子どもの健康と保育の意義について理解する。
- ・『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を理解する。
- ・乳幼児期の心と体の発達の特徴、基本的生活習慣の形成を理解する。
- ・子どもの心身の発達について理解する。
- ・生涯を健康に送るための基礎として健康環境を考える。

授業計画

- 第1回 ・オリエンテーション
・健康に生きる 健康に関する世界と日本の流れと健康の歴史を知る
日本の健康の流れと母子手帳の役割についてまとめる
- 第2回 『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を理解する
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保幼小の連携について」を理解する
- 第3回 子どもの「遊びの中の学び①」を学び合う（保育3法を参考に）
- 第4回 子どもの「遊びの中の学び②」を分析する（保育3法を参考に）
- 第5回 子どもの身体活動の現状と課題
「体と心と頭を育てるリズムジャンプ」をパワーポイントで学ぶ
- 第6回 リズムジャンプを使ってダンスを作る（グループ活動）
- 第7回 グループでダンスを発表する／グループでまとめたことを発表する
- 第8回 振り返りと小テスト

授業方法

- ・各単元終了後に受講後のまとめをする。
- ・テキストを熟読し理解している上で、ワークショップによる講義を展開する。
- ・受講生同士のディスカッションを大切にしながら、「健康に関する教材研究と発表」などのまとめを作成する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

実践につながる学習を展開するので、スクーリング受講までにテキストを熟読し、健康に関する知識を身に付けておくこと。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

授業では、グループディスカッションを予定しているので、積極的に参加する。
＜持参物＞はさみ・色鉛筆・クレパス・マーカーほか画材

評価基準

- ・テスト 30%
- ・提出物 40%
- ・受講態度 30%

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20174	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと人間関係 [1単位/45時間]	科目担当	福井 逸子
テキスト	●田宮縁 『体験する・調べる・考える 領域「人間関係」 第2版』 萌文書林				
ISBN	9784893472922	本体価格(円) (2024年1月現在)	1,900	生協 テキストNo.	24134

科目の目的

本科目では、領域「人間関係」の基盤となる、乳幼児の「人と関わる力の育ち」に関する専門的事項についての知識を身に付けることを目的とする。なお、本科目で使用するテキスト内に示されている0歳～5歳児の各年齢における「人との関わり」の発達の特性については、写真や動画等の視聴覚教材、及び事例を用いて、理解を深めていく。

到達目標

乳幼児期の人間関係の発達について、保育現場における関係発達論の視点から理解する。

- ・乳時期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。
- ・幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、説明できる。
- ・自立心の育ち、協同性の育ちについて、発達の姿を合わせて説明できる
- ・道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿を合わせて説明できる。
- ・家族や地域との関りの育ちについて、発達の姿を合わせて説明できる。

授業計画

- 第1回 現代の子ども達に必要な「人と関わる力」について
- 第2回 領域「人間関係」のねらい、内容等について（0歳児～5歳児）
- 第3回 0、1、2歳児の人間関係の特徴と保育者の援助（支援）について
- 第4回 3、4歳児の人間関係の特徴と保育者の援助・指導について
- 第5回 5歳児の人間関係の特徴と保育者の援助・指導について
- 第6回 保育現場における個と集団の関わりとは
- 第7回 保育現場における人間関係について（保育者間、保護者との関係）
- 第8回 領域「人間関係」についての振り返りと確認テスト

授業方法

- ・各テーマについて、講義とグループディスカッション・発表等を行いながら、学びを深める。
- ・事例や動画を通して、子ども理解を深めながら、個別ワーク（事例検討）を行う。
- ・事前学習（課題）については、グループ内で発表し合いながら、他者の意見を取り入れる。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講までに、以下の（1）～（3）に取り組み、（3）については、スクーリング初日に持参すること。

- （1）参考文献に示している3つのガイドライン『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の総則及び領域「人間関係」に関する記載箇所を熟読しておく。（学習時間7時間）
- （2）テキストlecture 4～lecture 8に示されているエピソードを読み深めておく。（学習時間5時間）
- （3）上記に示したlectureを中心に、テキスト巻末に示されている引用・参考文献、インターネット等を用いて0歳～5歳までの子どもの各年齢の「人間関係」に関わる発達の特性について、簡潔にまとめる。書式は自由、自筆でもワープロでも可、A4用紙1枚～2枚以内の分量にまとめる。＊「社会性」の発達に置き換えて考えても良い。文献やインターネットで探索する場合は、「社会性」のキーワードの方が適切。（学習時間10時間）

スクーリング受講後は、スクーリングでの学びをふまえ、年齢に応じた保育実践上の配慮をまとめる。（学習時間8時間）

受講上の注意事項

- ・上記の事前課題（3）及び参考文献『幼稚園教育要領』他のガイドライン（解説書でも可）を必ず持参すること。
- ・グループディスカッションや個別に発表等も行うので、積極的に授業に参加することが望ましい。
- ・スクーリング最終日の試験は、持ち込み一切不可で行う。
- ・講義の中では、質疑応答の時間も設けるので、疑問などがある場合は、積極的に意見を述べて欲しい。

評価基準

次の観点について、提出物、授業中の発言・発表、試験により評価を行う。

- ・事前課題を行うなど、意欲的に授業に参加できているか 30%
- ・授業内容や受講生同士の意見交流の内容を適切に理解し、自分なりの考察を深めているか 30%
- ・試験問題の趣旨に沿って、授業で学んだ内容について、明確にわかりやすく解答できているか 40%

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・無藤隆 古賀松香 『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは』 北大路書房
- ・無藤隆 『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』 東洋館出版社
- ・『月刊 保育とカリキュラム（保育雑誌）』 ひかりのくに

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20175	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと環境 [1単位/45時間]	科目担当	佐藤 智恵
テキスト	●田宮緑 『体験する・調べる・考える 領域「環境」 第3版』 萌文書林				
ISBN	9784893474278	本体価格(円) (2024年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	24135
実務経験のある教員による科目		保育士			

科目の目的

領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについての専門的知識や技能を身につけることをめざす。領域「環境」の各項目に関する幼児の関わり、捉え方、理解の仕方について、講義形式で学びを深めるとともに、学生自身が乳幼児期に適した活動内容を自ら考え、試行錯誤する中で理解を深める。

到達目標

領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについての専門的知識や技能を身につけ、感性を養う。

- ・幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。
- ・幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。
- ・幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。

授業計画

- 第1回 幼児は季節をどう捉えているか
- 第2回 科学遊びについて
- 第3回 数量・図形などを使った幼児の活動について理解する（DVD視聴を通して考える）
- 第4回 数量・図形などを使った遊びを考える
- 第5回 自然を利用した遊びを考える
- 第6回 標識や文字の必要性について
- 第7回 標識や文字を使った遊びを考える
- 第8回 まとめ（領域「環境」について）と最終レポート

授業方法

- ・領域「環境」の事項に関するグループワーク
- ・DVD視聴後のグループ討議

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・書籍やインターネットから情報を収集し、「数量・図形に関する遊びや活動」を5つ考え、箇条書きで記述したものをスクーリング初日に持参すること。遊び・活動とは、一斉保育の中で行うものだけでなく、自由遊び、また生活の中で行う活動も含めること。活動は、3歳児クラスと5歳児クラスそれぞれ5つずつ（合計10個の遊びや活動）を考えること。持参したものをもとに、当日グループワークを行う。（学習時間13時間）
- ・スクーリング受講後、参考文献『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の保育内容に関する項目を熟読し、領域「環境」についての学びを深める。（学習時間17時間）

受講上の注意事項

- ・初日に持参する「数量・図形に関する遊びや活動」を考えた用紙については、書式のきまりはない。コピー用紙などに各々自由に記述すること。手書きでもWordなどで作成しても構わない。初日終了時に提出するので、学籍番号と名前を記載しておくこと。

評価基準

- ・グループワークへの参加の積極性 30%
- ・レポート 40%
- ・提出物（「数量・図形に関する遊びや活動」の用紙、スクーリング当日に提出を求めるプリント） 30%

参考文献

- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育方針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（平成29年告示）』 チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の❶）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20176	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと言葉 [1単位/45時間]	科目担当	高橋 一夫
テキスト	● 高橋一夫 『ことばを育む・保育に活かす 言語表現 第2版』 みらい				
ISBN	9784860154219	本体価格(円) (2024年1月現在)	1,500	生協 テキストNo.	24136

科目の目的

「言葉」の側面から子ども達の育ちを支えることができる専門性を身に付けるために、グループ活動を通して言葉に関わる児童文化財への理解を深め、保育実践に活かすことができるようにする。

到達目標

子どもの言葉の育ちを支えるために、児童文化財の活用方法を提案できる力を身に付ける。

授業計画

- 第1回 子ども言葉の育ちを支えるための基本の整理
- 第2回 保育・幼児教育における絵本の意味について
- 第3回 絵本の挿絵を論理的に解釈する
- 第4回 絵本の文章を論理的に解釈する
- 第5回 紙芝居を活用する利点について
- 第6回 素話の特徴について
- 第7回 昔話の意義について
- 第8回 子ども言葉の育ちを支える児童文化財の活用方法についてのまとめと、最終レポート

授業方法

- ・テーマに基づいて講義を行い、内容を理解する。
- ・講義内容について、グループでの議論や発表を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

<スクーリング受講前（予習）>（学習時間15時間）

- ・テキストを熟読し、内容について全体的な理解を深めておくこと。
- ・絵本の挿絵および文章の論理的解釈について、スクーリングで実践するため、初日に絵本を1冊持参すること。（絵本は文章量のあるものを選択すること。対象年齢では4歳児以上の作品がよい。）

<スクーリング受講後（復習）>（学習時間15時間）

- ・スクーリングで学習したことを元に、スクーリングで活用した絵本以外で論理的解釈に挑戦すること。
- ・紙芝居を1作品選び、読み聞かせの実践を想定した練習を行うこと。
- ・素話について、昔話のなかから題材を1作品選び、実践を想定した練習を行うこと。

受講上の注意事項

- ・テキストを必ず持参すること。
- ・絵本（対象年齢がおおよそ4歳児以上の文章量がある作品）を必ず持参すること。
- ・グループ活動に積極的に参加すること。

評価基準

- ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、グループ活動への積極的参加など） 50%
- ・レポート 50%

参考文献

- ・三森ゆりか 『絵本で育てる情報分析力ー論理的に考える力を引き出す〈2〉』 一声社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20177	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと音楽表現 [1単位/45時間]				科目担当	高 奈奈
テキスト	● 小林美実 『こどものうた200 保育実用書シリーズ』 チャイルド本社							
ISBN	9784805481004	本体価格(円) (2024年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	24102			
実務経験のある教員による科目		私立幼稚園音楽表現活動講師						

科目の目的

幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいおよび内容を他の領域を踏まえて理解し、幼児の生活や発達に即した保育を行うことができる様々な表現技術を身につける。実務経験を活かして実践的な技術を教授する。

到達目標

- ・子どもの豊かな表現を引き出せるよう、歌唱や器楽の演奏において豊かな表現力を身につける。
- ・これまで実践されてきた保育現場における音楽表現活動や教育法に触れ、その技法を学ぶ。
- ・子どもの姿を想像しながら指導案を作成し、グループでの表現活動を行う。

授業計画

- 第1回 乳幼児と音楽について（領域「表現」について、赤ちゃんを取りまく音の環境、乳幼児の音楽的な発達）
- 第2回 わらべうた・童謡・唱歌への理解を深め、環境や発達に即した音楽表現を考える
- 第3回 様々な楽器の演奏法と表現方法
- 第4回 身の回りのもので作る楽器を保育に取り入れる方法
- 第5回 リトミックを取り入れた音楽表現活動（スカーフ、フープなどを使った活動）、保育現場で歌う季節の歌の歌唱法
- 第6回 様々なリズム（マーチ・スキップ・ギャロップなど）の特性を理解し、子どもの表現を引き出す方法、保育現場で歌う生活の歌
- 第7回 乳幼児の表現を引き出す環境設定、指導計画の作成について、保育現場で歌う行事の歌
- 第8回 保育現場を想定したグループでの表現活動（場面に合わせた効果音を考える）、スケッチブックシアターを用いた歌唱指導

授業方法

- ・講義形式
- ・実技形式
- ・グループによる演習

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

○予習

テキストに掲載されている楽曲の中から、以下の楽曲をアカペラで歌唱できるように繰り返し練習する。あそびうたは、遊び方についても習得すること。（学習時間20時間）

- ①「ちゃちゃつぽちゃつぽ」（p.16）、②「おちゃらかホイ」（p.17）、③「アルプス一万尺」（p.18）、④「これくらいのおべんとぼこに」（p.19）、⑤「おはなしゆびさん」（p.45）、⑥「すうじのうた」（p.27）、⑦「あわてんぼうのサンタクロース」（p.84）、⑧「おはながわらった」（p.104）、⑨「とんぼのめがね」（p.116）、⑩「やまのおんがくか」（p.149）、⑪「おつかいありさん」（p.160）、⑫「てのひらをたいように」（p.197）、⑬「おばけなんてないさ」（p.201）

○復習

授業の中で学んだ手遊びや子どもの歌を繰り返し練習し、表情豊かに表現する。（学習時間10時間）

受講上の注意事項

- ・身体表現を伴うため、動きやすい服装・靴で受講すること。
- ・感染症等が流行傾向にある場合は、不織布マスクを着用して受講すること。
- ・状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。

評価基準

- ・授業への取り組み 60%
- ・グループによる発表 20%
- ・確認テスト 20%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の❶）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20178	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと造形表現 [1単位/45時間]	科目担当	須増 啓之
テキスト	● 松岡宏明 『子供の世界 子供の造形』 三元社				
ISBN	9784883034208	本体価格(円) (2024年1月現在)	1,700	生協 テキストNo.	24138
科目の目的 領域「表現」（造形表現）の内容について解説し、個人や共同での制作活動を通して、乳・幼児期の子供の造形表現について体験的に理解する。そして、様々な材料や表現方法、用具に触れることで指導実践に生かすことのできる基礎的な知識や技術を習得する。また、活動を通して描いたり、つくったり、見たりすることの楽しさを味わい、造形を愛好する心情を養う。 到達目標 ・ 様々な素材や材料、道具に触れ、その特性を生かし、乳・幼児期における多様な表現活動及び展開についての基礎的な知識や技術、発想や構想の能力を身につける。 ・ 制作活動や鑑賞活動を通して感性を豊かにし、他者の考え方や造形に触れながら自分とは異なる表現を楽しみ、受容することができるようになる。 ・ 乳・幼児期の造形表現や内容について、活動を通して理解する。 ・ 造形活動へのイメージを広げて、造形指導への意欲を培う。 ・ 活動について自分なりに体験を分析し、記録としてまとめることができる（授業外学習）。 授業計画 第1回 オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認など）、及び領域「表現」（造形表現）における子供の活動や保育者の役割について考える 第2回 技法から始まる造形活動の体験 ～線や色との出会い～、及び描画材の基礎・基本 第3回 目的から始まる造形活動の展開① ～テーマ（季節）から表現を考えよう～ 第4回 目的から始まる造形活動の展開② ～テーマ（しかけ）からおもちゃをつくろう～、及び人工材の基礎・基本 第5回 材料から始まる造形活動の体験 ～自然材を使って遊ぼう～、及び自然材の基礎・基本 第6回 感触を楽しむ造形活動の体験 ～材料を変化させて自作の粘土をつくろう～、及び粘土の基礎・基本 第7回 子供が始めて出会う芸術表現としての絵本 ～絵本の絵や構成を見てみよう～ 第8回 子供の作品や活動などから乳・幼児期の表現での子供の姿について考える [映像資料の活用]、及び情報機器を使用した過程の記録の重要性について 授業方法 造形遊びや造形表現、鑑賞などの実技（講義を含む）と講義を行う。 授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・ 授業での学習を深めるために、スクーリング受講前までにテキスト（pp.12-67）や参考文献を読んだり、インターネットで調べたりして、乳・幼児期の子供の造形表現や内容について予習しておくこと。（学習時間5時間） ・ スクーリング受講後は、参考文献に挙げている書籍などに載っている授業で取り組まなかった表現技法やさらに深めたい表現（授業で十分にできなかった表現を含む）などに各自取り組むこと。（学習時間15時間）また、学んだことや授業や授業外に活動した作品のつくり方や工夫点、難しかった点、活動後の変化などについて、自分なりに写真などを使ってノートやデータ（WordやPowerPointなど）に視覚的にまとめて、学びを分析し深めること。（学習時間10時間） 受講上の注意事項 【受講に関する注意等】 ・ 描いたり、つくったりすることが苦手でも構わない。失敗を恐れず、チャレンジすることが大切である。個人活動だけでなくグループ活動も行うので、積極的に参加すること。 ・ 実技がメインとなるため、汚れを気にしない服装やエプロンなどを持参して受講すること。 【持参する物】 ・ 指定テキスト ・ 以下の材料・用具（忘れると活動できないので、必ず各自準備のうえ持参すること。） [1日目で使用予定] 水彩用具（水彩絵具・筆・筆拭き用の布 ※パレットや筆洗は大学で貸し出し可。）、パス（クレパスなど）、はさみ、カッターナイフ、のり、セロテープ、両面テープ、木工用接着材 ※上記の材料、用具類は「美術」、「教科教育法・図画工作」でも使用する。なお、授業の進み具合などによって使用しない場合もある。 評価基準 ・ 活動（制作・鑑賞）への取り組み 80% ・ レポート 20%					

参考文献

- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 <原本> (平成29年告示)』 チャイルド本社
- ・松岡宏明 『子供に子供の美術を』 三元社
- ・平田智久 『<感じること>からはじまる 子どもの造形表現』 教育情報出版
- ・榎英子 『保育をひらく造形表現 第2版』 萌文書林
- ・大橋功 『美術教育概論 新訂版』 日本文教出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」のX)を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20179	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと身体表現 [1単位/45時間]	科目担当	岩濱 里江子
テキスト	●文部科学省『幼児期運動指針ガイドブック』 サンライフ企画				
ISBN	9784904011478	本体価格(円) (2024年1月現在)	1,300	生協 テキストNo.	24039
実務経験のある教員による科目		公立幼稚園教諭・園長、教育委員会（指導主事）			

科目の目的

幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における身体表現の意義とねらい、保育者の指導方法について、具体的な実践を通して学ぶことを目的とする。身体表現の基礎的な技能の習得をするとともに、年齢による身体表現の内容、環境構成、教師の援助の工夫の大切さとともに、身体表現による子どもの育ちについて、実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・幼児にとっての身体表現（運動遊び）の意義と身体表現を通した学びについて理解する。
- ・身体表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の身体表現を支えるための感性を豊かにする。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業展開説明等）
- 第2回 音楽を取り入れた身体表現の展開と基礎的な機能の獲得
- 第3回 身体活動（運動遊び）の展開と指導方法
- 第4回 用具を使った身体表現活動の展開と指導方法
- 第5回 体験したことを表現する身体表現の展開と指導方法
- 第6回 確認テスト（身体表現実技）
- 第7回 身体活動・身体表現の振り返り・指導方法
- 第8回 第1回～第7回を振り返り、子どもと身体表現について理解する

授業方法

- ・身体表現の実技を中心に授業を展開し、実技内容に関する解説等については随時行う。
- ・学習内容に応じて小グループを作り、活動する。
- ・学習成果の発表（身体表現実技）を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

<スクーリング受講前（予習）>

授業は、軽度のリズムカルな表現的運動による実技（身体表現）を中心とするため、効果的に学習できるように備えることを目的とし、ウォーキングやストレッチなどで自分自身の身体を整えて、準備しておくこと。（学習時間20時間）

<スクーリング受講後（復習）>

スクーリングで学習した内容について、さらに理解を深めるように、自分なりにノートにまとめたり、実技を復習したりする。（学習時間10時間）

受講上の注意事項

- ・将来、保育者をめざす人には必要な身体表現活動なので、積極的に参加すること。
- ・実技の際は、運動着やジャージ等の動きやすい体育実技の服装等で臨むこと。（髪は括り、アクセサリーは外す）
- ・持ち物：筆記用具、書く時の下敷き代わりにする物、体育館シューズ、汗拭きタオル、水分補給用飲み物

評価基準

- ・確認テスト（身体表現実技） 20%
- ・レポート 20%
- ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、グループ活動など） 60%

参考文献

- ・文部科学省『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20180	科目名	保育・教職実践演習(幼) [2単位／90時間]			科目担当	北野 富美子・横田 郁子 久保木 亮子
		[単位数／学習時間]					
テキスト		● 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（平成29年告示）』チャイルド本社					
ISBN	9784805402580	本体価格(円) (2024年1月現在)	500	生協 テキストNo.	24100		
実務経験のある教員による科目		北野：公立保育士（主任・所長）、地域子育て支援センター長 横田：公立幼稚園教諭、園長 久保木：公立保育園長、公立保育園・幼稚園兼務園長、子育て支援センター長					

科目の目的

保育・幼児教育の担い手としての生活をより円滑にスタートできるよう、保育者になる上で必要な資質能力について自己の課題を自覚し、不足している知識や技術等を必要に応じて補い、その定着を図る。

到達目標

- ・ 保育者として、使命感・責任感・教育保育的愛情等を有している。
- ・ 社会性や対人関係能力を有している。
- ・ 子どもを理解し、学級経営等を行うことができる。
- ・ 保育内容等を豊かに開発し、これを保育実践に計画的に生かしつつ指導することができる。

授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 これまでの学習の振り返り

第3回 乳幼児の発達、生活と遊び

第4回 保育内容の理解と確認

第5回 全体的な計画と指導計画、クラス運営

第6回 子どもの健康、安全

第7回 子ども、保護者、職場、地域との関わりと連携

第8回 特別な支援を必要とする子どもへの対応

第9回 小学校との連携

第10回 少子化等現代社会における課題

第11回 模擬保育に向けての指導案作成

第12回 模擬保育①

第13回 模擬保育②

第14回 職業倫理、資質能力の確認

第15回 まとめ（保育者に求められる資質）と確認テスト

授業方法

- ・ これまでの学びの総仕上げとして、今後の実践力に結びつくよう、実習体験、実習日誌からの振り返りや模擬保育等を通して、保育内容、子ども理解を深める。
- ・ 保育のあり方や保護者支援、子育て支援の現状を理解するためにDVD視聴や実践者の話を聞く。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・ 保育所実習、施設実習、幼稚園教育実習の実習日誌を読み返し、気づいた点を記録する。（学習時間10時間）
- ・ 保育内容の科目の学習や実習を振り返り、自身の課題についてまとめておく。（学習時間 8 時間）
- ・ テキストを読む。（学習時間17時間）
- ・ 模擬保育の指導案、準備物を作成する。（学習時間11時間）
- ・ 保育者として必要な資質についてまとめておく。（学習時間14時間）

受講上の注意事項

- ・ 主体的、意欲的に受講し、学生同士互いに学びあえるよう、積極的な姿勢で授業に臨むこと。
- ・ 保育者の職務と責任を自覚し、資質の向上につながる学びにすること。

評価基準

- ・ 授業への取り組み（授業態度、関心、意欲、発表、表現等） 50%
- ・ 確認テスト 50%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

福祉臨床学科専門教育科目群

科目コード	30010	科目名 [単位数/学習時間]	社会福祉学演習Ⅱ [2単位/90時間]	科目担当	菊池 信子
テキスト	スクーリング時に資料を配付する。				
ISBN		本体価格(円) (2024年1月現在)		生協 テキストNo.	
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

社会福祉学の研究について、研究の方法を習得し、各自が関心あるテーマについて、研究の目的、計画、方法、タイムスケジュールを設定して、経過の報告をしながら、独自の論文を完成させ、発表を行う。

なお、領域として、ソーシャルワーク実践として網羅すると考えられる幅広い内容のなかから、各自が関心ある内容をテーマとすること。家庭裁判所調停委員の実務経験を活かし、人権、支援をキーワードとしてあげておく。また、大学内のパソコンを活用し、検索、レポート・パワーポイントを作成し、発表する。

到達目標

自ら設定したテーマについて論文作成方法に則ったレポートを作成し、発表要旨を作成し、パワーポイントを作成して発表し、聴衆の質問にも適切に答えられるようプレゼンテーション力をつける。

授業計画

- 第1回 社会福祉研究の方法について
- 第2回 関心ある社会福祉問題の研究の進め方について
- 第3回 関心ある研究テーマの設定について
- 第4回 取り上げる理由と進め方の案について
- 第5回 テーマの研究手法（文献研究、調査研究、事例研究、実証研究等）について
- 第6回 研究計画と資料収集について
- 第7回 論文の構成、書式、実証研究の具体化について
- 第8回 個別テーマの選定、報告
- 第9回 個別テーマの研究の進め方
- 第10回 個別テーマの検証方法（協力、依頼等の方法）
- 第11回 個別テーマの研究報告（中間）
- 第12回 個別テーマの内容構成
- 第13回 個別テーマの論文の要旨（パワーポイント）作成
- 第14回 論文の発表①
- 第15回 論文の発表②

授業方法

講義、パソコンを活用しての検索、個別指導、論文・発表資料作成、討論を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

自身が関心ある福祉問題について、あらかじめ十分に考え、関連資料を収集、用意してくること。そのため、研究素材の収集に20時間、研究方法の検討に20時間、資料検索・精査に20時間の学習（予習）時間が必要になる。

受講上の注意事項

- ・USBメモリーを持参すること。
- ・Wordが使えるようにしておくこと。

評価基準

- ・目標に達しているかを次の①～④で評価する。
 - ①レポート構成・内容 30%
 - ②発表準備 30%
 - ③発表態度 30%
 - ④質疑への参加態度等 10%

参考文献

スクーリング中に適宜紹介する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	30027	科目名 [単位数/学習時間]	障害児保育論Ⅰ [1単位/45時間]	科目担当	細木 玉恵
テキスト	● 鶴宏史 『障害児保育』 晃洋書房				
ISBN	9784771030367	本体価格(円) (2024年1月現在)	3,000	生協 テキストNo.	24073
実務経験のある教員による科目	公的機関・研究機関での発達支援、相談援助				

科目の目的

保育所・幼稚園・認定こども園などの就学前施設には、特別な支援を必要とする子どもが数多く在籍している。本科目では、障害児保育に必要な基本的知識や、保育者の基本姿勢、保育のあり方について学び、子どもたちが、いきいきと生活していくための援助方法について理解することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・子どもの発達と、さまざまな障害の特性について理解する。
- ・特別な支援を必要とする子どもの行動の背景を知り、支援のあり方を理解する。
- ・特別な支援を必要とする子どもの保育に必要な連携や協働について理解する。
- ・個々の特性に応じた支援や、環境設定について理解する。

授業計画

- 第1回 障害の定義、障害児保育の基本理念
- 第2回 障害の理解と支援① 肢体不自由・知的障害
- 第3回 障害の理解と支援② 発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD・LD）
- 第4回 障害の理解と支援③ 視覚障害・聴覚障害
- 第5回 障害児保育の実践① 全体的な計画に基づく指導計画と個別の支援計画
- 第6回 障害児保育の実践② 遊びや生活の援助と環境構成
- 第7回 障害児保育の実践③ 家庭や関係機関との協働
- 第8回 まとめ（講義のふりかえり）、確認テスト

授業方法

- ・講義、グループワークを行い、発表・討論する。
- ・適宜視聴覚教材を使用し、内容について討論する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

＜スクーリング受講前 予習＞ 課題はA4用紙にまとめ、スクーリング初日授業開始時に提出する。

テキスト第Ⅰ部～第Ⅴ部を一読し、理解を深めておく。（学習時間15時間）

【課題1】肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、知的障害、発達障害について、それぞれの障害特性と支援を1,200字程度にまとめ提出する。（ワープロソフト使用可）

【課題2】知的障害、または発達障害のある5歳児を対象にした遊びを1つ取り上げ、障害特性に応じた支援を指導案にまとめ提出する。自由書式とする。この課題をもとに、2日目グループワークを行う。（学習時間3時間）

＜スクーリング受講後 復習＞

配付資料やテキストをよく読み復習する。書籍や新聞などで障害児保育や特別な支援を必要とする子どもに関する事項について確認し、理解を深めること。（学習時間12時間）

受講上の注意事項

- ・テキスト、事前課題1・2（学籍番号、氏名を明記）を持参すること。
- ・グループワーク、発表・討論の時間は、それまでの学習をより深められるよう積極的に取り組むこと。

評価基準

- ・講義やグループワークに臨む態度 20%
- ・課題や講義時間内に指示した小レポート 30%
- ・確認テスト（記述形式） 50%

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
 - ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
 - ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ※テキストに記載されている参考文献にも興味を持ち、理解を深めること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩ）を参照すること。

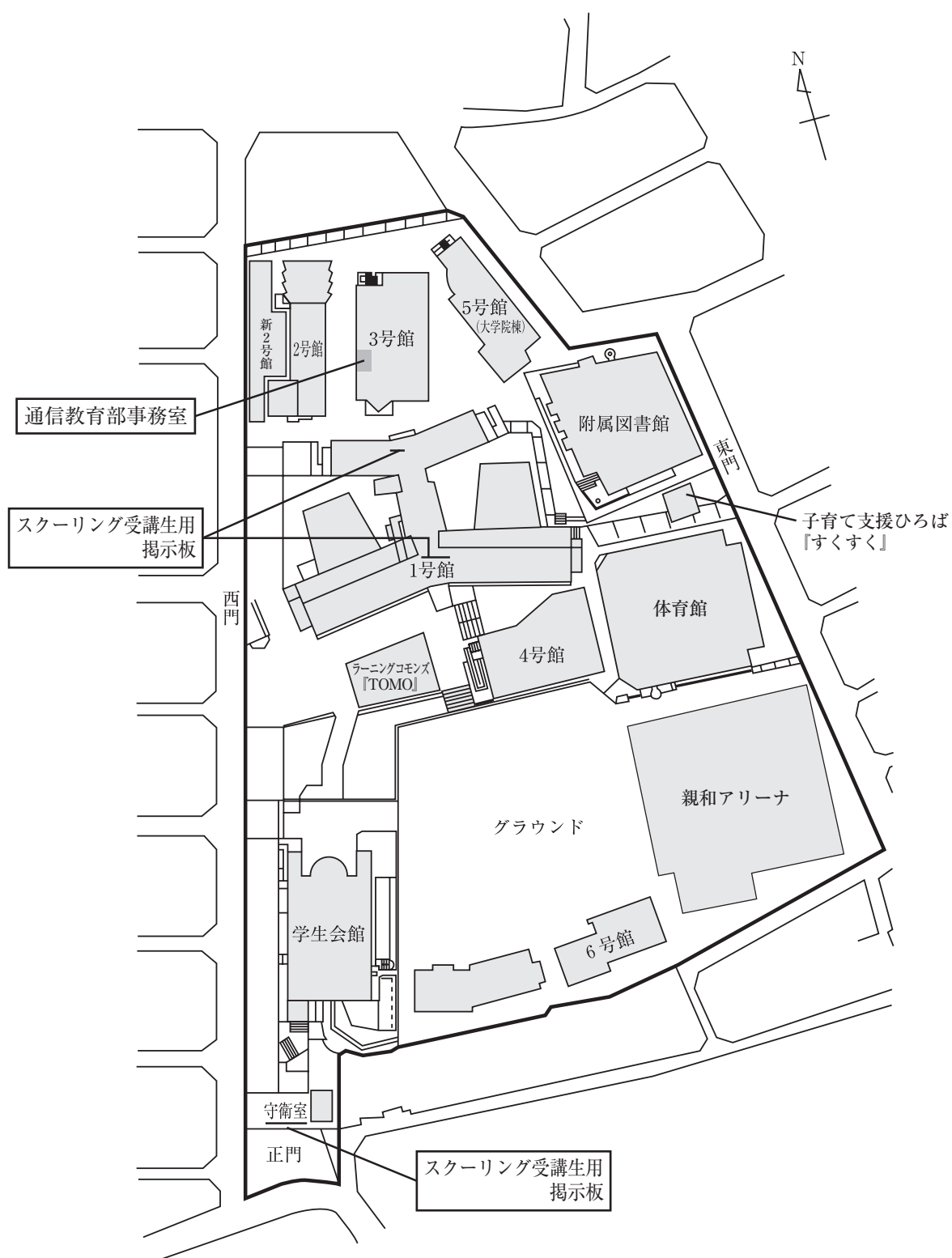
課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

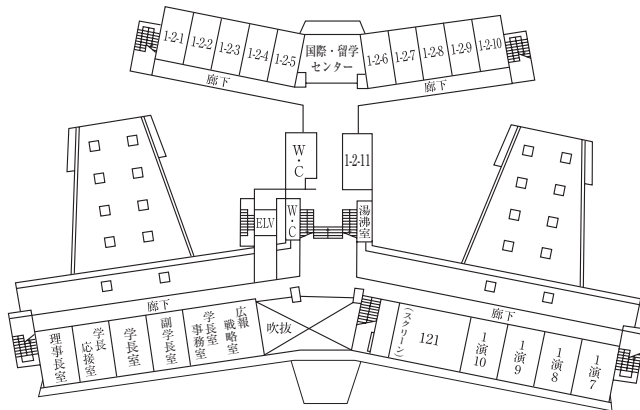
校 舎 配 置 図

[2024 年 1 月 現在]

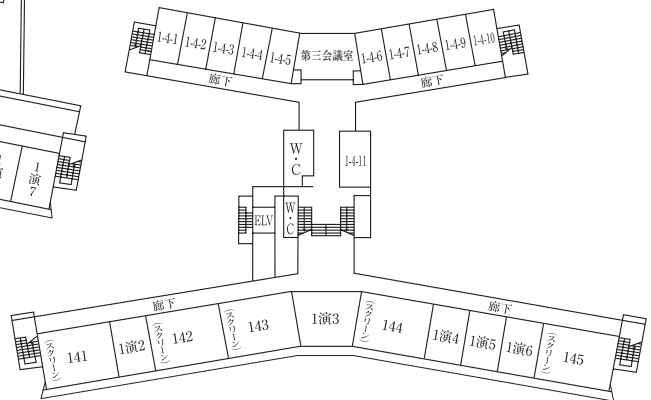
全体配置図



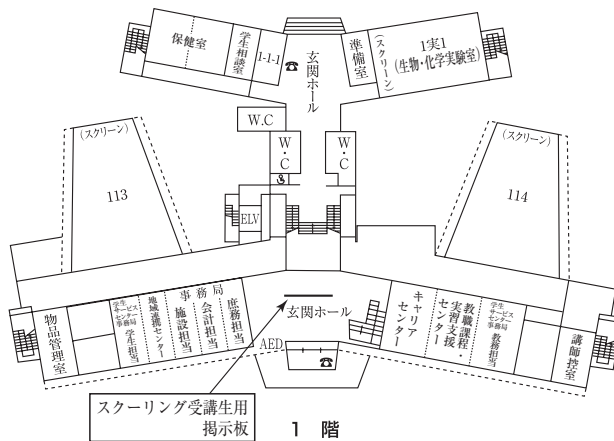
1 号 館



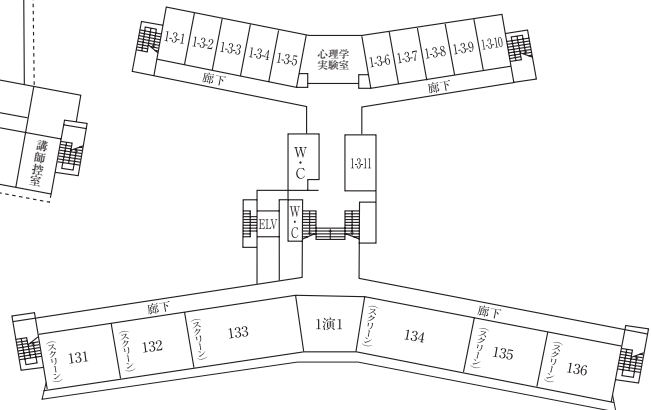
2 階



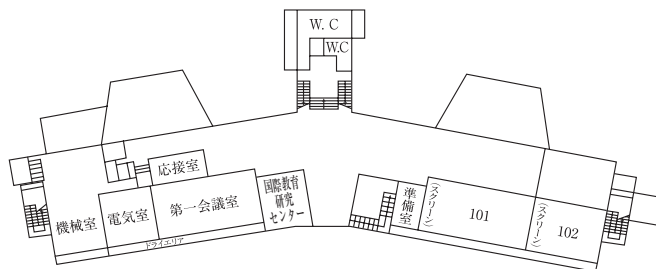
4 階



1 階

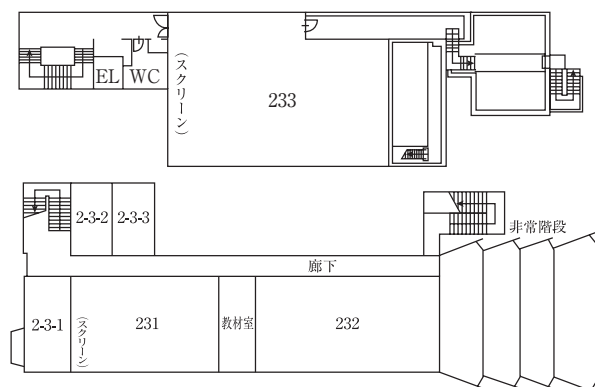


3 階

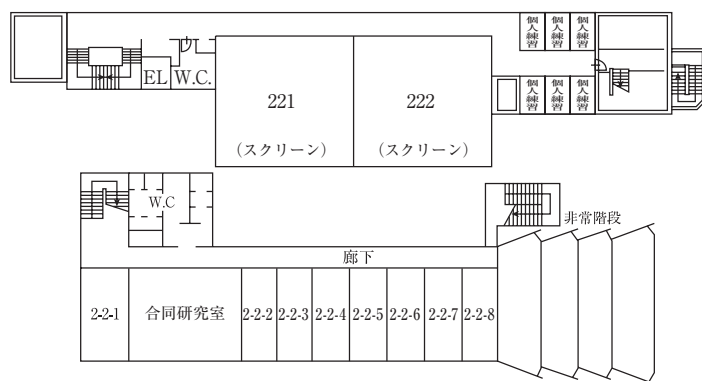


B 1 階

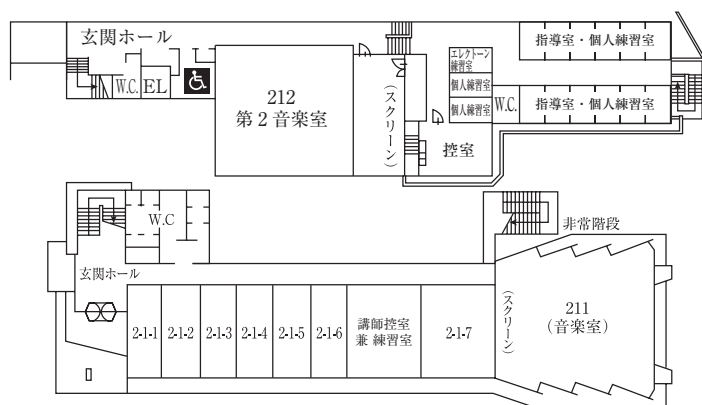
2号館・新2号館



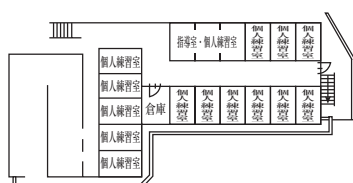
3 階



2 階

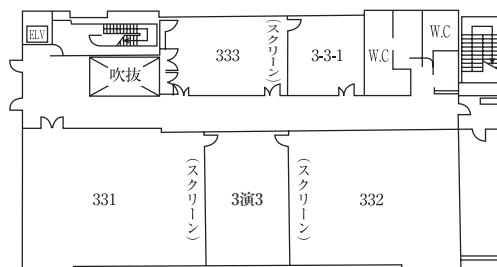


1 階

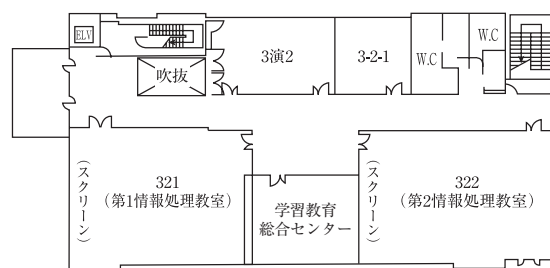


B 1 階

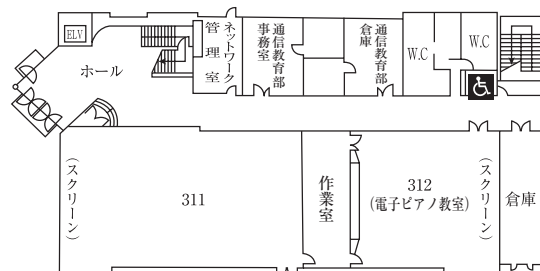
3号館



3 階

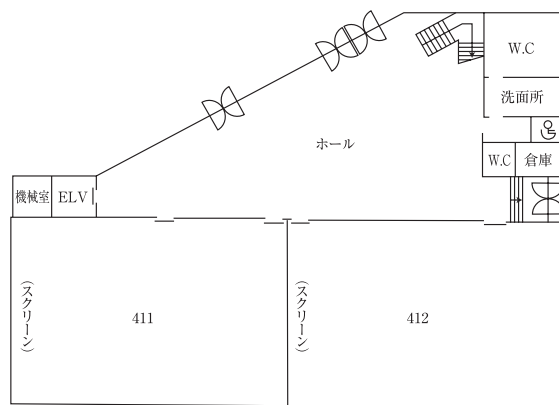
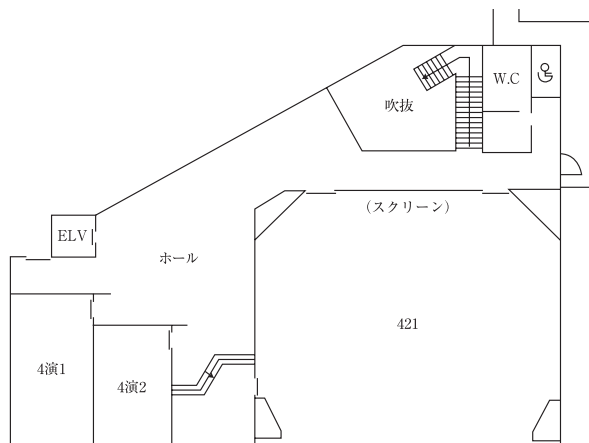


2 階

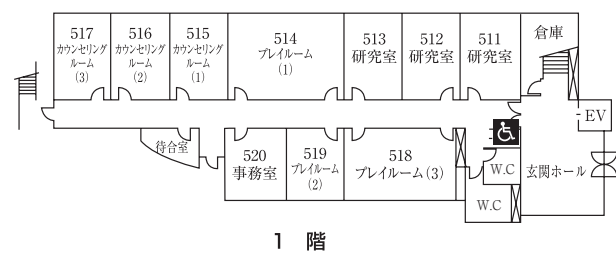
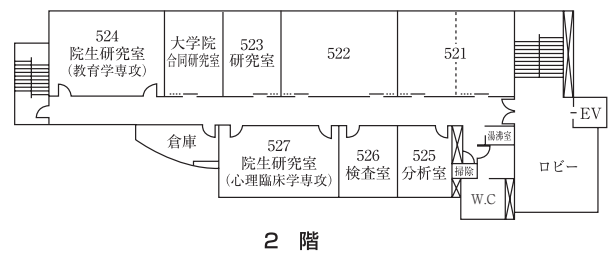
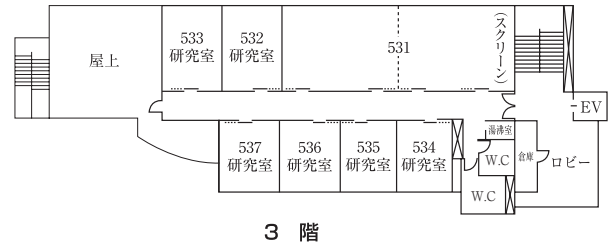


1 階

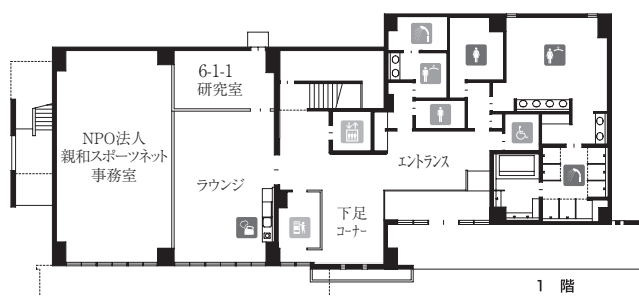
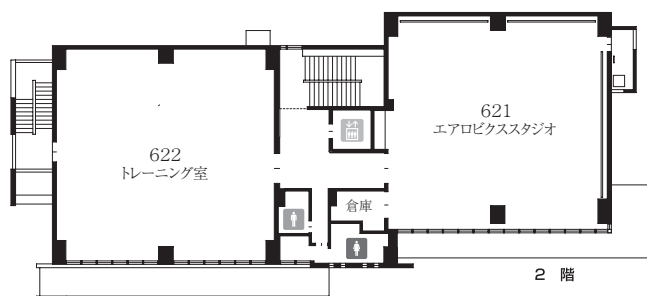
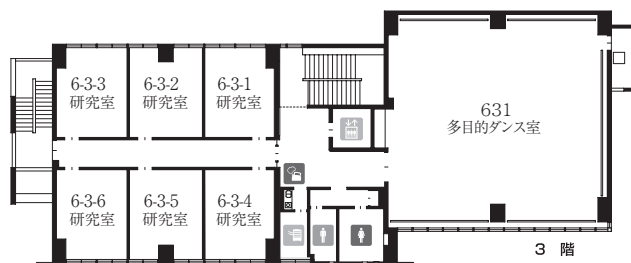
4 号 館



5 号 館



6 号 館



親 和 ア リ ー ナ

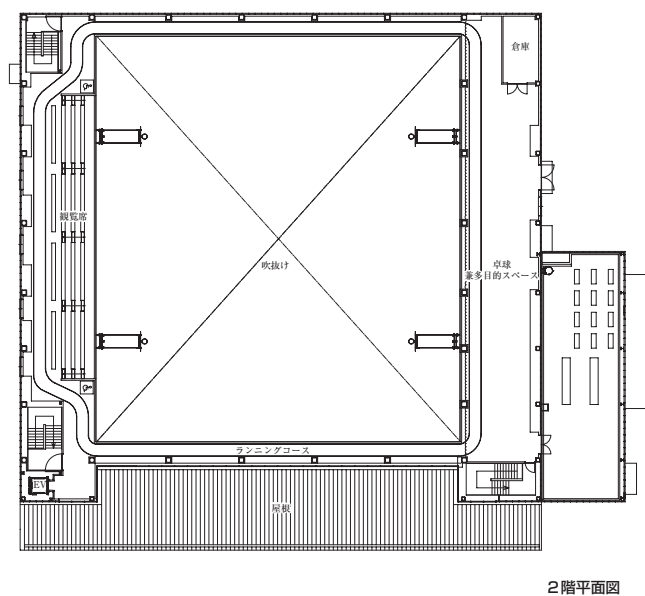
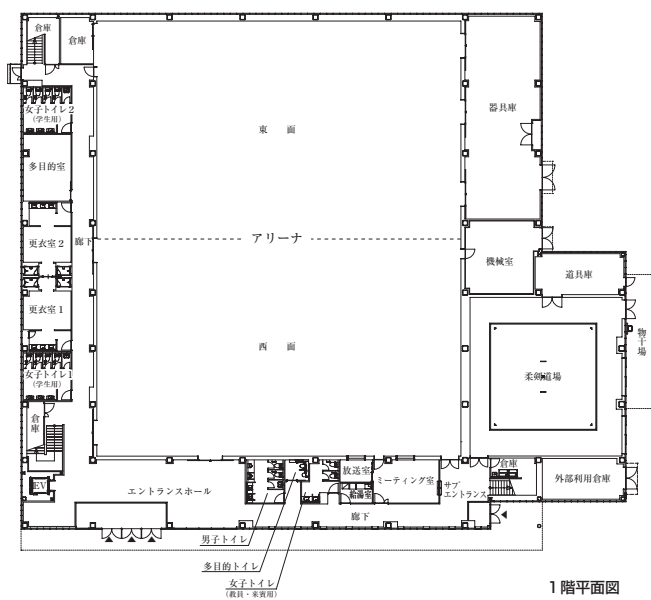
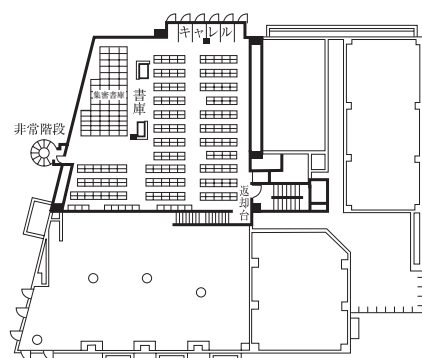
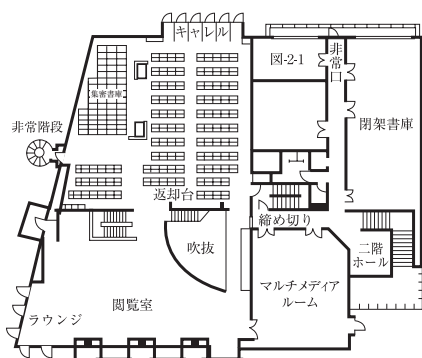


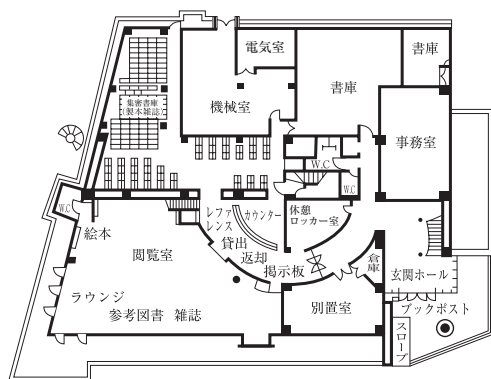
図 書 館



3 階

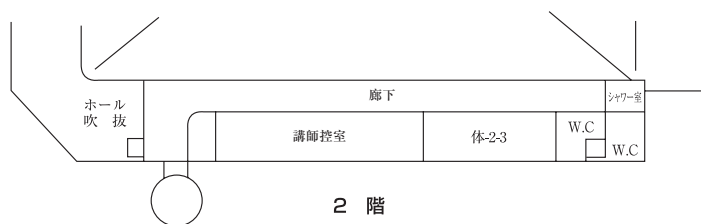


2 階

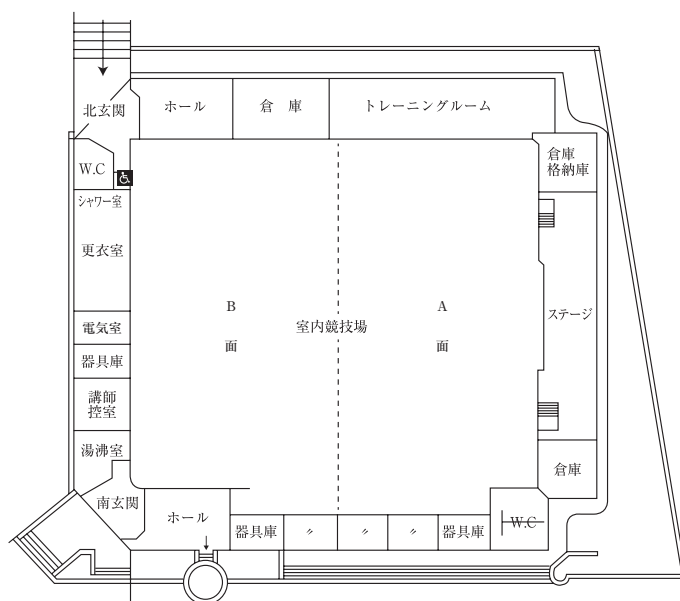


1 階

体 育 館

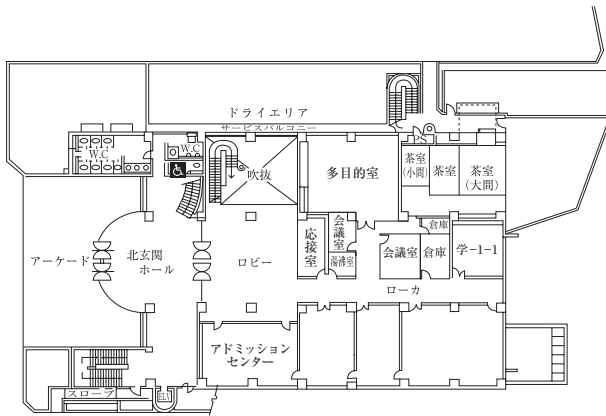


2 階

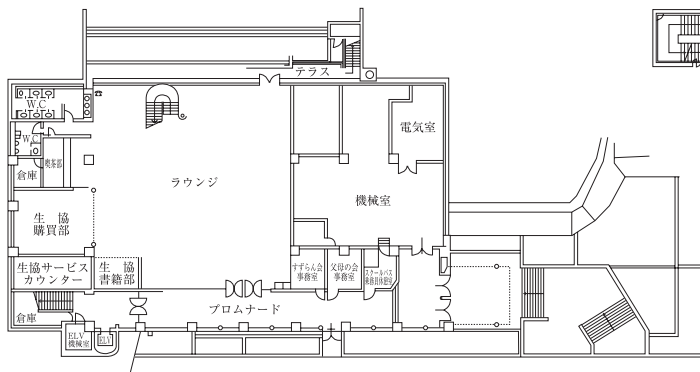


1 階

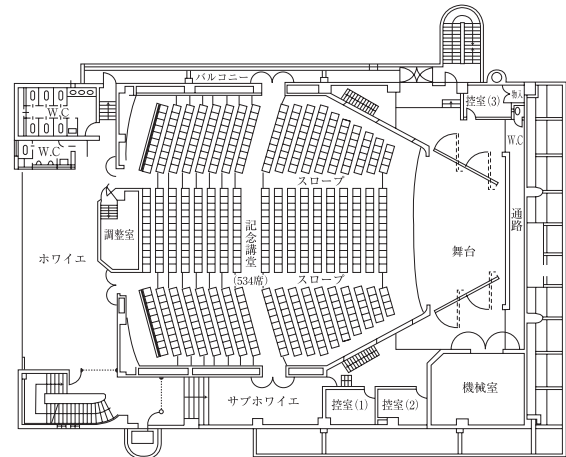
学生会館



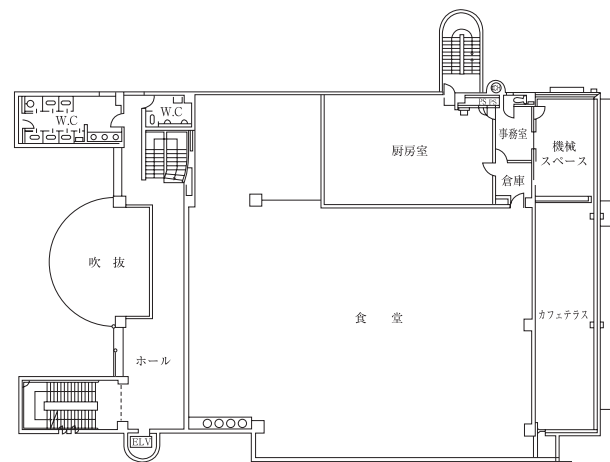
1 階



B 1 階



3 階



2 階



FAX番号
神戸親和大学生協 通信テキスト係
078-595-0565

〒651-1111 神戸市北区鈴蘭台北町7-13-1
TEL 078-595-0303

『通信教育部』専用 テキスト購入FAX(郵送)申込書

お届け方法（いずれかに○をつける）		★組合員の方は組合員番号をご記入ください。 ご記入のない場合は組合員割引になりません ので、ご了承ください。	
☐ 下記住所に郵送 ☐ 神戸親和大学内 生協店舗での受取り			
学籍番号		学 科	
郵便番号	〒 —	組合員番号	
ご 住 所	ふりがな		
お 名 前	ふりがな		電 話 番 号（携 帯 番 号）
e - m a i l			F A X 番 号
			

※単価・金額は本体価格にて計算のこと

テキストNo.	書 名	数 量	単 価	金 額
★太枠の中の必須事項をお書き込みください。 ★ご注文が2枚以上にわたる場合は送付枚数をご記入の上まとめてお送りください。		お申込金額		
ご自宅等に送付希望の方には、後日請求書をお送りいたしますので、指定の口座にお振込みください。入金		合 計		

★ご請求時には合計金額に対して消費税が加算されます。

※生協出資金をお振込みの方で組合員証がお手元に届いていない方は、お振込み日をご記入ください。

送付枚数

枚

月	日	振込済み
10	10	100000
10	20	200000
10	30	300000
11	10	400000
11	20	500000
11	30	600000
12	10	700000
12	20	800000
12	30	900000
1	10	1000000
1	20	1100000
1	30	1200000
2	10	1300000
2	20	1400000
2	30	1500000
3	10	1600000
3	20	1700000
3	30	1800000
4	10	1900000
4	20	2000000
4	30	2100000
5	10	2200000
5	20	2300000
5	30	2400000
6	10	2500000
6	20	2600000
6	30	2700000
7	10	2800000
7	20	2900000
7	30	3000000
8	10	3100000
8	20	3200000
8	30	3300000
9	10	3400000
9	20	3500000
9	30	3600000
10	10	3700000
10	20	3800000
10	30	3900000
11	10	4000000
11	20	4100000
11	30	4200000
12	10	4300000
12	20	4400000
12	30	4500000
1	10	4600000
1	20	4700000
1	30	4800000
2	10	4900000
2	20	5000000
2	30	5100000
3	10	5200000
3	20	5300000
3	30	5400000
4	10	5500000
4	20	5600000
4	30	5700000
5	10	5800000
5	20	5900000
5	30	6000000
6	10	6100000
6	20	6200000
6	30	6300000
7	10	6400000
7	20	6500000
7	30	6600000
8	10	6700000
8	20	6800000
8	30	6900000
9	10	7000000
9	20	7100000
9	30	7200000
10	10	7300000
10	20	7400000
10	30	7500000
11	10	7600000
11	20	7700000
11	30	7800000
12	10	7900000
12	20	8000000
12	30	8100000
1	10	8200000
1	20	8300000
1	30	8400000
2	10	8500000
2	20	8600000
2	30	8700000
3	10	8800000
3	20	8900000
3	30	9000000
4	10	9100000
4	20	9200000
4	30	9300000
5	10	9400000
5	20	9500000
5	30	9600000
6	10	9700000
6	20	9800000
6	30	9900000
7	10	10000000
7	20	10100000
7	30	10200000
8	10	10300000
8	20	10400000
8	30	10500000
9	10	10600000
9	20	10700000
9	30	10800000
10	10	10900000
10	20	11000000
10	30	11100000
11	10	11200000
11	20	11300000
11	30	11400000
12	10	



神戸親和大学
KOBE SHINWA UNIVERSITY

通信教育部事務室

〒651-1194 神戸市北区鈴蘭台北町7-13-1

TEL 078-591-8796 FAX 078-591-8797

URL <https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/>